

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎邊木園幸 毛利聖子 山岡深雪 岩江荘介			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護実践を導く理論の発展過程をたどりながら、日々の看護活動にとっての実践方法論の必要性及び看護実践そのものを学的対象としてとらえるための研究方法論について探究する。
授業計画	<p>1-2回 【ガイダンス】 <導入> 学習内容の紹介と学習課題の確認 院生の問題意識や研究動機について、自分の言葉で表現、質疑応答 1 看護実践の特性と理論とは何かについて 2 実践領域における理論の発展過程について 3 精読の方法について</p> <p>3-6回 F.Nightingale看護論と「科学的看護論」 1. F.Nightingaleが示した<三重の関心>について、具体的な看護現象とつなげて討議を行う。 2. 看護実践における実践方法論の必要性について、研究成果をもとに討議を行う。 3. 『科学的看護論』を読み込み、実践を導く理論の理解を深める 文献購読①・討議 文献購読②・討議</p> <p>7-10回 <実践方法論の理解> 自己の看護実践を材料にプレゼンテーション・討議</p> <p>11-14回 <学的方法論の理解> 学的方法論とは何か 学的方法論をどのように使うか 学的方法論を用いた取り組みの例を知り、学的方法論の理解を深める。 自己の看護実践を材料に論理を抽出する</p> <p>15回 【まとめ】 『科学的看護論』をもとに看護学の発展の方向性を探究する。</p> <p>*日程は調整します。 *予習・復習・事前課題などは、講義の中で連絡します。 *授業方法は、講義および討議です。 *担当教員は、総合病院での臨床経験を積み、看護教育に携わっています。</p>
授業形態	講義
到達目標	1. 看護理論は看護実践そのものから一般化されてきた認識であることがわかる。 2. 実践方法論の必要性について理解する。 3. 看護学研究に不可欠な研究方法論について理解する。 4. 看護一般論の有用性について、自己の実践とむすびつけて理解できる。
評価方法	授業への参加状況（50%）、レポート（50%）による総合評価 総点100点に対する成績評価区分S～Dは、履修規定の通りです。
教科書	フローレンス・ナイチンゲール：看護覚え書 改訂第8版 現代社 薄井坦子：科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会 そのほか、資料については随時配布
参考書・参考文献	F.Nightingale:NOTES ON NURSING（原文 看護覚え書） 原文看護学選集1 現代社
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎邊木園幸 毛利聖子 山岡深雪 岩江荘介			
添付ファイル			

授業の目的・概要	実践事例の構造分析に取り組み、実践方法論と研究方法論の修得過程を高める。
授業計画	<p>1回 ガイダンス 学習内容のオリエンテーションと学習課題の確認</p> <p>2-20回 看護実践の再構成と論理の抽出：実践方法論および研究方法論の意識的適用に取り組む 1 自己または他者の看護実践の再構成を行う。 2 目的意識に照らして、論理を抽出する。 3 抽出した論理から実践方法論の修得過程を自己評価する。 4 上記の検討を積み重ね（研究方法論の意識的適用）、実践方法論の修得過程を高めるための方向性を明確にしなが、実践方法論の意識的適用過程を辿る。</p> <p>21-30回 自己の問題意識にそって文献検討を行い、研究課題としての意義を検討し、テーマを明確化し、研究方法を検討する 1 体験に根ざした看護現象から生まれた自己の問題意識に関連する先行研究を選定する。 2 選定した論文を精読し、どのような方法を用いて、どのようなことが明らかになっているのか、自己の問題意識との関連を検討し、看護学研究としての意義を探究し、研究課題を定めていく。 3 研究課題を解明するためのに必要な研究方法を検討する。</p> <p><上記について、プレゼンテーションを行い、討議を積み重ねる></p> <p>*日程は調整します。 *予習・復習・事前課題などは、講義の中で連絡します。 *方法は、プレゼンテーション・討議を行います。 *教員は総合病院での臨床経験を積み、看護教育に携わっています</p>
授業形態	演習・発表・討議
到達目標	1 自己または他者の看護実践における看護理論の適用過程を辿る。 2 自己または他者の看護実践から論理を抽出し、実践方法論の修得過程を高めるための方向性を定める。 3 自己の研究課題について、研究方法論に照らして、文献検討を行い、テーマ・目的・研究方法を検討して研究計画を作成する。
評価方法	参加状況（20%）、レポート（40%）、研究計画書（40%）による総合評価 総点（100点）に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおりです。
教科書	
参考書・参考文献	薄井坦子編：ナイチンゲール看護論の科学的実践（1）～（5）現代社
履修条件	
科目等履修	可 ただし、関連科目である基礎看護学特論を履修しておくこと
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎勝野絵梨奈			
添付ファイル			

授業の目的・概要	教育とは何か、看護学教育とは何かについて、関連する諸理論をもとに講義する。看護教育制度の変遷を概観し、学問としての成立と専門職者育成のための制度整備の過程を理解することを通して、看護学教育の特質について考察する。看護実践能力の向上につながる教育・指導方法について、学生の自己評価能力の育成をめざした教授－学修過程の実践から講義する。また、指導力の向上に重要な意味を持つ指導観形成については、臨地での実習指導場面および自己の指導過程の分析を通して、指導観形成につながる方法への理解を深める。
授業計画	<p>1回 【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容の紹介と学習課題の確認 ・ 看護教育に関する諸理論や主要概念について <p>2－4回 【看護学教育と教育法規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護学教育とは ・ 看護学教育と教育法規について ・ 日本の看護学教育制度の変遷とその特色 ・ 諸外国の看護学教育制度について ・ 看護学教育の課題について <p>5－9回 【看護教育方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育方法の概念と諸理論 ・ 看護学教育における＜教授－学修＞過程の特質について教えることと学ぶこと ・ わかることとは ・ 授業設計と指導案作成、教材研究について ・ 授業分析・評価について <p>授業設計と指導案作成の実際として、グループワークにより指導案を作成し、模擬授業を行う。</p> <p>10－14回 【看護学教育における看護学実習の位置づけと実習指導論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護学教育における看護学実習の位置づけ ・ 臨地実習指導論について <p>Ernestine Wiedenback 「臨床実習指導の本質」より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨地実習の＜教授－学修過程＞の構造を理解し、学生の看護の学びを支援する指導のあり方について理解を深める。他者の実習指導の実践から、臨地実習の＜教授－学修過程＞の構造を理解し、指導過程を再構成する方法、看護観に照らしながら評価・分析する方法について理解する。上記の実習指導論を活用して、自己の実習指導の実践から、問題意識にそって具体的な指導場面をとりあげ、指導過程の評価・分析を行う。一連のリフレクション活動から得ることができた自己の指導上の実践知について、プレゼンテーションを行う（グループ討議）。 <p>15回 【まとめ】</p> <p>以上の学修成果をもとに、関心をもった論文を取り上げ、プレゼンテーションを行う（グループ討議）。</p> <p>講義資料及び文献等は随時提示する。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学教育の特質とその課題について説明できる。 2. 看護学教育に関連する法規を説明できる。 3. 日本の看護教育制度の変遷とその特色を説明できる。 4. 看護教育方法と評価の視点について説明できる。 5. 授業設計・授業分析への理解が深まる。 6. 実習指導のあり方について理解を深め、臨地実習指導論に基づく指導過程の分析・評価をすることができる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーション内容（40%） 2. レポート（40%） 3. 授業への参加状況・姿勢（20%）
教科書	<p>薄井坦子：科学的看護論 第3版、日本看護協会出版会、1997.</p> <p>薄井坦子：Module方式による看護方法実習書、現代社、2004.</p> <p>杉森みど里、他；看護教育学 第7版、医学書院、2021.</p>
参考書・参考文献	ドナルド・A・ショーン：省察的実践とは何か、鳳書房、2007. 他 適宜照会
履修条件	－
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	科目等履修生は、基礎看護学関連領域の授業参加ができる者とする。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎勝野絵梨奈			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護学教育方法論特論で学んだ内容を踏まえて、看護実践能力の形成及び向上をめざす教育方法について、文献講読・討議、実際の教授一学修過程の分析・評価を通して理解を深め、看護学教育の課題について考察する。また、文献講読・クリティークを通して、研究計画立案に向けた検討を行う。
授業計画	<p>1回 【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の紹介と学習課題の確認 <p>2-16回 【看護教育方法について理解を深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業リフレクション」とは (計5回) <p>前期で学修した内容をもとに、授業設計と指導案作成に取組み、模擬授業を行う。授業分析・評価を共有し、授業リフレクションの経験がもたらす意味について考察を深める。以上の内容については、先行研究と比較・検討し、レポートにまとめ提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期で学修した臨地実習指導論を活用し、グループ学習指・個別指導の実践事例から、＜教授一学修過程＞の構造理解をより深める。自己の教育実践（PNSの事例でもよい）を分析対象にし、プレゼンテーションを行う（グループ討議）。その際、基礎看護学関連領域の授業にティーチングアシスタントとして参加する。 <p>以上の内容については、先行研究と比較・検討し、レポートにまとめ提出する。(計5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究について (計5回) <p>教材作成</p> <p>17-30回 【研究論文のクリティーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文のクリティーク ・看護学教育に関連する研究課題について国内外の文献レビューを行い、自己の研究課題に関連する研究の特徴とその課題を考察し、プレゼンテーションを行う（グループ討議）。
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習指導論を自己の指導過程に適用するための視点を説明できる。 2. 自己の指導過程を再構成し、分析・評価する方法を修得する。 3. 指導者としての自己の学習課題を明らかにする。 4. 看護学教育関連の研究課題の現状と動向を説明できる。 5. 論文クリティークの方法について説明でき、クリティーク能力を身につけることの重要性に気づくことができる。
評価方法	<p>授業への主体的参加を重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への参加状況・姿勢 (40%) 2. 課題レポートの内容 (60%)
教科書	<p>(参考書)</p> <p>薄井坦子：科学的看護論 第3版、日本看護協会出版会、1997.</p> <p>薄井坦子：Module方式による看護方法実習書、現代社、2004.</p> <p>D.F. ポーリット&C.T.ベック著：看護研究 原理と方法 第2版、医学書院、2010.</p> <p>山川みやえ、他：よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2016.</p>
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	科目等履修生は、基礎看護学関連領域の授業参加ができる者とする。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎邊木園幸 川越靖之 勝野絵梨奈			
添付ファイル			

授業の目的・概要	医療関連感染や新興・再興感染症の諸問題に対し、医療機関や在宅、福祉施設等において看護職の求められる役割を再確認し、根拠に基づく感染看護を実践するための専門知識・技術を修得する。
授業計画	<p>1-2回 ガイダンス 〈内容〉 授業目的、すすめ方について 感染管理と感染症看護について、共通性と相違生を確認する 感染看護に関わる自己の問題意識を明確化する 方法：講義・討議</p> <p>3-6回 医療関連感染や新興・再興感染症で問題となる微生物の特徴 〈内容〉 医療関連感染で問題となる細菌、ウイルス、真菌について理解する 新興・再興感染症で問題となる細菌、ウイルスについて理解する 方法：講義・討議</p> <p>7-8回 医療機関における医療関連感染の発生動向及び要因と問題 〈内容〉 感染症の発生動向・要因と問題について、データや論文をもとに討議する 方法：プレゼンテーション・討議</p> <p>9-10 在宅及び福祉施設における感染症の発生、要因と問題 〈内容〉 在宅及び福祉施設における生活や医療、福祉制度を理解する。その上で、感染症が発生した場合の問題と問題解決について、データや論文をもとに討議する 方法：プレゼンテーション・討議</p> <p>11-14回 ライフサイクルにおける感染症の特徴と看護 〈内容〉 ・発達段階と感染防御機構を理解する ・発達段階と感染症の特徴を理解する ・感染症患者への看護と他職種で取り組む感染予防・対策について、これまでの看護実践をもとに討議 方法：講義・プレゼンテーション・討議</p> <p>15回 まとめ 学びの総括</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染や新興・再興感染症で問題となる微生物の特徴を理解し、感染対策について説明できる。 2. 医療機関や在宅・福祉施設等における感染症の発生状況や感染が拡大する要因について根拠をもとに説明できる。 3. 人間のライフサイクルからみた感染症の特徴と看護ケアについて説明できる。
評価方法	授業への参加状況（討論）30%、プレゼンテーション40%、レポート 30% 〈評価基準〉 100点満点とし、成績評価区分は履修規定の通りとする。
教科書	
参考書・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・藤本秀士編「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」改訂3版，南山堂，2017 ・坂本史衣著「基礎から学ぶ医療関連感染対策―標準予防策からサーベイランスまで」改訂第3版，南江堂，2019 ・操華子、川上和美 編集：『感染看護学 患者の健康と権利を守り安全に看護を実践する』南江堂，2022 その他、適宜紹介する。
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎邊木園幸、川越靖之			
添付ファイル			

授業の目的・概要	感染看護学の研究を行うために必要となる専門知識を、実験や演習を通して修得する。 感染看護学領域の問題、研究の動向をふまえて、自己の研究課題を明確にし、研究方法を検討するために、感染看護学領域の国内外の文献の抄読を行い、討論する。
授業計画	<p>1-8回 感染症にかかわる保健医療福祉体制 〈内容〉 ・感染症法の概要 ・医療法に基づく感染症対応 ・障害者総合支援法及び児童福祉法、老人福祉法に基づく感染症対応 ・感染管理の実際</p> <p>9-14回 方法：プレゼンテーション・討議 文献クリティーク 〈内容〉 感染看護に関連した文献のクリティーク</p> <p>15-20回 方法：プレゼンテーション・討議 感染看護における課題の検討 〈内容〉 感染看護において関心のある課題やトピック</p> <p>21-30回 方法：プレゼンテーション・討議 研究課題と研究デザインの検討 〈内容〉 感染看護における研究テーマや課題の絞り込み、研究計画書の作成 方法：プレゼンテーション・討議</p>
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染制御のための看護実践で必要とされる技術、並びに感染看護学の研究を行うために役立つ方法・技術について、説明できる。 2. 感染看護に関連した文献クリティークができる。 3. 2.を通して、研究の方向性を定め計画書の作成ができる。
評価方法	演習への参加状況（取り組み・討論）及びプレゼンテーション70%、レポート30% 〈評価基準〉 100点満点とし、成績評価区分は履修規定の通りとする。
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎田中美智子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	多様な生活を営む人の健康は遺伝的なものだけでなく、環境や生活行動などによっても影響を受けている。外部からの刺激に対して、人がどのように反応するのか、また、どうしてそのような反応をするのかについて明らかにしていく。健康を維持・増進していくための根拠ある支援を検討する。看護学の研究を主に実験的手法を用いて行う様々な研究方法について講義を行う。研究テーマに関連する文献収集、文献レビューを行い、実験的研究をデザインすることについて学ぶ。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 研究デザインについて（講義）</p> <p>2-4回目 研究デザイン① 実験的研究デザイン：文献の目的・仮説から実験計画を立てる（講義・発表）</p> <p>5-6回目 研究デザイン② 実験的研究デザイン：自分の立てた実験計画と論文の計画を比較、違いや類似点などを明らかにする。（講義・ディスカッション）</p> <p>7-11回目 研究課題に関連する文献抄読 テーマが出てこない場合は、睡眠-覚醒サイクル・呼吸機能・循環機能・ストレス・加齢などについて検討する。それぞれの文献から研究目的（仮説）・計画・結果を読み取り、目的に対して、適切な研究計画が立てられているか、結果に対して考察が適切であるかなど、論文をクリティークする。（講義・ディスカッション）</p> <p>12-14回目 研究課題に関連した研究計画 文献抄読を参考にし、自分の課題の研究計画を検討する。（講義・発表）</p> <p>15回目 まとめ 自ら作成した研究計画に関して発表し、ディスカッションする。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	実験的手法などを用いる研究方法の利点について述べるができる。 研究における概念図を作成することができる。 自らの介入研究の内容を説明することができる。 文献を収集、検討することで、自らの研究内容を主体的に探求することができる。 研究からもたらされるアウトカムに関しての意義について言及できる。
評価方法	課題レポート（50%）、講義の態度及び参加度（15%）、発表（プレゼン）（35%）
教科書	特になし
参考書・参考文献	参考文献：Stephen B Hulley et al, Designing Clinical Research. 木原雅子, 木原正博訳. 医学的研究のデザイン. メディカル・サイエンス・インターナショナル, Frederick Grinnell著, The Scientific Attitude, 白楽ロックビル訳 グリンネルの研究成功マニュアル, 共立出版, 福原俊一著, 臨床研究の道標, iHope international.
履修条件	特になし
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎田中美智子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護学の研究の中で主に健康維持増進につながる研究について、実際の測定・分析法及びデータ解析技術について演習を行い、これらの手法を修得する。
授業計画	<p>1-2回目 オリエンテーション他 オリエンテーションと分析、測定方法とデータ解析技術について（講義）</p> <p>3-20回目 生理学的測定方法 脳波の測定と解析 筋電図の測定と解析 循環動態の測定と解析 呼吸機能の測定と解析 体温調節関連の測定と解析 その他の測定方法と解析</p> <p>21-28回目 生化学的測定方法 ホルモンの測定・解析 酵素活性の測定・解析 その他の測定</p> <p>29-30回目 まとめ 自分の測定結果をプレゼンテーションする。</p>
授業形態	
到達目標	測定、分析方法及び解析方法について具体的に説明できる。 測定、分析、解析方法を的確に選び、遂行できる。測定結果を解釈し、考察できる。 自らの研究目的を描きながら、研究方法やその結果について説明することができる。 正確に測定することができる。
評価方法	課題レポート（40%）、講義の態度・参加度（20%）、発表（プレゼン）（25%）、その他（測定）（15%）
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
履修条件	健康増進看護学特論を履修していること
科目等履修	不可
履修上の留意点	各項目毎にレポートを提出
備考・メッセージ	

講義科目名称： 基礎看護学特別研究（基礎看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎邊木園幸、岩江荘介			
添付ファイル			

授業の目的・概要	自己の看護実践及び看護教育に関する研究テーマの明確化、研究計画書の作成、研究素材の収集・分析、論文作成までの過程について指導する。 全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう支援する。
授業計画	<p>1-10回 研究課題の明確化 自己の問題意識にそって文献検討を行い、研究課題を焦点化する。</p> <p><ゼミでの検討を積み重ねる></p> <p>11-30回 研究計画書の作成と倫理審査を受ける ・研究課題を解決するための研究対象および研究方法を検討する ・意味あるデータを収集するための研鑽を重ねる ・研究計画書を完成させ、研究倫理審査を受ける</p> <p><ゼミでの検討を積み重ねる></p> <p>31-120回 研究の実施 ・研究計画にそって、データを収集する ・収集したデータについて、信頼性・妥当性を高めながら分析を行う。</p> <p><ゼミでの討議を積み重ね、分析の信頼性・妥当性を確保する></p> <p>121-150回 論文の作成 ・論文としての全体構成を検討し、一貫した論旨で論述できているか吟味しながら、修士論文を完成する。</p> <p>*日程は調整します</p>
授業形態	演習・研究
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己の問題意識に関連する文献検討を行い、研究課題を明確にすることができる。 2 研究課題の解決に向けて、適切な研究方法を選択し、研究計画を立てることができる。 3 研究計画にそって、意味ある研究データを収集し、分析を行い、論文を完成することができる。
評価方法	研究計画書（15%）、研究方法の的確さ（15%）、最終論文（70%）
教科書	適宜提示する
参考書・参考文献	適時提示する
履修条件	基礎看護学特論および基礎看護学演習を履修していること
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 基礎看護学特別研究（看護学教育方法論）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
勝野絵梨奈			
添付ファイル			

授業の目的・概要	研究テーマの明確化に取り組み、広く認識されている文献の中から研究テーマに関連した文献検索・検討の結果から、研究テーマ、研究の方向性、仮説の設定、研究方法を検討する。研究計画書を作成し、データ収集・分析、論文の作成、研究発表までの過程について指導する。また、指導においては、看護教育者としての倫理観形成を促すとともに、看護学研究における倫理指針等を踏まえ、看護学研究者としての倫理観形成を支援する。
授業計画	<p>1回 【導入】 ・授業計画について</p> <p>2～29回 【研究テーマの設定】 研究課題を明確化し、研究のテーマとして明文化する。 【文献検討、仮説の設定】 看護教育学関連領域で研究論文として広く認識されている文献の中から、研究テーマに関連する種々の文献を検索し論文クリティークを行う。自己の研究テーマが研究として妥当かを検討するとともに、研究の方向性、仮説を設定する。 【研究方法の検討】 研究テーマを絞り込み、研究目的を明らかにする。文献検討の結果を参考に、本研究を進めるにあたり妥当な方法を検討する。</p> <p>30～39回 【研究計画書の作成 研究倫理委員会への審査申請】 研究テーマ、目的、方法を定め、研究計画書を作成する。本学の研究倫理審査委員会へ必要書類を提出し、審査を受ける。</p> <p>40～69回 【研究データの収集】 研究計画に則し、データ収集を行う。</p> <p>70～119回 【研究データの分析】 収集したデータを整理し、計画した分析方法にそって分析を行う。分析の妥当性については、分析・討議を繰り返し行い、妥当性を確保する。考察の方向性を考え、必要時文献検索を実施しながら分析内容を目的に則して解釈する。</p> <p>120～150回 【論文の作成】 論文の全体構成を検討し、論文としてまとめる。尚、この過程においても、データと論理の整合性を検討しながら論述する。</p>
授業形態	演習
到達目標	自己の研究課題にそった研究方法を明らかにし、研究の実施、結果の分析を行い、それに基づいて研究論文を作成する。
評価方法	研究に臨む姿勢、論文内容、研究発表内容、論文審査結果
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	国内外の関連した研究の動向を把握しておく。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 基礎看護学特別研究（感染看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎邊木園 幸、川越靖之			
添付ファイル			

授業の目的・概要	感染看護学に関する研究テーマとその研究法について、文献検討を通して明確にし、研究計画立案、データ収集・分析を行い、論文作成し、発表する。この過程を通して、看護学研究者として求められる対象への倫理的態度を身につける。
授業計画	<p>1回 ガイダンス 〈内容〉 感染看護学に関する研究テーマとその研究法について、文献検討等を通して明確にしていく。 研究遂行スケジュールの確認</p> <p>方法：討議</p> <p>2-50回 研究課題の明確化、研究計画書の作成、研究倫理審査への申請 〈内容〉 ・自己の研究課題に関連した文献クリティークを行い、研究課題を明確化する ・研究目的、研究デザインの選択、研究方法の設定 ・プレテストの実施、研究計画書の作成 ・研究倫理申請書の作成と倫理審査を受ける ・審査結果をもとに、研究計画内容の修正を行う</p> <p>方法：研究計画書の作成、研究倫理申請書の作成、倫理審査の申請</p> <p>51-100回 研究の実施 〈内容〉 ・データ収集及び分析</p> <p>方法：倫理審査で承認された研究計画に則った研究データの収集と分析</p> <p>101-150回 論文作成 〈内容〉 研究目的に照らした研究データの分析と考察、研究論文の全体構成を検討し、一貫した論旨で論述する。</p> <p>方法：研究論文の作成、審査（発表）のためのパワーポイントを作成、学位論文審査の受審</p>
授業形態	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の問題意識に関連する文献検討を行い、研究課題を明確にすることができる。 2. 研究課題に適した研究目的・方法を設定し、倫理的配慮をふまえた研究計画書を作成できる。 3. 研究計画に沿って、研究を実施し、適切なデータ収集ができる。 4. 得られたデータを研究目的に照らして、分析・考察し論文を完成することができる。
評価方法	<p>研究計画書（15%） 研究に取り組む態度（15%） 最終論文（70%） 〈評価基準〉 100点満点とし、成績評価区分は履修規定の通りとする。</p>
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 基礎看護学特別研究（健康増進看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎田中美智子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	ストレッサーの多い環境の中で、ストレッサーによって生じる生体の反応は何か、その反応が生じた仕組みについて明らかにし、ストレス反応の緩和に必要なケアを考える。それにより、健康維持増進の支援についてエビデンスを見出し、論文にまとめる。論文作成の全過程において対象への倫理的配慮ができる。
授業計画	<p>1-10回 研究課題の明確化 自身に取り組む関連の文献を参考に研究課題を検討する。</p> <p>11-30回 研究計画書を立案 ・研究デザインの選択 ・対象者の選択 ・データ収集方法及びデータの分析方法の検討 ・プレテストの実施及びデータの分析方法の修得 ・研究計画書の作成</p> <p>31-40回 研究倫理申請書の作成 ・申請書の作成 ・申請後の研究計画の見直しなど</p> <p>41-120回 研究の実施 ・研究計画にそって計画を実行する。 1. 研究協力の依頼 2. データ収集 3. データ分析 4. 結果の解釈 5. 分析結果の考察</p> <p>121-150回 修士論文の作成 ・緒言から考察までの一連の流れで、論文を執筆し、作成する。 ・論文の結果を表す図表を作成する。</p>
授業形態	演習・研究
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する文献検討を行い、研究の動向を探索し研究課題を明確にすることができる。 2. 明確化した研究課題に関して、適切な研究方法を選び、研究計画を立てることができる。 3. 明確化した研究課題に関して、研究を実施し、論文を完成することができる。
評価方法	研究計画書（15%）、研究方法の的確さ（15%）、最終論文（70%）
教科書	適宜提示
参考書・参考文献	適宜提示
履修条件	健康増進看護学特論及び健康増進看護学演習を履修していること
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎壹岐さより、濱寄真由美、長鶴美佐子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	人間が持つ「いのちを次代へとつなぐ素晴らしい働き」、いわゆる生命の連続性に関わる様々な健康問題や課題について、生活過程、家族、教育、社会、文化などの幅広い視点からその成り立ちや問題構造などを学ぶ。 その上で、生命の連続性に関わる看護の役割と方向性、求められる研究について理解を深める。 講義方法は、文献検討、討議、支援の実際の見学などを予定している。
授業計画	<p>1-2回 ガイダンス・「思春期から成熟期の健康問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習目標・目的、学習課題と進め方について確認する。 ・思春期から成熟期に関わる人々の身体的・心理的・社会的発達と特徴と、近年生じている生命を脅かす健康問題について理解を深めていく。 <p>3-4回 「ライフサイクルからみた支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルから見て、生命の連続性を支える働きがどのように発達し衰退していくのかを概観する。次に、この働きが著しく発達する思春期・性成熟期に焦点をあてながらこの時期の人々への理解を深める。 <p>5-13回 「思春期から成熟期の健康課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期から成熟期・更年期の代表的な健康問題について、当事者の認識、生活過程や家族関係、社会背景などの視点から理解を深める。さらに看護実践の現状と課題から、看護の方向性について検討する。 <p><主な健康問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月経に関連する問題（月経困難症・子宮内膜症・月経不順・月経前症候群などの問題） ・望まない妊娠と人工妊娠中絶 ・性感染症 ・不登校 ・DV ・出産体験の不満足感 ・産後うつ ・母乳育児の継続支援 ・乳幼児虐待 ・更年期など <p>14-15回 「思春期から成熟期の支援と研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の学習を踏まえながら思春期から成熟期の継続した支援のために取り組むべき研究課題と求められる研究的視点について検討する。
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 思春期から成熟期・更年期に関わる健康問題について、生活過程、家族、教育、社会、文化などの視点からその成り立ちや問題構造などを理解する。 2. 母性・助産に関わる看護師・助産師の役割とその方向性について理解を深める。 3. 母性・助産の支援のための研究課題と研究的視点について検討する。
評価方法	授業への参加度（70%）、レポート（30%）
教科書	指定なし
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	機会があれば思春期健康支援の実際の見学を入れる予定である。
備考・メッセージ	「問題意識を持ち自ら学ぶ」を基本方針とした授業の展開です。状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎壹岐さより、濱寄真由美、長鶴美佐子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	思春期から成熟期・更年期の支援に関係する研究論文の講読を通して、研究についての理解を深める。また、自己の研究テーマを追究する上で必要とされる研究手法（質的研究・量的研究）への理解を深め、実践に向けた基礎的能力を培う。
授業計画	<p>1-2回 ガイダンス・「文献とは」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習目標・目的、学習課題と進め方について確認する。 2. 看護研究のための文献について理解する。 研究における文献の意義、種類、検索方法、文献の読み方（文献のクリティークを含む）、文献の活用と管理、等。 <p>3-15回 「論文を読む」 論文の購読とクリティーク</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の購読 2. 各自が興味ある（原著）論文を読み、紹介する。 （研究目的・方法、看護の意義、オリジナリティ、明らかになったことや限界など） 3. 論文のクリティークを行う このプロセスの中で「質的・量的研究方法」や「研究の進め方」「論文作成方法」「研究知見の社会化」などについて学習していく。 <p>16-30回 文献レビュー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究における文献レビューの必要性と方法 2. 取り上げたい研究課題に関する文献レビューを行いレポートする。 これまでどのような研究がなされ、どこまで明らかになっているか、残された課題は何か、なぜそれが明らかにされていなかったのかなどを検討する。
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①看護研究における文献の意義、種類、検索方法、読み方、活用方法等について理解を深める。 ②研究論文の講読を通して、様々な研究方法、実践方法、研究論文作成や社会化のプロセスなどについて理解する。 ③自己の研究課題に関する文献レビューを行い、その必要性と方法を理解する。
評価方法	授業への参加度50%、レポート50%
教科書	適宜紹介する
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	母性看護学・助産学特論を履修していること
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	論文を読みこむことを通して研究する力を身につける科目であり、積極的な学修参加が求められます。状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
甲斐鈴恵			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p><目的> 小児看護に関する諸理論等を学び、看護実践の基礎となる理論的思考を習得する。</p> <p><概要> 講義およびプレゼンテーションやグループワークを通し、小児看護に関する諸理論等、および、看護実践の基礎となる理論的思考および小児看護における課題について理解を深める。</p>
授業計画	<p>1ー5回 【ガイダンス】【小児看護の主要な理論の理解】 内容：学習目標・目的、講義の展開方法について確認する。 小児看護に関する諸理論 (E. H. Erickson, J. Bowlby, J. Piaget等) について理解を深める。これまで経験した具体的な事例について、各理論を通してみえてきた子どもの発達や看護現象について、討議を行う。 方法：講義・討議</p> <p>6ー9回 【小児看護からみた家族看護に関する理論の理解】 内容：これまで経験した小児の事例について、家族看護を通してみえてきた看護現象について討議を通して理解を深める。 方法：講義・討議</p> <p>10ー13回 【小児看護における課題の検討】 内容：子どもを健やかに育むことを脅かす健康問題や倫理的課題等について、これまで経験した小児の事例について討議を通して理解を深める。 例) 入院・検査・手術を受ける子どもと家族への看護 在宅における子どもと家族（医療的ケア児）への看護 先天的な健康障害のある子どもと家族への看護 虐待の可能性のある・災害を受けた子どもと家族への看護 方法：講義・討議</p> <p>14ー15回 【まとめ】 内容：上記の学習を踏まえながら、子どもと家族を健やかに育むために取り組むべき課題や支援について検討する。 方法：講義・討議</p> <p>*担当教員は、看護師として小児専門病院の実務経験、保健師として母子保健業務の実務経験、関連する研究や教育などの経験・実務から講義を行います。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の発達段階・言動・反応について諸理論を用いて多角的に評価できる。 2. 小児とその養育者を対象とした看護実践をするために必要な理論について理解する。 3. 学んだ理論を自己の看護実践と重ねて取り組む支援の理解が深まる
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の参加状況・ディスカッション (70点) 2. 各講義におけるレポート (30点) <p>評価基準：1～2の合計を100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 *総点 (100点) に対する成績評価区分S～Dは、履修規程の通り</p>
教科書	適時提示する
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	事前に学習内容を提示しますので準備の上で講義に臨んでください。
備考・メッセージ	履修生の専門性を踏まえ相談しながら講義を展開します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
甲斐鈴恵			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p><目的> 小児看護の領域で探求すべき研究課題について焦点化するための基礎的能力を高める。</p> <p><概要> 小児看護に関する文献検索や先行研究の検討を行い、研究の動向をふまえて、自己の研究課題を明確にし、研究計画立案に向けプレゼンテーションや討議を行う。</p>
授業計画	<p>1-2回 【ガイダンス】 内容：学習目標・目的、講義の展開方法について確認する 方法：講義</p> <p>3-10回 【先行研究のクリティーク】 内容：小児看護に関連した各自が関心のある先行研究を紹介する。先行研究を読み、意見交換や発表を通して明らかになったことを確認する。 方法：講義・討議</p> <p>11-18回 【文献レビュー】 内容：研究における文献レビューの必要性を確認する。明らかにしたい研究テーマについて、既存の文献や科学的裏付け、課題への取り組みの方法等の最新の知見を見出すための文献レビューを行い、明らかになったことをプレゼンテーションと討議を通して理解を深める。 方法：講義・討議</p> <p>19-30回 【計画・立案】 内容：探求したい研究テーマおよび研究方法を立案する。その研究における倫理的課題や倫理的配慮について、どのように対応するかについて理解を深め、論述することの理解を深める。また、倫理審査に必要な書式の提出についても理解を深める。 方法：講義・討議</p> <p>*担当教員は、看護師として小児専門病院の実務経験、保健師として母子保健業務の実務経験、関連する研究や教育などの経験・実務から講義を行います。</p>
授業形態	講義
到達目標	<p>1. 看護研究における文献の読み方、文献検討、活用方法について理解を深める。</p> <p>2. 自己の研究課題に関する文献レビューを行い、具体的な研究計画を立案することができる。</p>
評価方法	<p>1. 講義の参加状況・ディスカッション (50点)</p> <p>2. 各講義におけるレポート (50点)</p> <p>評価基準：1~2の合計を100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 *総点 (100点) に対する成績評価区分S~Dは、履修規程の通り</p>
教科書	適時提示する
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	小児看護学特論を履修していること。
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	履修生の専門性を踏まえ相談しながら講義を展開します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎及川朋実、久野暢子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>※本科目は、ディプロマポリシー②③⑤の修得に重点をおいた一科目です。</p> <p><目的>健康障害を抱える成人とその家族に対して、質の高い看護援助をするための基礎的知識を学び、実践への応用について考えを深めます。</p> <p><概要>健康障害を抱える成人とその家族を理解し、質の高い看護援助を提供する上で基礎となる看護理論、看護モデル、概念等について、講義や討議などから理解を深めます。</p>
授業計画	<p>1回 【ガイダンス】 【理論・モデルの概要の理解】 <及川> 内容：ガイダンス、中範囲理論とは何か 方法：講義 ◇課題◇ 次回授業で取り上げる理論・モデルのまとめ（指定テキスト該当頁を活用）（以下、同）</p> <p>2-9回 【理論・モデルの概要の理解】 <及川・久野> 内容：看護のアセスメントと援助に関する理論、病気・障害・人生の体験を説明する理論、危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論、行動変容/健康行動に関する理論、看護の対象者や看護師の認識変容に関する理論の中から履修者の研究課題や関心に合わせて選択 方法：プレゼンテーション・討議</p> <p>10-14回 【看護実践知の言語化】 <及川・久野> 内容：自己の看護実践事例を言語化し、そこに潜む本質的な意味を導く方法論を体験的に理解する 方法：プレゼンテーション・討議</p> <p>15回 【まとめ】 <及川> 内容：学んだ理論・モデル等の自己の研究課題への応用 方法：課題レポートをまとめる（個人ワーク）</p>
授業形態	講義
到達目標	<p>1. 健康障害を抱える成人とその家族への看護援助に関連する看護理論・看護モデル・概念を説明できる。</p> <p>2. 学んだ看護理論・看護モデル・概念を看護実践や看護研究への適用の視点から考えることができる。</p>
評価方法	<p>1) 授業への参加態度・プレゼンテーション（70%） 到達目標1～2の達成度について毎授業の状況の評価します。</p> <p>2) レポート（30%） 到達目標1～2の学修の総合的評価として課した課題レポートを評価します。</p> <p>※成績判定基準は宮崎県立看護大学履修規程第7条2項により次の区分とします。</p> <p>評点（100点）中 S：90点以上（特に優秀な水準で到達目標に達している） A：80点以上90点未満（優秀な水準で到達目標に達している） B：70点以上80点未満（到達目標に達している） C：60点以上70点未満（十分ではないが到達目標に達している） D：60点未満（到達目標に達していない）</p>
教科書	<p>・野川道子・桑原ゆみ・神田直樹編著（2023）：看護実践に活かす中範囲理論 第3版, メヂカルフレンド社. ISBN：978-4839216993</p> <p>・山本則子・柄澤清美編（2025）：ケアの意味を見つめる事例研究—看護実践の知を探究する研究方法論, 医学書院. ISBN：978-4260057110</p>
参考書・参考文献	随時紹介します。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	履修者の研究課題や関心により学修する中範囲理論や順番を考慮します。 オンライン受講：不可

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎及川朋実、久野暢子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>※本科目は、ディプロマポリシー②③⑤の修得に重点をおいた一科目です。</p> <p><目的>健康障害を抱える成人とその家族に対する質の高い看護に寄与する看護研究を行うための基礎的能力を身に付けます。</p> <p><概要>健康障害を抱える成人・家族への看護実践、研究方法および自己の研究課題に関連するテーマでの文献クリティークや討議を行い、自己の考えをより多角的・多面的に深めます。またこの過程を通じて、研究計画書作成の基礎的能力を養います。</p>
授業計画	<p>1回 【ガイダンス】 <及川> 内容：ガイダンス、履修者の研究計画書作成にかかる課題の確認 方法：討議</p> <p>2-11回 【先行研究のクリティーク】 <及川・久野> 内容：成人看護に関連した先行研究のクリティーク 方法：プレゼンテーション</p> <p>12-23回 【成人看護における課題の検討】 <及川・久野> 内容：成人看護において履修者の関心のある課題やトピック 方法：プレゼンテーション</p> <p>24-30回 【研究課題や研究デザインの検討】 <久野・久野> 内容：成人看護における特定のテーマや課題、研究計画書作成 方法：プレゼンテーション、討議、研究計画書作成の個人ワーク</p>
授業形態	演習
到達目標	<p>1. 健康障害を抱える成人とその家族への看護援助に関連した研究論文の文献クリティークができる。</p> <p>2. 1を通じて、自己の研究計画書を洗練するための検討ができる。</p>
評価方法	<p>1) 授業への参加態度・プレゼンテーション (70%) 到達目標1～2の達成度について毎授業の状況进行评估します。</p> <p>2) レポート (30%) 到達目標2の評価として研究計画書を中心に評価します。</p> <p>※成績判定基準は宮崎県立看護大学履修規程第7条2項により次の区分とします。 評点 (100点) 中 S: 90点以上 (特に優秀な水準で到達目標に達している) A: 80点以上90点未満 (優秀な水準で到達目標に達している) B: 70点以上80点未満 (到達目標に達している) C: 60点以上70点未満 (十分ではないが到達目標に達している) D: 60点未満 (到達目標に達していない)</p>
教科書	
参考書・参考文献	<p>・D.F. ポーリット&C.T. ベック著, 坂下玲子監訳 (2025) : ポーリット&ベック 看護研究 第3版, 医学書院. ISBN: 978-4260057066</p> <p>・山川みやえ, 牧本清子 (2020) : 研究手法別のチェックシートで学ぶよくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版, 日本看護協会出版会. ISBN: 978-4818022713</p>
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	<p>検討する文献は履修者が用意し、事前に提示してください。</p> <p>オンライン受講の可否：授業内容による</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
重久加代子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(目的) 社会的自立を果たした人々が、加齢変化や健康上の問題を抱えながら、自分の持てる力を生かして日常生活を営むための看護に必要な看護理論や生老病死について学ぶ。</p> <p>(概要) 加齢変化や健康上の問題が日常生活におよぼす事柄、持てる力を生かした日常生活について考える。また、生老病死やケアリングについての理解を深める。</p>
授業計画	<p>1回 ガイダンス 研究の動機について</p> <p>2回～7回 「持てる力を生かした日常生活とは」 加齢変化や健康上の問題が日常生活におよぼす事柄について検討 持てる力を生かした日常生活について検討</p> <p>8回～11回 「生老病死とは」 生老病死について学習し、自分の考えをまとめ・発表</p> <p>12回～14回 「ケアリングと看護実践」 ケアリングについて学習し、これまでの看護実践より検討</p> <p>15回 「まとめ」 学びの総括</p> <p>毎回の講義方法は対面および個人ワーク・グループワークを適時組み入れる。予習・復習・課題についても、授業前後に提示する。</p> <p>教員は看護師として総合病院に勤務し、医療機関での実務経験をもとに、老年看護に関する話をします。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢変化や健康上の問題が日常生活におよぼす事柄について理解を深める。 2. 持てる力を生かした日常生活について考えることができる。 3. 生老病死について学びを深め、自分の考えを述べるができる。 4. ケアリングについて理解を深める。
評価方法	授業への取り組み (50%)、レポート (50%) より評価する (*総点100点に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおりである)。
教科書	特に指定しない。
参考書・参考文献	随時紹介する。
履修条件	なし
科目等履修	
履修上の留意点	なし
備考・メッセージ	主体的な学習への取り組みが求められます。

講義科目名称： 老年看護学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
重久加代子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(目的) 関心のあるテーマに沿って文献検索、研究論文クリティークを通して、既存の知見と研究手法、看護への理解を深める。また、研究に関する倫理指針、データ収集方法及びデータ分析方法について学び、研究計画書を作成する。</p> <p>(概要) 関心のあるテーマに沿って文献検索を行い、論文のクリティークを行う。看護研究に関する理解を深め、実施可能な研究計画書を作成する。</p>
授業計画	<p>1回 「ガイダンス」 研究課題について</p> <p>2回～3回 「関心のあるテーマに沿った論文の文献検索」 文献検索を行い、まとめ・発表</p> <p>4回～7回 「論文のクリティーク」 関連する文献のクリティーク（量的研究・質的研究）、まとめ・発表</p> <p>8～11回 「研究のテーマと目的の検討・研究計画書の検討」 文献検討に基づき、研究テーマと目的の検討、まとめ、発表</p> <p>12回～15回 「研究方法と分析方法の検討・研究計画書の検討」 文献、看護研究の方法より学びを深め、研究方法と分析方法の検討、まとめ・発表</p> <p>16回～19回 「文献検索および文献検討・研究計画書の検討」 研究テーマ・目的の検討より、再度文献検索・文献検討を行い、まとめ・発表</p> <p>20回～23回 「研究における倫理的配慮の検討・研究計画書の作成」 研究における倫理的配慮の検討を行い、まとめ・発表 研究計画書の作成・発表</p> <p>24回～29回 「研究計画書の作成・調査の準備」 研究計画書に基づいて、調査の準備 倫理審査の申請書の作成</p> <p>30回 「研究計画書の完成」 研究計画書の見直し、完成</p> <p>毎回の講義方法は対面および個人ワーク・グループワークを適時組み入れる、予習・復習・課題についても、授業前後に提示する。</p> <p>教員は看護師として総合病院に勤務し、医療機関での実務経験をもとに老年看護に関する研究について話をします。</p>
授業形態	集中講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のあるテーマに沿った論文の文献検索を行う。 2. 論文のクリティークを行う。 3. 文献検討を行う。 4. 看護研究に関する本を1冊精読する。 5. 研究に関する倫理指針を理解する。 6. 文献検討に基づき、研究テーマ、目的、方法を検討し、研究計画書を作成する。
評価方法	授業への取り組みと課題の達成状況（実施可能な研究計画書の作成）より評価（100%）する（*総点100%に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおりである）。
教科書	特に指定しない。
参考書・参考文献	随時紹介する。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	看護研究の本を繰り返し読み、自分が現在どの位置で、何に取り組んでいるのかを確認しながら、1つ1つ丁寧に進めていきましょう。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎川原瑞代、川村道子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>【目的】 健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護の方法について学ぶとともに、看護職固有の機能について追究する。</p> <p>【概要】 地域看護の対象と看護の特徴、精神的援助を必要としながら地域で生活する人々への看護の方法等について、在宅療養支援における看護の在り方を諸理論について講義を行い、実践事例と重ねながら討議する。</p>
授業計画	<p>1・2回 【授業オリエンテーション】 (川原、川村)</p> <p>〈内容〉 ・授業目的、すすめ方について ・地域看護の対象と看護の特徴について確認する。 ・地域看護に関わる自己の問題意識を明確化する。</p> <p>〈方法〉 講義・演習</p> <p>3-8回 【精神的援助を必要としながら地域で生活する人々への看護の方法と看護職固有の機能を理解する】 (川村)</p> <p>〈内容〉 ・他者からの精神的援助を必要とするに至るまでの過程を、社会生活の構成要素の視点から検討する。 ・精神的援助を必要としながら地域で生活する人々の生活実態を文献や事例から整理し、看護職固有の機能を理解する。 ・精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護の方法を明確化する。</p> <p>〈方法〉 講義・演習</p> <p>9-10回 【在宅療養者とその家族への支援の現状と課題について考察する】 (川原)</p> <p>〈内容〉 ・諸資料より、日本における在宅療養者とその家族への支援の現状と課題を考え、それらを解決する看護の役割や方法について考察する。</p> <p>〈方法〉 講義・演習</p> <p>11-12回 【在宅療養者の健康と生活を支援するために基盤となる理論や概念を理解する】 (川原)</p> <p>〈内容〉 ・在宅療養者の健康と生活を支援するために基盤となる理論や概念を理解する。</p> <p>〈方法〉 講義・演習</p> <p>13-14回 【訪問看護師の活動事例から学ぶ】 (川原)</p> <p>〈内容〉 ・訪問看護師の活動事例から、在宅看護の基盤となる理論や概念と関連させて考察し、在宅療養者や家族、生活環境や支援システムについてアセスメントする方法を理解する。 ・自己の実践事例から、在宅療養者や家族、生活環境や支援システムをアセスメントする。</p> <p>〈方法〉 講義・演習</p> <p>〈課題〉 ・自己の実践事例から、在宅療養者や家族、生活環境や支援システムをアセスメントし、資料化する。 提出方法の詳細は、講義中に示す。第15回で、プレゼンテーションを行うので、その準備を行う。</p> <p>15回 【成果報告】 【まとめ】 (川原、川村)</p> <p>〈内容〉 ・講義を総括し、自己の学修成果と課題を明らかにする。 ・自己の実践事例から、在宅療養者や家族、生活環境や支援システムをアセスメントする。</p> <p>〈方法〉</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・演習 ・プレゼンテーションとディスカッション <p>※感染状況により、対面授業ができない場合は遠隔授業により対応する。 ※開講日時、使用教室は、新学期のガイダンス後に講義計画を示すので、それを確認すること。</p> <p>担当教員（川原）は、医療機関看護師、行政保健師としての実践経験、地域看護学・在宅看護学の教育、研究の実績をふまえ講義を行う。担当教員（川村）は、看護師としての臨床経験、精神看護学の教育、研究の実績をふまえ講義を行う。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の対象と看護の特徴について、自己の問題意識と重ねて理解する。 2 精神的援助を必要としながら地域で生活する人々への看護の方法について理解する。 3 在宅療養支援における看護の在り方を諸理論や実践事例と重ねながら理解する。 4 地域で生活する人々への支援における看護職固有の機能について理解する。
評価方法	<input type="checkbox"/> 評価項目・割合・評価規準 <ul style="list-style-type: none"> ・講義中の討議（20%）：討議内容、論理性、表現力、協調性、積極性 ・プレゼンテーション（30%）：内容（課題設定、適切な分析、結果をふまえた考察、提案）、論理性、表現力（資料、プレゼンテーションの功抽、構成） ・レポート（50%）：課題の理解、論述する力（論旨の一貫性、論理的な文章、適切な文献の取り扱い、体裁） <input type="checkbox"/> 評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・100満点とし、成績評価区分は、履修規程の通りとする。
教科書	適宜紹介する
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	「地域・精神看護学演習」（後期開講）を履修する場合は、その前に本科目を履修しておく。
備考・メッセージ	履修者の専門性を踏まえ授業内容を考慮します。詳細は授業開始後、講義計画で提示します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎川村道子、川原瑞代			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〔目的〕 健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護過程を分析する方法を学ぶ。</p> <p>〔概要〕 実践事例を基に看護過程を客観視し分析する力、地域看護を評価する力を高めるとともに、研究能力向上を目指した演習を行う。 地域包括システム概念や発展過程を理解し、文献や自己の実践活動から現状と課題について分析する。また、地域診断や個別事例のアセスメントから健康課題解決に向けPDCAサイクルを基盤とすることの意義を理解する。 人間の精神の働きに注目し、人々がどのような状況でも自らの精神を健康に働かせることができる支援について検討していく。検討に相応しい研究論文を講読し、あらゆる人々の精神の健康を高めることに資する研究課題、研究方法について考察する。</p>
授業計画	<p>1-7回 【地域看護の概念について理解を深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域看護実践、教育、研究を構成する概念を規定し説明する。 <p>人間、家族、地域、生活、健康、病気、環境、生活機能、生命力、セルフケア、自己決定、対象特性、看護、地域看護、予防、行動変容、保健指導、看護観、ケアシステム、ネットワーク、連携、ケアマネジメント、社会資源 等</p> <p>8-10回 【地域看護における研究方法について理解する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域看護における研究方法について理解する <p>11-13回 【健康課題解決に向けて取り組んだ実践を客観視する方法を学ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域診断や個別事例の看護実践から、対象の健康課題解決に向けた自己の取組を振り返り、健康課題解決に向けPDCAサイクルを回す意義について考察する。 <p>14-17回 【地域包括ケアシステムにおける看護の役割について考察する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム概念を理解し、実践事例や先行研究よりその構築の在り方や現状と課題を考察し、看護者の担う役割について議論する。 <p>18-20回 【在宅療養者と家族への看護について課題を明確化する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者と家族への看護について関心のある課題について文献検討やフィールドワークを行い、それらを自己の実践と重ねながら、課題解決に必要な方法について議論する。 <p>21-30回 【精神の健康を高めることに資する研究課題と研究方法を検討する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を精読しクリティークすることを通して、人々がどのような状況でも自らの精神を健康に働かせることができる支援に繋がる看護職者の課題を探る。 ・あらゆる人々の精神の健康を高めることに資する研究課題と研究方法を検討する。 <p>*担当教員は全て、保健所あるいは医療機関（病院）での勤務経験をもち、そこでの実務経験をもとに担当項目について話をします。</p>
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護実践を説明する自己の考え方を明確化できる。 2. 地域看護における研究方法について理解する。 3. 地域看護の展開においてPDCAサイクルを基盤とすることの意義を理解する。 4. 地域包括ケアシステムや在宅療養者と家族への支援について、看護職の果たす役割や課題について考察する。 5. 精神の健康を高めることに資する研究課題と研究方法を検討する。
評価方法	<p>授業への参加状況・プレゼンテーション（70%）、レポート（30%）</p> <p>■受講者が健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護過程を分析する方法について、演習を通して習得していく。従って、演習におけるディスカッションのための資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションの運営、を評価観点とする。</p> <p>■最終的に在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援について修得したことをレポートする。評価観点は、演習と自らの看護体験を土台にした自己の看護観の発展として記述されているか、他の履修科目から積み上げられてきた学修の中身が具体的に記述されているか、他者に伝わる論述になっているか、提示した指定の形式を遵守した記述となっているか、を評価観点とする。</p>
教科書	適宜紹介します
参考書・参考文献	適宜紹介します
履修条件	

科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	履修者の専門性を踏まえ授業内容を考慮します。詳細は授業開始後、講義計画で提示します。また、授業内容によってはオンライン受講が可能。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎川原瑞代、中尾裕之、中村千穂子、河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	(オムニバス方式) 公衆衛生看護の歴史・理念、公衆衛生看護活動、地域の健康づくり、健康増進を目指した地域の活性化、ヘルスプロモーションの理念に基づいた保健活動、地域診断の考え方や診断結果の効果的な活用法について学ぶ。
授業計画	1-4回 講義概要とオリエンテーション (川原) 内容：①科目のねらい、授業スケジュール 公衆衛生看護の歴史・理念 ②公衆衛生看護活動の目的と対象 ③地域診断と診断結果の効果的な活用法 方法：講義・プレゼンテーション 課題：課題意識のある特定地区または領域の地域診断を行う 5-8回 公衆衛生看護活動における保健指導 (河野) 内容：ライフステージ別や疾病別の保健指導 個別保健指導と集団保健指導 方法：講義/演習 9-12回 地域の健康づくりとヘルスプロモーション (中村) 内容：ヘルスプロモーションの理念に基づいた保健活動 方法：講義 13-15回 公衆衛生看護に必要な疫学と統計 (中尾) 内容：疫学指標 バイアスと交絡因子 基本的な統計量の性質 統計的有意差検定の考え方 方法：講義・演習
授業形態	講義、演習
到達目標	1. 公衆衛生看護の歴史、理念を理解することができる。 2. 公衆衛生看護活動における地域診断と診断結果の活用ができる。 3. 健康教育に用いる基礎理論と展開過程について説明できる。 4. 他職種連携や地域住民とのコミュニケーションスキルを身に付ける。 5. 疫学と統計における、基本的な用語とその概念について説明できる。
評価方法	担当教員4名で25点分の評価を行い、合計得点60点以上を「合格」とする。 評価規準については、担当教員それぞれが講義の中で提示する。
教科書	適宜提示する。
参考書・参考文献	適宜提示する。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：担当教員との調整により可

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎中村千穂子、中尾裕之、河野朋美、川原瑞代			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉公衆衛生看護学の視点から文献検討やデータ解析の演習を行い、自己の研究課題について考えを深める。</p> <p>〈概要〉オムニバスで、公衆衛生に関するデータの文献講読・レビュー、健康支援についての実践演習、データ解析演習を行う。</p> <p>(中尾) 統計解析ソフトウェアや表計算ソフトウェアを用いて、データ解析演習を行う。</p> <p>(中村) 健康教育の実践について、企画立案、指導案作成から、実施、評価について演習を行う。</p> <p>(川原) 公衆衛生看護活動における自己の課題に対する世界の動向、我が国の状況、および法的基盤やこれまでの活動状況について文献を用いて考察する。</p> <p>(河野) これまでの経験や先行研究をもとに自身の興味のある実践内容について公衆衛生看護学上の課題や社会から求められている方向性を明確化する。</p>
授業計画	<p>1-8回 文献講読および健康教育 (中村) 内容：本科目のねらい、授業の進め方 行動変容理論を活用した健康教育に関する文献購読 健康教育企画書・指導案作成・実施・評価</p> <p>9-16回 健康支援の実践演習および評価 (川原) 内容：自己の実践活動に関する我が国の動向や施策を整理する。また、自己の保健活動に関するデータを用いて評価を行う。</p> <p>17-24回 公衆衛生看護学に関する理論の活用の展開 (河野) 内容：自己の実践や臨床場面において理論を活用した具体例を検討し発表する。</p> <p>25-30回 データ解析演習 (中尾) ・表計算ソフトウェアでのデータマネジメント ・表計算ソフトウェアを用いたデータ解析 ・統計解析ソフトウェアを用いたデータ解析</p>
授業形態	講義、演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データを用いて保健活動を評価することができる。 2. 行動変容理論を活用した健康教育の実践ができる。 3. 自分自身の健康支援法を行動変容理論に基づいて解析することができる。 4. 表計算ソフトウェアや統計解析ソフトウェアを使って、基本的なデータ解析ができる。 5. 地域における生活習慣病予防に関する研究課題を考察することができる。
評価方法	<p>講義での発言およびプレゼンテーション (50%)、講義内外での学習成果物 (50%) 各担当教員が講義の初回時に評価規準については示します。 評価基準：各教員担当の講義・演習について25点満点で点数をつけ、合計を100点満点とし、60点以上を合格とする。総点に対する成績評価区分S~Dは、履修規定のとおり。</p>
教科書	適宜提示する。
参考書・参考文献	適宜提示する。
履修条件	公衆衛生看護学特論を履修していること。
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 応用看護学特別研究(母性看護学・助産学)

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎壹岐さより ◎濱寄真由美 ◎長鶴美佐子			
応用看護学分野	応用看護学特別研究	1～2年次	
添付ファイル			

授業の目的・概要	思春期から成熟期・更年期関わる様々な健康問題や課題、支援の現状などから抱いた問題意識を整理し研究テーマとリサーチクエスチョンを設定する。それを踏まえ、十分な倫理的配慮がなされた研究計画書の作成、データ収集、論文の作成、公表と一連の研究過程をたどりながら、研究実践力を学ぶ。
授業計画	<p>I. 研究課題・テーマの設定 【1年前期】 1. 自己の問題意識から研究課題を設定する。 2. 文献検討により研究課題の構造などを見きわめ、取り組む研究テーマを設定する。 3. 取り組む研究テーマの研究の概念枠組みまたはリサーチクエスチョンを設定する。</p> <p>II. 文献検討に基づく研究計画の立案 【1年前期～後期】 必要かつ十分な文献検討に基づき、研究計画の立案を行う</p> <p>III. 研究手法の理解 【1年前期～後期】 取り組む研究テーマに応じた研究手法に関する理解を深める。</p> <p>IV. 研究倫理申請と審査 【1年後期】 立案した研究計画について、研究倫理審査を受けるための書類を作成し審査を受ける。</p> <p>V. データ収集と分析 【1年次後期～2年次前期】 関係機関との連携を取りながら、データ収集を行う。必要なデータ分析方法の学習を行いながらデータ分析をすすめる。</p> <p>VI. 研究論文作成 【2年次後期】 研究成果を論文としてまとめる。</p> <p>VII. 研究成果の審査と発表 【2年次後期】 1. 論文の審査をうける。 2. 研究成果を修士論文発表会にて発表する。 (主要な学会発表に向けて投稿を行う。)</p>
授業形態	個別指導
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の問題意識を整理し、研究課題・テーマを設定することができる。 2. 必要かつ十分な文献検討を行い研究計画を立案できる。 3. 適切なデータ収集・分析ができる。 4. 研究成果を論文としてまとめ、発表することができる。
評価方法	研究に取り組む姿勢 (50%)、研究成果 (40%)、プレゼンテーション (10%) にて評価する
教科書	なし
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	母性看護学・助産学特論および母性看護学・助産学演習科目の単位を取得していること (又は見込みであること)
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎及川朋実 ◎久野暢子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>※本科目は、ディプロマポリシー①②④の修得に重点をおいた一科目です。</p> <p><目的>特論・演習での学びに基づき、自己の研究課題を定め、適切な研究手法を用いた研究および論文作成のプロセスを学ぶ。</p> <p><概要>健康障害を抱える成人とその家族への看護実践に焦点を当て、質の高い看護援助を目指した看護ケアの開発等に関する看護研究論文を作成します。また、この過程を通じて看護学研究者として求められる倫理的態度を身に付けます。</p>
授業計画	<p>1回 【ガイダンス】<久野・及川> 内容：ガイダンス、履修者の研究遂行スケジュールの確認 方法：討議</p> <p>2-50回 【研究課題の明確化～研究計画書作成、研究倫理審査の申請】<久野・及川> 内容：自己の研究課題に関連した文献のクリティーク、先行研究の総括、研究課題と研究目的の明確化、研究デザインの選択、研究方法の設定 方法：研究計画書の作成、研究倫理審査の申請</p> <p>51-100回 【データ収集及び分析】<久野・及川> 内容：自己の研究課題 方法：研究倫理審査で承認された研究計画に則った研究データの収集と分析</p> <p>101-150回 【研究論文の作成】<久野・及川> 内容：自己の研究目的に照らした研究データの分析と考察、研究論文全体の構成の検討、一貫性を持った論述 方法：研究論文（修士論文）の作成、学位論文審査の受審</p>
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究課題に適した研究目的・方法を設定し、倫理的配慮をふまえた研究計画書を作成できる。 2. 研究計画書に基づき、適切なデータ収集ができる。 3. 得られたデータを研究目的に照らして分析・考察し、一貫性を持って論述できる。 4. 科学的・客観的・倫理的な態度で研究に取り組むことができる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究計画書 (10%) 到達目標1に関する評価を行います。 2) 研究に取り組む態度 (30%) 到達目標1～3に関する研究遂行の過程を通じて到達目標4の評価を行います。 3) 最終論文 (60%) 到達目標1～4の総合評価として、本大学が定めた修士論文の評価規準に準じて評価を行います。 <p>※成績判定基準は宮崎県立看護大学履修規程第7条2項により次の区分とします。</p> <p>評点 (100点) 中</p> <p>S: 90点以上 (特に優秀な水準で到達目標に達している)</p> <p>A: 80点以上90点未満 (優秀な水準で到達目標に達している)</p> <p>B: 70点以上80点未満 (到達目標に達している)</p> <p>C: 60点以上70点未満 (十分ではないが到達目標に達している)</p> <p>D: 60点未満 (到達目標に達していない)</p>
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：授業内容による

講義科目名称： 応用看護学特別研究（老年看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎重久加代子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(目的) 社会的自立を果たした人々が、加齢変化や健康上の問題を抱えながら、自分の持てる力を生かして Quality of lifeの維持・向上を実現するための看護について研究指導を行う。また、研究の倫理指針に基づいて倫理的配慮を行い、実施上の問題に適切に対処しながら、研究のプロセスを学び論文を作成する。 (概要) 研究計画書に基づき、データを収集し、分析する。研究目的に沿って分析した結果をまとめて記述し、論文を完成する。</p>
授業計画	<p>4月～5月 「ガイダンス・研究計画書に基づいてデータ収集」 研究計画書に基づき、研究実施の準備状況、今後の計画を発表する。 調査の準備を行う。 調査を開始し、データを収集する。</p> <p>6月～7月 「データの分析」 収集したデータを整理する。 データを分析する。</p> <p>8月～9月 「結果の整理」 結果を図、表にまとめる。 論文の構成を検討し、結果まで（序章・文献検討・研究方法・結果）を記述する。</p> <p>10月～11月 「考察の記述」 分析した結果と文献検討の内容を比較検討する。 文献を用いて、考察を行う。</p> <p>12月 「論文の作成」 論文の構成に基づき、論文を記述する。 図、表、資料を見直し、完成する。</p> <p>1月～3月 「論文の完成」 論文を見直し、完成度を高める。 図、表、資料を見直し、完成度を高める。 審査（発表）のためのパワーポイントを作成する。 論文を完成する。</p> <p>毎回の講義方法は対面および個人ワーク・グループワークを適時組み入れる。予習・復習・課題についても、授業前後に提示する。</p> <p>教員は看護師として総合病院に勤務し、医療機関での実務経験をもとに、老年看護に関する研究の話をする。</p>
授業形態	集中講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に基づき、データ収集を行う。 2. 収集したデータを分析する。 3. 研究目的に沿って分析した結果をまとめ、記述する。 4. 分析した結果について文献を用いて考察し、記述する。 5. 論文を完成する。
評価方法	授業への取り組みと課題の達成状況で評価（論文の完成）100%する（*総点100点に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおりである）。
教科書	特に指定しない。
参考書・参考文献	随時提示する。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	倫理指針に基づいて、課題と真摯に向き合い、論文を完成できるように取り組みましょう。

講義科目名称： 応用看護学特別研究（地域・精神看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎川村道子 ◎川原瑞代 葛島慎吾			
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における、自己の問題意識を社会の現状や先行研究に照らして課題を焦点化する。課題解決のためにふさわしい研究方法を選択し、研究対象者への倫理上の配慮を行い、倫理的妥当性を持った研究計画立案、データ収集・分析の過程の個別指導を行いながら論文作成を支援する。 (川原) 在宅ケアに関する研究 (川村) メンタルヘルス、精神疾患患者の退院支援に関する研究
授業計画	1-10回 研究課題の明確化 自己の問題意識に沿って文献検討を行い、研究課題を焦点化する。 11-30回 研究計画の立案 ・研究デザインを選択する。 ・研究フィールドの調整と対象者の選定を行う。 ・データ収集方法及びデータの分析方法を検討する。 ・プレテストを行う。 ・研究計画書を作成する。 31-40回 研究倫理申請書の作成と倫理審査を受ける ・研究倫理申請書の作成と倫理審査を受ける。 ・審査結果を基に、研究計画内容の修正を行う。 41-120回 研究の実施 ・研究計画にそって倫理的配慮を行いながら計画を実行する。 1. 研究協力の依頼する 2. 倫理的配慮を行いながらデータを収集する 3. 信頼性、妥当性をたかめながらデータを分析する 4. 結果を解釈する 5. 考察する 121-150回 修士論文の作成 ・緒言から考察までの一連の流れで、論文を作成する。
授業形態	演習・研究
到達目標	1. 自己の問題意識を社会の現状や先行研究に照らして課題を焦点化することができる。 2. 課題解決のためにふさわしい研究方法を選択し、研究計画を立てることができる。 3. 研究計画に沿って、研究を実施し、論文を完成することができる。
評価方法	研究計画書(15%)、研究方法の的確さ(15%)、最終論文(70%)
教科書	適宜提示する
参考書・参考文献	適宜提示する
履修条件	地域・精神看護学特論及び地域・精神看護学演習を履修していること
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 応用看護学特別研究（公衆衛生看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎中村千穂子 ◎中尾裕之 ◎河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	個人や集団に関する健康問題に関して、公衆衛生看護の視点をもって、研究計画を立案し、論文の作成を行う。 (河野) 公衆衛生看護活動の課題解決を目指し、現場の意見や視点を取り入れた研究について論文を作成する。 (中村) ヘルスプロモーション活動の推進をめざし、地域診断や活動評価について分析し、論文を作成する。 (中尾) 健康問題の把握、健康課題への対策の検討、実施した対策の評価に関することを研究テーマとして、データを収集・分析し、論文を作成する。
授業計画	1-45回 研究計画の立案 研究計画の立案 文献検討，データ収集方法の検討，関係機関との調整，倫理審査 46-90回 データ収集 文献検索・整理，インタビュー実施・入力，調査票配布・回収・入力 91-120回 データ分析・結果の考察 解析，テーブルの作成，結果の解釈，文献再検討，考察 121-150回 論文作成 考察，方法，結果，イントロ，参考文献，要旨の作成
授業形態	研究
到達目標	1. 文献検討によって，最新の研究動向を把握することができる。 2. 妥当で信頼性が高く，そして，実施可能な研究計画を立案できる。 3. 最新の研究動向をふまえて，分析結果を考察することができる。 4. 論文を作成することができる。
評価方法	論文
教科書	適宜提示する。
参考書・参考文献	適宜提示する。
履修条件	公衆衛生看護学特論および公衆衛生看護学演習を履修していること。
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	我が国の公衆衛生及び公衆衛生看護の歴史、基本理念、目的、対象を理解する。また、地域における健康問題の予防と解決のために地域住民や関係者と協働して活動する方法の概要を理解する。
授業計画	<p>1回 公衆衛生看護とは 内容：【オリエンテーション】 【公衆衛生看護とは】 ・公衆衛生看護の定義 ・公衆衛生看護学の基本理念 ・公衆衛生看護の基盤となる概念 方法：講義、ディスカッション、DVD視聴 課題：教科書P1-10を読み理解する</p> <p>2回 公衆衛生看護とは（特別講師_小野美奈子先生） 内容：【公衆衛生看護とは】 ・公衆衛生看護の対象 ・事例を通して公衆衛生看護について理解する 方法：講義、グループワーク 課題：教科書P36-46を読み理解する</p> <p>3回 公衆衛生看護の歴史（特別講師_小野美奈子先生） 内容：【公衆衛生看護の歴史】 ・欧米の公衆衛生看護の歴史 ・日本の公衆衛生看護の歴史 方法：講義・DVD視聴 課題：教科書P11-34を読み理解する</p> <p>4回 公衆衛生看護活動の場と機能 内容：【公衆衛生看護活動の場と機能】 方法：講義、ディスカッション 課題：教科書P46-66を読み理解する</p> <p>5回 予防の概念と健康に影響する社会的要因 内容：【予防の概念と方法】 ・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ 【健康に影響する社会的要因】 ・社会情勢の変化と健康課題 ・健康格差と健康の社会的決定要因 方法：講義、ディスカッション 課題：教科書P67-96を読み理解する</p> <p>6回 公衆衛生看護活動の展開① 内容：【公衆衛生看護活動の根拠法令】 【公衆衛生看護活動の展開方法】 方法：講義、ディスカッション 課題：教科書P97-104を読み理解する</p> <p>7回 公衆衛生看護活動の展開②（特別講師_小野美奈子先生） 内容：【公衆衛生看護活動の展開方法】 【事業化、施策化について】 【保健師活動と記録】 方法：講義、ディスカッション 課題：教科書P105-117を読み理解する</p> <p>8回 公衆衛生看護活動の理論・モデルについて 内容：公衆衛生看護活動の理論・モデルについて ①ミネソタモデル ②PDCAサイクル ③ドナベディアンの評価モデル ④リレーショナルコーディネーションモデル ⑤コミュニティ参加型リサーチ ⑥変化の3段階理論 方法：講義、ディスカッション、プレゼンテーション 課題：教科書P120-138を読み理解する 講義内容①～⑥について調べる</p> <p>※担当教員は全員保健所、市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	講義

到達目標	<p>1. 公衆衛生看護の歴史、基本理念を理解する。</p> <p>2. 公衆衛生看護の目的は、地域の人々が安心して主体的に自らと地域の健康課題の解決に取り組み、保健師は住民・関係者と協働した地区活動を展開することを理解する。</p> <p>3. 公衆衛生看護の対象である生活者、生活集団、地域全体の捉え方の概要を理解する。</p> <p>4. 公衆衛生看護活動の展開について理解する。</p> <p>5. 公衆衛生看護活動に活用できる理論・モデルについて理解する。</p>
評価方法	<p>1) 講義への参加状況 (20%) 評価規準：各回で提示する本時の目標に対する到達状況を、授業感想カード、授業時の発言等により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②公衆衛生看護への関心の深まりの観点から評価する。</p> <p>2) プレゼンテーション (40%) 評価規準：講義で示されたプレゼンテーション内容に対し、①語句の説明は適切か、②現状や内容について調べ、伝えることが出来ているか、③公衆衛生看護学の観点から内容について理解し伝えることが出来ているか、④全体で討議したいことを示し、全体討議できたかの視点で評価する。</p> <p>3) 試験 (40%) 評価規準：各回提示の「本時の目標」に対する達成状況について、知識や考え方の理解と公衆衛生看護への理解の深まりの観点から、選択式または記述式の筆記試験で評価する。</p> <p>4) 評価基準：1) 2) 3) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。ただし、プレゼンテーションが出来なかった者は「不合格」とする。 ※総点 (100点) に対する成績評価区分S・Dは、履修既定のとおり</p>
教科書	保健学講座1 公衆衛生看護学概論 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	<p>新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版 日本地域看護協会出版会</p> <p>地域特性に応じた保健活動 ライフ・サイエンス・センター</p> <p>実践地域看護学 建帛社</p> <p>ふみしめて50年：保健婦活動の歴史 厚生省健康政策局計画課監修</p> <p>ふみしめて70年 日本公衆衛生協会</p> <p>無銘の語り保健師が「家族」に出会う12の物語 医学書院</p>
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	公衆衛生看護学原論Ⅰの講義と演習、実習等の科目を履修した後に、公衆衛生を担う保健師の活動方法や独自性や、公衆衛生看護専門職の職業倫理について学ぶ。
授業計画	<p>1－3回 自己の体験から公衆衛生看護活動の展開方法について考える 内容：オリエンテーション 公衆衛生看護の展開方法 講義・演習・実習を踏まえ、体験した活動事例等の分析を通して活動展開方法について学ぶ 方法：講義、演習、プレゼンテーション 課題：公衆衛生看護活動の展開について自己の体験を振り返っておく 必要な資料：公衆衛生看護活動の展開について振り返るために必要な実習記録や講義資料、本</p> <p>4－6回 保健師の専門性について 内容：保健師の機能と保健活動の理念について 方法：プレゼンテーション、ディスカッション 「私が考える保健師の機能と保健師活動の理念」を発表し、討議する 課題：保健師の機能と保健活動の理念についてこれまでの体験や学びを振り返る 必要な資料：保健師の機能と保健活動の理念についてまとめられるよう関連資料を持参する</p> <p>7回 公衆衛生看護と倫理 内容：公衆衛生看護活動と倫理 公衆衛生看護の責務 公衆衛生看護活動における倫理問題 公衆衛生看護実践の基盤となる原則 公衆衛生看護における倫理的判断のための方法論 事例検討 方法：講義、事例検討、ディスカッション 課題：教科書P190－207を読み理解する</p> <p>8回 まとめ 内容：公衆衛生看護における我が国の動向と今後の課題について 方法：講義、ディスカッション 課題：公衆衛生看護の動向について気になる課題について調べておく</p> <p>※担当教員は保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習での支援経験と学内での学習を統合し、公衆衛生看護の展開方法の同時性を理解する。 2. 保健師の専門性について自らの言葉を説明できる。 3. 専門職業人としての職業倫理を説明できる。 4. 公衆衛生・公衆衛生看護を取り巻く社会情勢を理解し、公衆衛生看護の今後の課題について論議する。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義の参加状況 (30%) 評価規準：各回で提示する本時の目標に対する到達状況を、授業感想カード、授業時の発言により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②公衆衛生看護への理解の広がりや深まりの観点から評価する。 2) プレゼンテーション<2回> (70%) 評価規準：プレゼンテーション課題に対し、①自己の体験が他者に分かるように表現されているか、②表現した事実からプレゼンテーション課題について自身の考えの広がりや深まりについて表現できたか、③プレゼンテーション資料は他者と共有できるように可視化に工夫することが出来たか 3) 評価基準：1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。ただし、プレゼンテーションが出来なかった者は、「不合格」とする。 <p>※総点 (100点) に対する成績評価区分S～Dは、履修既定のとおり</p>
教科書	保健学講座1 公衆衛生看護学概論 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	公衆衛生を担う保健師の専門性 実践地域看護学

履修条件	1年次の全必修科目について単位取得済みであること
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：否

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎河野朋美 中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉保健師の地区活動の基本となる地域診断について、意義と技法について理解する。地域診断に必要なデータの種類を知り、データを活用してアセスメントする方法について理解する。また、地域の健康課題の抽出方法について知り、健康課題の優先順位を決定する方法の理解を深める。</p> <p>〈概要〉 地域診断の理解に必要なモデル・理論や地域アセスメントの具体的な技法、手法について取り上げ、文献などを通して理解を深めていく。</p>
授業計画	<p>1回 【地域アセスメントとは】 〈内容〉 ・オリエンテーション ・公衆衛生看護過程（アセスメントと評価） ・健康課題の優先性の判断 〈方法〉 講義・グループワーク 〈課題〉 教科書の以下のページを読んで理解する</p> <p>2回 【地域アセスメントとは】 〈内容〉 ・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ ・プログラム評価 〈方法〉 講義・グループワーク 〈課題〉 教科書の以下のページを読んで理解する</p> <p>3回 【地域アセスメントに用いられる理論・モデル】 〈内容〉 ・コミュニティ・アズ・パートナーモデル 〈方法〉 講義・グループワーク 〈課題〉 教科書の以下のページを読んで理解する</p> <p>4回 【地域アセスメントに用いられる理論・モデル】 〈内容〉 ・プリシード・プロシードモデル 〈方法〉 講義・グループワーク 〈課題〉 教科書の以下のページを読んで理解する</p> <p>5回 【領域・対象別アセスメント】 〈内容〉 ・母子を対象としたアセスメント 〈方法〉 講義・グループワーク 〈課題〉 教科書の以下のページを読んで理解する</p> <p>6回 【領域・対象別アセスメント】 〈内容〉 ・KDBシステム、地域包括ケアみえる化システムの理解 ・成人・高齢者を対象としたアセスメント 〈方法〉 講義・グループワーク 〈課題〉 教科書の以下のページを読んで理解する</p> <p>7回 【データ収集と分析】 〈内容〉 ・地区視診、インタビュー（個別・グループ）、フォトボイス 〈方法〉 講義・グループワーク 〈課題〉 教科書の以下のページを読んで理解する</p> <p>8回 【まとめ】 〈内容〉 ・これまでの学習の振り返り、フィードバック 〈方法〉</p>

	<p>講義・グループワーク (課題) 教科書の以下のページを読んで理解する</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	講義 グループワーク
到達目標	<p>①対象地域の基本構造を把握するための項目、人口集団の概要を把握するための項目について説明できる。</p> <p>②アセスメント（地域診断）のためのデータ源、データ収集方法、データ分析方法について説明できる。</p> <p>③収集した情報をアセスメントし、地域特性や健康課題について説明できる。</p> <p>④健康課題の優先度の判断について説明できる。</p> <p>⑤地域アセスメントに基づいて、健康課題解決のための新たな組織化、施策化、社会資源の開発、システム構築の必要性について説明できる。</p>
評価方法	<p>1) 講義内容の理解 (80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準：各回で提示する本時の目標に対する到達状況を授業感想カード、授業時の発言等により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②公衆衛生看護への関心の深まりの観点から評価する →各10点×8回分の80点満点で得点化 <p>2) 「公衆衛生看護における地域診断の意義」レポート (20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準：講義内容や自己学習などを踏まえ、自己の考えを記述することができる →20点満点で得点化 <p>3) 評価基準：1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする ※総点 (100点) に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり</p>
教科書	保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド, 第2版, 医歯薬出版株式会社
参考書・参考文献	公衆衛生看護学テキスト②公衆衛生看護の方法と技術, 第2版, 医歯薬出版株式会社
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	地域診断論演習・基礎実習 I と連動して講義を展開していきます。
備考・メッセージ	講義・演習後は実習フィールドの資料や関連分野の情報を十分に把握し、整理・分析を繰り返すようにしてください。 オンライン受講の可否：否

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎河野朋美 中村千穂子			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目 I	1セメスター	60時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉健康課題をアセスメントし、地域の顕在化している課題に加え、潜在的な課題を抽出し、地域特性に基づく健康課題の検討、社会資源、地区組織、NPO・NGO、住民組織など、コミュニティを支える集団・組織や住民との協働を基盤とした保健活動計画（評価計画含む）の展開に必要な知識・技術について学習します。</p> <p>〈概要〉基礎実習Ⅰを行う実習フィールドの地域診断に必要な質的・量的データを、既存資料、地区踏査などから情報収集・分析を行い、地域の健康課題と必要な保健活動計画を立案します。すべてのプロセスにおいて教員や実習指導者、他の院生へのプレゼンテーション・ディスカッションを行いながら進め、地域診断を深めていきます。</p>
授業計画	<p>第1回 地域アセスメントのための情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・出身地の紹介 ・地域アセスメントに必要なデータ源 <p>第2回 統計資料の種類と見方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種政府統計調査結果（e-stat） ・都道府県統計データ ・自治体保健福祉計画 <p>第3回 情報のみえる化・みせる化</p> <p>Web教材「見せる公衆衛生看護技術」http://www.phnspace.umin.jp/miseru/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-statを用いて既存の統計データの収集、活用方法について理解する <p>第4回 データ情報の整理・統合/アセスメント</p> <p>抽出したデータの整理や統合の方法やアセスメントの実際について事例から学ぶ</p> <p>第5回 既存資料等からの情報収集・アセスメント①母子保健</p> <p>アセスメント項目の確認と情報源の確認し、情報の整理を行う。整理を通してアセスメントしたことを議論する</p> <p>第6回 既存資料等からの情報収集・アセスメント②成人保健</p> <p>アセスメント項目の確認と情報源の確認し、情報の整理を行う。整理を通してアセスメントしたことを議論する</p> <p>第7回 既存資料等からの情報収集・アセスメント③高齢者保健</p> <p>アセスメント項目の確認と情報源を確認し、情報の整理を行う。整理を通してアセスメントしたことを議論する</p> <p>第8回 地域診断のプロセス</p> <p>地域診断をすすめる上での主な手法やプロセスを理解し、本講義の着地点について再確認する</p> <p>第9回 既存資料等からの情報収集・アセスメント④統合</p> <p>既存資料等の収集・整理、現地での地区視診やインタビュー調査等の実施を各自進める</p> <p>第10回 住民の視点での地区踏査①</p> <p>住民の視点から生活する上での弱み・強みについて、地区踏査を実施する</p> <p>第11回 住民の視点での地区踏査②</p> <p>車や徒歩などを使用し、地域の生活や環境について五感で捉えることができる</p> <p>第12回 住民の視点での地区踏査③</p> <p>可能な範囲で住民とコミュニケーションを図る。</p> <p>地域の実際に触れることで、量的データでは読み取れなかったことに気づくことができる。</p> <p>第13回 既存資料等からの情報収集・アセスメント、分析①コアシステム</p> <p>アセスメント項目の確認と情報源を確認し、情報の整理を行う。整理を通してアセスメントしたことを議論する</p> <p>第14回 既存資料等からの情報収集・アセスメント、分析②サブシステム</p> <p>アセスメント項目の確認と情報源を確認し、情報の整理を行う。整理を通してアセスメントしたことを議論する</p> <p>第15回 既存資料等からの情報収集・アセスメント、分析③サブシステム</p> <p>アセスメント項目の確認と情報源を確認し、情報の整理を行う。整理を通してアセスメントしたことを議論する</p> <p>第16回 既存資料等からの情報収集・アセスメント、分析④統合</p> <p>情報の整理・分析を行う。整理・分析を通してアセスメントしたことを議論する</p> <p>第17回 既存資料等からの情報収集・アセスメント、分析⑤抽出</p> <p>情報の整理・分析から健康課題の抽出を行う。プロセスを通してアセスメントしたことを議論する</p> <p>第18回 市町村計画での位置付けと整合性</p> <p>保健師の課題意識と自身が捉えた課題との比較、検討を行う</p> <p>第19回 保健師の視点での地区踏査①</p>

	抽出した地域特性、健康課題を念頭に、地区視診の枠組みをもって、地区踏査を実施する 第20回 保健師の視点での地区踏査② 抽出した地域特性、健康課題を念頭に、地区視診の枠組みをもって、地区踏査を実施する 第21回 保健師の視点での地区踏査③ 抽出した地域特性、健康課題を念頭に、地区視診の枠組みをもって、地区踏査を実施する 第22回 地域特性の統合① 地区踏査で収集した質的データの整理を行う 第23回 地域特性の統合② 地区踏査で収集した質的データの分析を行う 第24回 プレゼン【地域診断結果】中間発表①（学内） 基礎実習Ⅰ（前半）前に捉えた地域診断結果及び保健活動計画（実習計画）を発表し、討議を行う 第25回 プレゼン【地域診断結果】中間発表②（学内） 基礎実習Ⅰ（前半）後に捉えた地域診断結果及び今後の保健活動計画を発表し、討議を行う 第26回 地域特性の統合③ これまでの質的・量的データを統合する 第27回 プレゼン【地域診断結果】最終発表①（学内）※実習説明会と同時開催 地域診断結果及び保健活動計画（実習計画）を発表し、実習指導者も交えて討議を行う 第28回 プレゼン【地域診断結果】最終発表②（学内）※実習説明会と同時開催 地域診断結果及び保健活動計画（実習計画）を発表し、実習指導者も交えて討議を行う 第29回 地域診断のまとめ① 最終発表時の助言等をもとに修正し、地域診断結果をまとめる 第30回 地域診断のまとめ② 最終発表時の助言等をもとに修正し、地域診断結果をまとめる
授業形態	演習
到達目標	1. 地域診断の概念・関連する理論（モデル）・地域の人々の生活と健康の情報を収集する方法を理解し、計画・実践できる 2. 地域の健康課題の抽出に必要な量的・質的データを情報収集し、分析できる 3. 健康課題を抽出するために情報を統合し、地域の強みと弱みに着目しながら、アセスメントができる 4. 地域の人々の生活と健康の情報をアセスメント・分析し、生活・健康の特徴を明らかにすることができる 5. 情報収集、分析・健康課題抽出、計画、実施、評価までの一連の過程（地域診断）が、地区活動の展開と地域ケアシステムへと発展する過程であることを理解することができる
評価方法	1) 講義内容の理解（30%） ・評価規準：各回で提示する本時の目標に対する到達状況を、授業感想カード、授業時の発言等により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②公衆衛生看護への関心の深まりの観点から評価する →各回10点満点×30回＝300点を30点満点に換算し得点化 2) プレゼンテーション（70%） ・評価規準：実習フィールドについて、①地域の人々の生活と健康に関する情報を収集できているか、②収集した情報を多角的にアセスメントできているか、③地域の顕在的・潜在的な健康課題を見出しているか、④健康課題の優先度を検討できているか、⑤健康課題に対する支援計画（保健活動計画）を立案できているか、⑥他者に伝わるように内容は適切であるか、⑦表現方法やレイアウトは適切であるかといった点から評価する。 →各項目10点×7＝70点満点で得点。 3) 評価基準：1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。 ※総点（100点）に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり
教科書	岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 佐伯和子編著：地域看護アセスメントガイド第2版、医歯薬出版、2018.
参考書・参考文献	Elizabeth T. Anderson, Judith McFarlane：金川克子、早川和生監訳：コミュニティーアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版、医学書院、2007. 金川克子、田高悦子編：地域看護診断 第2版、東京大学出版会、2011. 平野かよ子、尾崎米厚：事例から学ぶ保健活動の評価、医学書院、2001. 公衆衛生看護学テキスト②公衆衛生看護の方法と技術、第2版、医歯薬出版株式会社
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	「地域診断論」「基礎実習Ⅰ」と連動して授業を展開します。
備考・メッセージ	講義・演習後は実習フィールドの資料や関連分野の情報を十分に把握し、整理・分析を繰り返すようにしてください。 オンライン受講の可否：否

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎河野朋美 中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉ライフステージ別の保健医療福祉政策の動向と健康課題に関連する法・制度を学び、健康の維持・向上あるいは健康・生活問題を解決する保健活動方法を理解する。</p> <p>〈概要〉 母子・成人・高齢者・歯科保健について、保健医療福祉政策の現状を理解した上で、具体的な保健活動について全国や宮崎県の活動事例報告の文献を活用して学習していきます。また、基礎実習 I の実習フィールドのライフステージ別の保健医療福祉事業について整理することで理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1-2回 【母子保健活動】前半（担当：河野） 〈内容〉 ・母子保健医療福祉の動向と今後の課題 （リプロダクティブヘルス・ライツ、ジェンダーと性の多様性、少子化と次世代育成支援施策、性と生殖に関する医療と生命倫理、健やか親子21、妊娠・出産包括支援事業、周産期メンタルヘルス） ・母性各期と乳幼児期の保健指導 ・母子保健活動の実際</p> <p>〈方法〉 講義・グループワーク</p> <p>〈課題〉 ・教科書の以下のページを読んで理解する ・以下の文献を読んで理解する</p> <p>第3-4回 【母子保健活動】後半（担当：河野） 〈内容〉 ・母性各期と乳幼児期の保健指導 ・母子保健活動の実際 ・女性のライフサイクル各期の健康課題と支援</p> <p>〈方法〉 講義・グループワーク</p> <p>〈課題〉 ・教科書の以下のページを読んで理解する ・以下の文献を読んで理解する</p> <p>第5-6回 【成人保健活動】前半（担当：中村） 〈内容〉 ・成人保健医療福祉動向と今後の課題 ・成人期の保健活動、 ・特定健診保健指導、重症化予防保健指導（高血圧症、糖尿病、脂質異常症）など</p> <p>〈方法〉 講義、グループワーク</p> <p>〈課題〉 ・教科書の該当ページを読んで理解する</p> <p>第7-8回 【成人保健活動】後半（担当：中村） 〈内容〉 ・データヘルス計画・健康増進計画 ・NDBの活用 ・保健行動の理解とアセスメントに基づく支援（理論・モデルを用いた保健行動の理解）</p> <p>〈方法〉 講義、グループワーク</p> <p>〈課題〉 ・教科書の該当ページを読んで理解する</p> <p>第9回 【高齢者保健活動】（担当：中村） 〈内容〉 ・高齢者保健医療福祉の動向と今後の課題、 ・高齢者の健康課題と支援、高齢者への保健活動の実際 ・介護予防 ・地域包括ケアシステム ・高齢者虐待、セルフネグレクト</p> <p>〈方法〉 講義、グループワーク</p> <p>〈課題〉 ・教科書の該当ページを読んで理解する</p> <p>第10回 【歯科保健活動】（担当：河野） 〈内容〉 ・歯科に関する知識の復習</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科保健医療福祉の動向と今後の課題 ・ 生涯を通じた歯科口腔保健対策 〈方法〉 講義、グループワーク 〈課題〉 ・ 教科書の以下のページを読んで理解する ・ 以下の文献を読んで理解する <p>第11-14回 【ライフステージ別の保健活動の整理】（担当：河野）</p> <p>〈内容〉 ライフステージ別保健活動について、学習内容を整理、体系化（図式化）する（テスト含）</p> <p>〈方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習したライフステージ別の保健活動について復習し、実習フィールドの保健活動施策について内容を整理し、体系化（図式化）し、現状と課題について考察する。 ・ また、ライフステージ別の保健活動について、筆記試験により理解を確認する。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先のライフステージ別の保健活動について情報の収集・整理し、現状と今後の課題について発表できるように準備を行う。 <p>第15回 【ライフステージ別の保健活動】（担当：河野）</p> <p>〈内容〉 ライフステージ別保健活動体系について発表する</p> <p>〈方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習フィールドのライフステージ別の保健活動についてのプレゼンテーション（1人10分程度）を行い、全体でディスカッションを行い、保健活動について理解を深めるとともに、地区踏査等の演習・実習での活動の方向性を検討する。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先のライフステージ別の保健活動について情報の収集・整理し、現状と今後の課題について発表できるように準備を行う <p>*担当教員は全て、保健所または市町村において勤務経験があり、この実務経験をもとに授業を行います</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージ別・健康課題別の保健医療福祉政策の動向と健康課題に関連する法・制度が記述できる。 2. ライフステージそれぞれの健康課題と必要な支援を記述できる。 3. ライフステージ各期における保健師の支援の基本的な考え方を説明できる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 筆記試験（50%） ・ 評価規準：各回提示の「本時の目標」に対する達成状況について、知識や考え方の理解と公衆衛生看護への理解の深まり の観点から、選択式または記述式の筆記試験で評価する。 2) 実習フィールドの保健活動体系についてのプレゼンテーション（50%） ・ 評価規準：実習フィールドの地域特性を踏まえて、①各ライフステージの保健活動を体系的に整理できているか、②現在の保健活動の課題を検討することができているか、③他者にわかりやすいように発表できているかという点から評価する。 3) 評価基準：1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。 ※総点（100点）に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり
教科書	岸恵美子・村嶋幸代：保健学講座 3 公衆衛生看護活動展開論，メヂカルフレンド，2022.
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	<p>「地域診断論」「地域診断論演習」を進める上での必要な保健活動の理解となりますので、地域アセスメントと関連させながら学習を進めてください。</p> <p>オンライン受講の可否：否</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
◎河野朋美 川村道子 特別講師			
添付ファイル			

授業の目的・概要	複雑困難な健康課題を有する人々を支援する能力を養うことを目的として、障害者（児）保健・福祉、精神保健、難病保健、感染症保健等の対象に対する具体的な事例をもとに、支援を求めない人々、制度の網目から抜け落ちる人々、複雑困難な健康課題を有する人々を支援する能力を養う。
授業計画	<p>1－3回 オリエンテーション、障がい者（児）保健福祉活動</p> <p>内容：【障がい者（児）保健福祉活動】 河野 障害者（児）保健医療福祉の動向 障害者（児）の健康課題と支援 障がい者（児）保健福祉活動における保健師の役割（河野）</p> <p>方法：講義</p> <p>課題：P151 - 175を読み理解する</p> <p>4－6回 精神保健活動</p> <p>内容：【精神保健活動】 川村・河野 精神医療福祉の動向 精神保健における健康課題と支援 精神保健福祉センターにおける支援の実際（川村）</p> <p>保健所における精神保健活動の実際 精神保健活動における保健師の役割（河野）</p> <p>方法：講義</p> <p>課題：教科書P123 - 138を読み理解する</p> <p>7－9回 難病保健活動</p> <p>内容：【難病保健活動】 特別講師・河野 難病保健の動向と保健師活動の実際 難病患者の健康課題と個別支援 小児慢性特定疾病患児の健康課題と個別支援（特別講師）</p> <p>難病保健活動における保健師の役割（河野）</p> <p>方法：講義</p> <p>課題：教科書P179 - 203を読み理解する。</p> <p>10－12回 感染症保健活動</p> <p>内容：【感染症保健活動】 特別講師・河野 感染症対策の動向と保健師活動の実際 感染症対策の実際 感染症対策における疾患管理と支援 予防接種（特別講師）</p> <p>感染症保健活動における保健師の役割（河野）</p> <p>方法：講義</p> <p>課題：教科書P205 - 255を読み理解する</p> <p>13－15回 まとめ</p> <p>内容：実習での事例を基に対象への支援について考える 基礎実習Ⅱで経験した事例の共有を行い、支援方法について理解を深める。</p> <p>方法：プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>※担当教員は保健所や市町村での勤務経験や関連分野における実務経験が有しており、講義を行います</p>

授業形態	講義、演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者（児）に関する法・制度及び、対象の支援方法について理解する。 2. 精神保健に関する法・制度及び、対象の支援方法について理解する。 3. 難病に関する法・制度及び、対象の支援方法について理解する。 4. 感染症に関する法・制度及び、対象の支援方法について理解する。 5. 1～4における保健師の役割について説明できる。
評価方法	<p>1) 講義への参加状況 (20%) 評価規準：各回で提示する本時の目標に対する到達状況を、授業感想カード、授業時の発言等により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②公衆衛生看護への関心の深まりの観点から評価する。</p> <p>2) 筆記試験 (80%) ・評価規準：各回提示の「本時の目標」に対する達成状況について、知識や考え方の理解と公衆衛生看護への理解の深まりの観点から、選択式または記述式の筆記試験で評価する。）</p> <p>3) 評価基準：1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。 ※総点 (100点) に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり</p>
教科書	保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	基礎実習Ⅱと連動して講義を行います。
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：講師との調整により可

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(目的) 学校・産業における場や対象の特性を理解し、組織的に展開されている保健活動の実際を学ぶとともに、養護教諭や産業保健師(看護職)の役割を考察する。</p> <p>(概要) 学校保健と産業保健それぞれについて、特別講師による実際の保健活動や事例による講義・ディスカッションと担当教員による歴史や背景、法律、動向などの講義により学修する。最終講義では各講義での学びを整理し、学校保健や産業保健と行政保健の共通点・相違点、保健師の役割についても検討する。</p>
授業計画	<p>1回 【オリエンテーション】 <担当教員>中村千穂子</p> <p>講義全体のオリエンテーションと学修方法について (0・5コマ分)</p> <p>2回 【産業保健活動の実際：基礎編】 <特別講師>旭化成株式会社延岡支社 赤木真希子産業保健師</p> <p>内容：旭化成株式会社の概要 産業保健活動の実際と旭化成株式会社における特徴 企業内外での連携 事例検討</p> <p>などを通し、産業保健活動の実際と基礎的内容を学ぶ</p> <p>方法：講義、事例のディスカッションなど</p> <p>事前学習：特別講師へ質問したいことを整理しておく</p> <p>【課題レポート】講義の感想と理解したこと A4用紙1枚 冒頭にタイトルと学籍番号、氏名を記入</p> <p>3回 【産業保健の実際：総括編】 <特別講師>九州電力株式会社 西尾仁美産業保健師</p> <p>内容：九州電力株式会社の概要 産業保健活動の実際と九州電力における特徴 企業内外での連携 事例検討</p> <p>など産業保健活動の実際や実習と連動する内容などを通し、 産業保健活動の総括的内容を学ぶ</p> <p>方法：講義、事例のディスカッション</p> <p>事前学習：特別講師へ質問したいことを整理しておく</p> <p>【課題レポート】講義の感想と理解したこと A4用紙1枚 冒頭にタイトルと学籍番号、氏名を記入</p> <p>4回 【2・3回講義のまとめ、振り返り】 <担当教員>中村千穂子</p> <p>特別講師による講義を振り返り、大企業における産業保健の課題について考える。 産業保健総合支援センターや地域産業保健センターの役割から中小企業における健康管理についても視点を広げて、課題を捉える。</p> <p>5 - 6回 【学校保健活動の実際】 <特別講師>長倉莉穂養護教諭</p>

	<p>内容：養護教諭の業務と役割 事例検討 実際に作成・使用している媒体等</p> <p>方法：講義 事例のディスカッション</p> <p>事前学習：特別講師へ質問したいことを整理しておく</p> <p>【課題レポート】講義の感想と理解したこと A4用紙1枚 冒頭にタイトルと学籍番号、氏名を記入</p> <p>7回 【5～6回講義のまとめ、振り返り】＜担当教員＞中村千穂子</p> <p>特別講師による講義を振り返り、養護教諭の役割、具体的な保健活動の実際から学校保健の課題について検討する。 学校保健において求められる保健師の役割についても考察する。</p> <p>8回 【学びの振り返り・学校保健・産業保健確認テスト】 ＜担当教員＞中村千穂子</p> <p>内容：学校保健、産業保健の学びについてディスカッションを行った後、確認テストを行う。</p> <p>1. ディスカッション…学校保健と産業保健における学びを整理した上で、下記についてお互いに意見を出しあうことで理解を深め、保健師の役割について検討する。</p> <p>①学校保健と産業保健の違い なぜ違うのか？どこが違うのか？</p> <p>②両者が似ていると感じた活動はないか そう感じた理由は？ 行政保健ではどうか？</p> <p>持参するもの：これまでの講義資料＋レポート（3回分）のコピー</p> <p>2. 定期試験（60分）</p> <p>※テスト内容の詳細は別途案内する</p> <p>*担当教員は教員委員会での学校保健実務や学校・産業実習指導の経験をふまえ、講義を行います。</p> <p>*2・3回は県内の企業において実務経験を有する産業保健師2名がそれぞれ講義を行います。 ともに発展実習Ⅰの実習施設です</p> <p>*5・6回は県内の学校において実務経験を有する養護教諭が講義を行います。</p>
授業形態	講義
到達目標	<p>1. 学校における保健活動の概要が理解できる</p> <p>2. 産業における健康管理の特徴が理解できる</p> <p>3. 学校、産業、行政における保健活動の共通点と相違点について考えを表現できる</p>
評価方法	<p>評価規準</p> <p>1) 課題レポート30%</p> <p>特別講師講義へのレポート 10%×3回=30%</p>

	<p>①提出ルールの遵守 ②他者に伝える内容としての適切性・表現力 ③起承転結の構成力 ④感想だけでなく理解したことについても記述できているか について評価し、1回あたり10点満点 で点数化する。 2) 定期試験70% 学校保健・産業保健計100点を70%換算で点数化する。 評価基準：1)～2)の合計を100点満点とし、60点以上を合格とする。総点に対する成績評価区分S～Dは、履 修規定のとおり。</p>
教科書	適宜資料を配布
参考書・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学講座 公衆衛生看護活動展開論 メヂカルフレンド社 ・公衆衛生看護学テキスト第4巻 公衆衛生活動Ⅱ 学校保健・産業保健 医歯薬出版 ・国民衛生の動向 ・職場の健康が見える 産業保健の基礎と健康経営 メディックメディア ・学校保健マニュアル 南山堂
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
◎木添茂子（科目調整担当教員：河野朋美）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	保健師が担う公衆衛生看護におけるマネジメント機能、特に管理的な立場の保健師が担う管理について理解する。この管理の一端として健康危機である事前災害や感染症の集団発生時の管理について理解する。		
授業計画	1-2回	<p>公衆衛生看護管理（木添）</p> <p>内容：オリエンテーション 公衆衛生看護管理とは 公衆衛生看護管理の諸理論（リーダーシップ論・組織管理論） 管理的立場の保健師の役割</p> <p>方法：講義</p>	
	3回	<p>健康危機管理（特別講師：小野）</p> <p>内容：健康危機管理の理念と目的 様々な要因による健康上の危機的要因 リスクマネジメントの過程と保健師の役割</p> <p>方法：講義</p>	
	4-5回	<p>管理的立場の保健師の役割と人材育成（木添）</p> <p>内容：管理的立場の保健師の役割 人材育成/キャリアラダー 都道府県等の本庁における保健師の役割 個別支援・集団対応に関連する事例管理、情報管理、事例検討等による人材育成</p> <p>方法：講義、事例検討 課題：事例検討の事例を読み必要な支援について考えておく</p>	
	6回	<p>行政保健師としての危機管理（特別講師：小野）</p> <p>内容：①公務員と一般人の不祥事の違い ②公務員のコンプライアンス ③支援者からの暴力等を未然に防ぐために必要なこと</p> <p>方法：講義</p>	
	7-9回	<p>保健活動の業務管理と施策化（木添）</p> <p>内容：活動の稼働量、必要保健師数の算定、活動の評価 計画の策定・施策化・予算管理</p> <p>方法：講義 課題：実習体験を振り返り、実習地域に必要な新規事業又は施策について焦点化しておく</p>	
	10-15回	<p>施策の提案（木添、特別講師：小野）</p> <p>内容：公衆衛生看護管理のまとめとして、これまでの実習体験から新規事業または施策の提案を行う。 方法：グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション 課題：講義最終回の発表に向けて実習体験をとおして考えた新規事業又は施策についてプレゼンテーションの準備を行う。</p>	
	<p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>		

授業形態	講義・演習
到達目標	<p>1. 公衆衛生看護活動には、地域住民への支援であるケア機能と活動を円滑に進めるための連携調整や地域の課題の解決に必要な仕組みづくりである企画・立案等のマネジメント機能について理解する。</p> <p>2. 保健活動の評価を行う体制を築くことの必要性を理解する。</p> <p>3. 保健師が担う地域管理、組織運営管理、事例管理、業務管理、予算管理、情報管理、人事管理等、地域資源の質保証の管理機能を理解する。</p> <p>4. 保健師が担う人材育成機能を理解する。</p> <p>5. 健康危機時に求められる管理機能と健康危機を予防する管理機能について理解する。</p>
評価方法	<p>1) 講義への参加状況 (20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準：各回で提示する本時の目標に対する到達状況を、授業感想カード、授業時の発言等により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②公衆衛生看護への関心の深まりの観点から評価する <p>2) プレゼンテーション (30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準：プレゼンテーションの評価基準は、単元の講義中に詳細に示す <p>3) 筆記試験 (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準：各回提示の「本時の目標」に対する達成状況について、知識や考え方の理解と公衆衛生看護への理解の深まりの観点から、選択式または記述式の筆記試験で評価する。 <p>評価基準：1) 2) 3) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。 ※総点 (100点) に対する成績評価区分S~Dは、履修規程のとおり</p>
教科書	保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	災害時の保健活動推進マニュアル 2020 日本公衆衛生協会/全国保健師長会
履修条件	1年次の全必修科目について単位取得済みであること
科目等履修	不可
履修上の留意点	公衆衛生看護管理論・健康危機管理論演習、発展実習Ⅱ（公衆衛生看護管理・健康危機管理実習）と連動させて学びを深めていきます。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎高本佳代子（科目調整担当教員：河野朋美）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護に関連する法制度の概要と政策形成過程を理解し、政策形成における看護職の役割を理解する。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 我が国の看護施策 医療をめぐる社会情勢と看護・保健の重点課題</p> <p>2回 看護の法制度 保健師助産師看護師法 看護師等人材確保法</p> <p>3回 医療に関する法制度 医療法 診療報酬制度</p> <p>4回 保健福祉の法制度 地域保健法 地方自治法 改正介護保険法</p> <p>5回 法制度の制定と改正 関心のある法制度の制定から改正の経緯の分析</p> <p>6回 看護政策の政策形成過程 看護行政のしくみ 政策決定過程と看護職の参画</p> <p>7回 身近な課題の政策立案 看護上の身近な課題について考えよう！ 身近な課題の解決のために必要な政策について考える。</p> <p>8回 政策案の発表 まとめ</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 今日の社会情勢を鑑み、医療、看護等の社会保障、保健等の公衆衛生の課題を概観する。 保健・福祉、医療と政治・経済の関連を理解する。 医療と看護に関連する法制度を理解する。 看護関連の政策形成と看護職の役割を理解する。 法制度の制定と改正について理解する。
評価方法	<p>1) 講義への参加状況 (20%) 評価規準：各回で提示する本時の目標に対する到達状況を、授業感想カード、授業時の発言等により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②看護政策への関心の深まりの観点から評価する。</p> <p>2) プレゼンテーション (80%) 評価規準：講義で示されたプレゼンテーション内容に対し、①語句の説明は適切か ②現状や内容について調べ、伝えることが出来ているか ③看護政策の観点から内容について理解し伝えることが出来ているか ④全体で討議したいことを示し、全体討議できたかの視点で評価する。</p> <p>3) 評価基準：1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。ただし、プレゼンテーションが出来なかった者は「不合格」とする。 ※総点 (100点) に対する成績評価区分S~Dは、履修既定のとおり</p>
教科書	看護管理学習テキスト第4版 第1巻保健医療福祉制度・政策論 日本看護協会出版会 2026 看護サービス管理 第5版 医学書院 2018
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：講義内容によって可

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域ケアシステム の概念や地域ケアシステムの分析方法を理解し、ケアシステム構築において住民や関係者との調整、合意形成、協働を促進する方法を理解する。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション (中村) 地域ケアシステム 内容：1. 地域ケアシステムとは ▶組織・機関とは ▶地域ケアシステムの概念 (システム論/ネットワーク論) 2. 地域ケアシステムの構築 ▶地域ケアシステムの発展過程 方法：講義 課題「地域ケアシステム」について自己学習しておく</p> <p>2回 保健活動における連携 (中村) 内容：ネットワークの形成とシステムづくりの実際 ▶仲間づくり・ネットワーク 具体的な事例の紹介 (住民の仲間づくり) ▶住民・関係者とのチームワーク、協働 ・住民参加の計画策定/ネットワークの活用 ▶関係機関・関係職種との連携 ・保健師 (保健所・市町村) の連絡会 ・複雑困難な事例への対応 具体的な事例の紹介 (児童虐待予防のネットワーク/障害児の療育相談を通じたネットワーク) 方法：講義・グループワーク・ディスカッション 事前課題：児童虐待に関する法律や施策、障がい児に関する法律や施策について自己学習しておく</p> <p>3回 地域ケアシステム構築のポイント (中村) 内容：地域ケアシステム構築のポイント ▶問題の気づき・発見のポイント ▶話し合いの場のポイント ▶メンバーが所属する組織・機関でのポイント ケアシステムの構築に求められる資質 方法：講義、ディスカッション 事後課題：教科書該当箇所を復習する</p> <p>4-5回 切れ目のない母子保健システム (特別講師_未定) 内容：地域の母子ケアシステム ▶宮崎市の母子ケアシステムの実際 ▶地域ケアシステムにおける保健師の役割 方法：講義、ディスカッション 事前課題：母子保健に関する施策について復習しておく</p> <p>6-7回 地域包括ケアシステム 内容：地域包括ケアシステム ▶活動の根拠となる法律・制度及び基礎知識 方法 講義・事例検討 【事例1】 認知症高齢者の早期発見対応システムおよび支援ネットワークを構築した事例 【事例2】 高齢者の閉じこもりの地域格差を見出し、新たな事業を活用して地域住民と解決に取り組んだ事例 事前課題：地域包括ケアシステムについて自己学習しておく</p> <p>8回 まとめ 内容：連携、ネットワーク化、システム化における保健師の役割 方法：様々な地域ケアシステムの事例のプレゼンテーションから保健師の役割を考える 課題：地域ケアシステムの実例 (実習体験/文献) を紹介できるよう準備する</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>

授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. システム及びネットワークの概念を理解する。 2. 地域の人々のつながりによる活動を把握し、保健師の関わりを理解する 3. 組織内外の保健医療従事者の連携を理解する 4. 地域ケアシステムの構築・維持・発展における保健師の役割を理解する
評価方法	<p>1) 授業への参加状況 (40%) 評価規準：各回で提示する本時の目標に対する到達状況を、授業感想カード、授業時の発言等により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②公衆衛生看護への関心の深まりの観点から評価する。</p> <p>2) レポート (60%) 評価規準：地域ケアシステムにおける保健師の役割についてレポートする。①地域ケアシステムの事例紹介 ②保健師の役割についての記述について評価する。</p> <p>3) 評価基準：1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。 ※総点 (100点) に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり</p>
教科書	保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動 第2版 医歯薬出版株式会社 保健活動事例集 (2012) 日本公衆衛生学会公衆衛生看護の在り方検討会
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	基礎実習Ⅰ、基礎実習Ⅱと連動して学びを深めていきます。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域ケアシステム論で理解した地域ケアシステムの理解（ケアシステム構築に向けた住民や関係機関との合意形成と協働を促進する方法等）を基として、地域ケアシステムを用いて地域の課題やニーズを明らかにし、関係機関と協働して、理解する方法や事業化、施策化及び社会資源の開発に地域ケアシステムを活用することを理解する。また、地域ケアシステムの形成、運用における保健師の役割を理解する。
授業計画	<p>1－3回 オリエンテーション（中村） 内容：地域ケアシステムとは 方法：事例検討：切れ目のない母子保健システムの事例から地域ケアシステムの構築と推進について考える 【事例1】市町村におけるネウボラの構築と推進 ▶活動の根拠となる法律・制度及び基礎知識の確認 ▶ネウボラ構築のプロセス ▶公衆衛生看護アセスメント ▶公衆衛生看護活動の具体的な展開（PDCA）</p> <p>4－6回 地域ケアシステムを構成する専門職の役割と連携（特別講師） 内容：1. 母子の地域ケアシステムにおける言語聴覚士の実践及び役割と保健師の連携 2. 母子の地域ケアシステムにおける心理士の実践及び役割と保健師の連携 3. 母子の地域ケアシステムにおける保健師の役割 方法：講義・ディスカッション 課題：乳幼児健診について復習しておく</p> <p>7－9回 虐待予防における地域ケアシステムの現状（特別講師） 内容：虐待予防における地域ケアシステムの現状 虐待予防における保健師の役割 方法：講義、グループワーク 課題：虐待予防に必要な基礎知識、法律・制度について復習しておく</p> <p>10－12回 高齢者の地域ケアシステムの現状（特別講師） 内容：高齢者の地域ケアシステムの現状 高齢者の地域ケアシステムの実践と保健師の役割 方法：講義、グループワーク 課題：高齢者に関する法律・制度について復習しておく</p> <p>13－15回 事例分析/まとめ 内容：自分達の体験した地域ケアシステムから保健師の役割の共通性と相異性について考える。 方法：地域ケアシステム論でまとめた事例について、プレゼンテーションを行う。 グループワーク・ディスカッション</p> <p>※担当教員は、保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います。</p>
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な地域ケアシステム事例を分析し、その構造を明らかにする。 2. 保健師の活動や事例から様々な領域で展開される地域ケアシステムを理解し、システムの構築・維持・発展に関わる保健師の役割・機能を理解する。 3. 地域ケアシステムを構成する専門職とその役割を理解する。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 評価規準 各回で提示する本時の目標に対する到達状況を、授業感想カード、授業時の発言等により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②公衆衛生看護への関心の深まりの観点から評価する（100%） 2) 評価基準：60点以上を「合格」とする。

	※総点（100点）に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり
教科書	保健学講座 公衆衛生看護学概論1 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	保健師活動事例集、日本公衆衛生学会、公衆衛生看護の在り方検討会、2012
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	地域ケアシステム論、基礎実習Ⅰ、基礎実習Ⅱと連動して展開します。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(目的) 対象に合わせた効果的な個別支援について学び、保健師にとって必要な個別支援のスキルを修得する。さらに「個」から「集団」かつ「集団」から「個」という保健師の視点についても理解を深め、個別支援の意義や役割を考える。</p> <p>(概要) 講義で概要やポイントを押さえた後に演習を実施する。演習では保健師・対象者・観察者それぞれの役割を体験し、自身のリフレクションだけでなく、他者の評価も行い、学生間でディスカッションすることで、お互いの強みや改善点を把握する。個別支援から集団支援あるいは集団支援から個別支援につなげている具体的な事例を通し、保健師の視点や判断スキルについても考察する。</p>
授業計画	<p>1回 【オリエンテーション／個別相談の種類と対象別アプローチ】</p> <p>内容：講義全体の概要について説明 保健師における個別支援の目的・意義 個別支援において保健師に求められる能力とは 個別相談の種類と方法からメリット・デメリットや選択の視点を考える</p> <p>方法：講義 ディスカッション</p> <p>2回 【演習①電話相談】</p> <p>内容：講義 保健師における電話相談 電話相談でのポイントや手順 電話相談後の支援 事例①の対応についてディスカッション</p> <p>演習 事例②について電話相談を実施する 保健師役・対象者役・観察者役の3名を1グループとし、ローテーションしながらそれぞれの役割を体験する。 体験後は感想や良かった点、改善するとよりよくなると感じた点などをお互いにディスカッションし、教員からもコメントや評価をもらう。 評価用紙に記入し、翌日までに提出する。</p> <p>方法：講義 演習 ディスカッション ※事例については当日の講義中に提示する。</p> <p>3-4回 【記録、家庭訪問】</p> <p>内容：保健師にとっての記録とは 記録に求められるもの、書く時のポイント 実習記録における具体的な書き方 保健師における家庭訪問の意義と役割 家庭訪問の実際 訪問計画立案 訪問演習について 訪問してみたいケースについて</p> <p>方法：講義 DVD視聴</p> <p>5-6回 【演習②計測・観察】</p> <p>内容：講義…乳幼児健康診査（健康相談）における計測や観察のポイント DVD視聴…乳幼児健康診査における身長測定・体重測定</p> <p>演習…赤ちゃん人形を用いて、身長と体重を測った後、頭囲、胸囲を測定し記録用紙に記入する。 その後、頭から順に身体の観察と確認を行う 特定健診時の腹囲測定についても、お互いに測定し、注意事項を確認する。</p> <p>方法：講義 DVD視聴 演習</p>

事前学習：教科書P18～25 92～107 120～194まで目を通しておくこと

7 - 8回 **【家庭訪問計画の立案】**

内容：事例をもとに、家庭訪問の計画を立案する

- ①不足している情報を判断し訪問時に収集すべき情報を見出す
- ②限られた情報からアセスメントを行い、目標を定める
- ③考えられる方向性から必要な支援を導き、計画を立案する
- ④計画の実施に必要な準備について整理する
- ⑤一連の内容が他者に伝わるような記述・表現で実際の様式に記載する
- ⑥PDCAサイクルを展開しながら訪問を実施することを理解する

個人で考えた後に全員でディスカッションしながら進めていくことで学びを深める。

事前学習：乳児の計測や観察のポイント、新生児訪問で多い相談内容に関する指導助言について復習しておくこと

9 - 10回 **【演習③母子家庭訪問】**

内容：母子の事例について家庭訪問のロールプレイを行う

事例は2回目の電話相談のケースとする

保健師役、母親役、観察者役3名が1グループとなり、役割をローテーションしながら全員がすべての役割を体験する。

保健師役は児の計測・観察、母親からの相談対応を行う

実施後はそれぞれが感想や評価（よかった点、改善が必要と感じた点）をディスカッションする。教員からも助言をもらい、学びを深める。

演習後は評価票へ記入し、提出する。

方法：演習 ディスカッション

事前学習：立案した訪問計画をもとに、どのように訪問を展開するかイメージしておくこと

11～12回 **【乳幼児健康相談・乳幼児健康診査】**

内容：乳幼児健康相談の実際

多い相談内容

乳幼児健康診査の目的、方法、実際

乳児健康診査・1歳6か月健康診査・3歳児健康診査を中心に
次回の演習について

方法：講義 DVD視聴

事前学習：教科書 P195～241 に目を通しておくこと

13 - 14回 **【演習④乳幼児健康診査問診】**

内容：1歳6か月児 もしくは3歳児健康診査における事例でロールプレイを行う。
保健師役・対象者役・観察者役をローテーションし、健康診査における問診の場を体験する。

保健師役は児と母親を対象として呼び入れのところから問診終了までの一連の流れを実施する。事例の概要については前回講義で説明し、詳細については当日に提示する。

実施後はそれぞれが感想や評価（よかった点、改善が必要と感じた点）をディスカッションする。教員からも助言をもらい、学びを深める。

演習後は評価票へ記入し、提出する。

方法：演習 ディスカッション

事前学習：演習がスムーズにできるよう前回講義を復習しておくこと

15回 **【まとめ】**

内容：保健師の行う個別支援

保健師の視点

個から地域をみる視点の具体例

個別支援から地域へと広げる保健師活動事例から考える

方法：講義 ディスカッション

	<p>16回 実践者養成コース講義室 【確認テスト】</p> <p>テスト内容</p> <p>乳幼児の発達 乳児健診 1歳6か月児健康診査 3歳児健康診査</p> <p>テスト形式 選択式または記述式</p> <p>※日程は調整後、連絡する</p> <p>※担当教員は保健師としての個別支援活動の実務や現任教育、関連研究等の経験をもとに講義・演習を行います。</p>
授業形態	演習
到達目標	<p>1. 対象や場に合わせた個別支援方法の特徴を理解し、その手技を実施できる</p> <p>2. 訪問指導における計画の立案・実施・評価ができる</p> <p>3. 乳幼児健診における問診時のポイントを理解し、実施できる</p> <p>4. 個別支援から集団支援、集団支援から個別支援へと展開される保健師の視点を学ぶことができる</p>
評価方法	<p>演習 60% (4回分) 各評価票に基づく自己採点と教員の採点から点数化し、4回の合計を60点満点として換算</p> <p>(※評価票は講義時に提示し説明)</p> <p>確認テスト 40% (※内容の詳細は別途説明) 100点満点のテストについて40点に換算</p>
教科書	保健学講座 公衆衛生看護支援技術、公衆衛生看護活動展開論 メヂカルフレンド社
参考書・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎市幼児健康診査マニュアル ・健診とことばの相談 1歳6か月健診と3歳児健診を中心に ぶどう社 ・発達の手 白石正久 かもがわ出版 ・写真で見る乳幼児健診の神経学的チェック法 南山堂 <p>(DVD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目で見ると子どもの保健 医学映像教育センター ・乳幼児健診の手引き 第1巻～3巻
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：否

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎中村千穂子、河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉個人の生活背景やそれを取り巻く地域社会の構造を理解しながら、個人・家族・集団・地域の健康課題を明確化し、かつそれらに関連付けて対処していく保健師の基本技術を理解する。</p> <p>〈概要〉集団・地域を対象とした支援方法について基本的な考えについて学修し、実習地域の健康課題を解決するための方法の1つとして健康教育を取り上げ、企画立案からロールプレイでの実践までを行い、一連の展開過程について理解する。また、地域組織活動について、実践事例から支援方法や他職種との連携について理解する。</p>
授業計画	<p>1-2回 【プリシード・プロシード・モデル】 〈中村〉 内容：オリエンテーション プリシード・プロシード・モデルとは プリシード・プロシード・モデルを活用した健康教育 方法：講義、演習</p> <p>3-4回 【フォーカス・グループ・インタビュー】 〈中村〉 内容：フォーカス・グループ・インタビューとは フォーカス・グループ・インタビューの企画 方法：講義、演習</p> <p>5-6回 【健康教育】 〈中村〉 内容：健康教育の目的・方法 健康教育に関わる概念 健康教育企画書・指導案の作成方法 健康教育の評価について 実際の健康教育についてイメージする 方法：講義、DVD視聴</p> <p>7-8回 【健康教育】 〈中村〉 内容：実習地域の健康課題の明確化 健康教育の企画書作成 方法：演習</p> <p>9-10回 【健康教育】 〈中村〉 内容：健康教育の指導案・媒体作成 方法：演習</p> <p>11-12回 【健康教育】 〈中村〉 内容：健康教育媒体作成 健康教育シナリオ作成 方法：演習</p> <p>13回 【健康教育】 〈中村、河野〉 内容：健康教育のロールプレイによる実施 コメントを受けて自己の健康教育内容を修正する 方法：グループワーク</p> <p>14-15回 【地域組織活動】 〈中村〉 内容：地域組織活動とは グループの発展過程と保健師の支援 方法：講義、演習</p> <p>試験 1限 試験 60分間の筆記試験を実施します。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師の活動展開・支援技術の基本的な考え方が理解できる。 2. 家族及び集団の行動変容に関する諸理論が理解できる。 3. 集団・地域の健康課題に応じ、生活様式・価値観等に配慮した保健指導（健康教育、地域組織活動）が理解できる。 4. 集団・地域の支援の際に、地域の人々や関係者・関係機関と協働する方法を理解できる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 筆記試験 (40%) 〈評価規準〉各回提示の「本時の目標」に対する達成状況について、知識や考え方の理解と公衆衛生看護への理解の深まりの観点から、選択式または記述式の筆記試験で評価する。 2) 授業への参加度：15% 〈評価規準〉ディスカッションや演習に積極的に参加し、自己の経験や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。 3) 授業感想 (15%) 〈評価規準〉授業内容について、理解できたこと、授業内容から考えたこと、疑問に考えたことを他者に理解できるように述べるができる。 4) 健康教育成果物（企画書・指導案・媒体・実施） (30%) 〈評価規準〉 1テーマは内容にマッチしているか

	<p>2テーマは相手の心を動かす表現か 3対象の選定はテーマ・内容にマッチしているか 4内容はテーマとマッチしているか 5内容に誤りはないか 6内容は素人にもわかりやすいか 7内容は対象の特性を踏まえたものになっているか 8時間配分は適切か 9内容の展開はスムーズか 10媒体の工夫があるか 11行動に移そうという動機づけになったと思うか 12対象に合った表現か 13聞きやすいか 14好感の持てる態度か 15相手の理解を確認する方法が工夫されているか 5) 評価基準：1)～4)の合計を100点満点とし、60点以上を合格とする。総点に対する成績評価区分S～Dは、履修規定のとおり。</p>
教科書	岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術、メヂカルフレンド社、2022.
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎小野美奈子（科目調整担当教員：中村千穂子）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	行政における公衆衛生看護管理の必要性、地域住民の健康を保持増進し、生活を守るための保健活動の質を保証する機能と役割について事例を通して理解する。また、特定地域の健康危機管理に関する情報収集、地区踏査を行い、特定地域の課題解決の実際について理解し、保健師の役割について考察する。
授業計画	<p>1回 (5/12(火) 2限) オリエンテーション(小野) 内容：公衆衛生看護管理・健康危機管理の実際について 方法：事例を基に公衆衛生看護管理・健康危機管理について討議する</p> <p>2-4回 (5/12(火) 3, 4, 5限) 事例1：感染症集団発生時の保健活動と保健師の役割(特別講師：木添) 内容：①導入 感染症の理解 ②保健所の体制づくり ③感染症発生時の疫学調査 ④集団発生時の保健活動 ⑤事例を基に感染症対策について考える 【事例】結核高まん延国出生留学生からの集団感染事例 方法：講義・ディスカッション</p> <p>5-7回 (5/18(月) 3, 4, 5限) 事例2：自殺対策と保健師の役割(小野) 内容：自殺の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について 方法：事例を基に自殺対策について考える 課題：自殺対策と保健師の役割について書かれた文献を読み、授業に参加する。</p> <p>8-10回 (5/19(火) 3, 4, 5限) 事例3：災害対策と保健師の役割(特別講師：木添) 内容：災害等の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について 方法：災害対策に関する文献の中から自身の興味のある災害支援に関するものを選択し、プレゼンテーションを行う。 課題：プレゼンテーションを行う文献を選択し、共有できるようにプレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>11-15回 (5/25(月) 3, 4限 5/26(火) 1限 5/29(金) 1, 2限) 公衆衛生看護管理・健康危機管理の講義と演習を踏まえて、実習地域の公衆衛生看護管理や健康危機管理の実際と課題を明らかにするための検討を行う。(小野、特別講師：木添) 内容：①実習保健所の課題(歯科保健または難病)に即した地域の実態・特徴を把握する。 ②課題に対する本庁・保健所・管内市町村の役割を明らかにするための視点を整理する。 ③課題ごとの①②についてプレゼンテーションを行い共有し、実習地域の公衆衛生看護管理・健康危機管理(歯科保健対策または難病対策)における保健師活動を明らかにするためのワークシートを完成させる。 課題：1-11回の授業及び実習体験の振り返りを行い演習に参加する。</p> <p>※担当教員は、保健所での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義・演習を行います</p>
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理(情報管理・事例管理・組織運営管理・業務管理・予算管理・人事管理)の方法について理解する。 2. 感染症の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について理解する。 3. 自殺の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について理解する。 4. 災害等の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について理解する。 5. 公衆衛生看護管理・健康危機管理の実際における保健師の役割について理解する。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業への参加状況(50%) 評価規準：各回授業中の発言内容や授業時の発言内容、授業感想から①公衆衛生看護管理・健康危機管理の実際に対する知識の修得、②公衆衛生看護管理・健康危機管理の実際に必要な判断や表現の深まり、③公衆衛生看護管理・健康危機管理の実際に対する保健師の役割機能の理解の観点から評価する。 2) 「公衆衛生看護管理・健康危機管理における保健師活動」レポート(50%) 演習で最も印象に残った公衆衛生看護管理、健康危機管理の対策についての学びをレポートする 評価規準：演習内容を振り返り、保健師の対応や関係機関との連携、管理体制について学びを記述することが出来る。基本的なレポートの体裁や提出ルールに則り、作成し、提出できる。

	3) 評価規準 1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。ただし、レポートが未提出の場合は、「不合格」とする。 *総点(100点)に対する成績評価区分S~Dは、履修規程のとおり
教科書	保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	
履修条件	1年次の必修科目の単位が取得済みであること
科目等履修	不可
履修上の留意点	公衆衛生看護管理・健康危機管理論、発展実習Ⅱと連動して展開します。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
◎中尾裕之			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉自治体保健師の実践に必要な疫学的思考と疫学手法について理解する。</p> <p>〈概要〉自治体保健師の実践に必要な疫学的思考と疫学手法（疫学研究方法，曝露効果，年齢調整の方法など）について学ぶ。</p>
授業計画	<p>01回 【疫学研究方法の概要】 内容：疫学研究方法，記述疫学と分析疫学について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>02回 【横断研究】 内容：横断研究について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>03回 【コホート研究】 内容：コホート研究について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>04-05回 【症例対照研究】 内容：症例対照研究について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>06回 【介入研究】 内容：介入研究について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>07回 【研究方法の利点と欠点】 内容：それぞれの研究方法の利点と欠点と位置づけについて 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>08-09回 【曝露効果】 内容：相対危険と寄与危険，寄与危険割合，人口寄与危険（割合）について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>10-11回 【年齢調整】 内容：標準化とは，直接法と年齢調整死亡率，間接法とSMR 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>12-15回 【GIS】 内容：GISの概要，MANDARAを用いた分析 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む，ソフトウェアのインストール 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p>
授業形態	講義と演習
到達目標	<p>①基本的な疫学的思考について理解する。</p> <p>②基本的な疫学手法を身につける。</p>
評価方法	<p>1) 授業への主体的学習態度（演習・発表・討論・質問等，50%）</p> <p>2) 提出物（50%） 到達目標①～②に関する課題レポートで評価する。</p> <p>3) 評価基準：1) を50点とし2) を50点とした合計100点中，60点以上を合格とする。 S（特に優秀な水準で到達目標に達している）：90点以上 A（優秀な水準で到達目標に達している）：80点以上90点未満 B（到達目標に達している）：70点以上80点未満 C（十分ではないが到達目標に達している）：60点以上70点未満</p>

	D (到達目標には達していない) :60点未満
教科書	講義で配布する資料と必要時に適宜, 紹介する。
参考書・参考文献	中村好一著, 『基礎から学ぶ楽しい疫学』第4版, 医学書院, 2020年, ISBN978-4-260-04227-7
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	利用可能なノートパソコン (Windowsが望ましい) がある場合は持参してください。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
◎中尾裕之			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉自治体保健師の実践に必要な統計的思考と統計手法について理解する。</p> <p>〈概要〉自治体保健師の実践に必要な統計的思考と統計手法（データの分布、様々な検定手法、必要なサンプルサイズの見積もりなど）について学ぶ。</p>
授業計画	<p>01-02回 【データの分布】 内容：正規分布と歪んだ分布 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>03回 【推定】 内容：統計学的推論としての推定について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>04-05回 【検定】 内容：統計学的推論としての検定について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>06-07回 【さまざまな統計手法】 内容：その他の統計手法の概要 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>08回 【t検定】 内容：t検定について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>09回 【カイ2乗検定】 内容：カイ2乗検定について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>10-11回 【相関】 内容：相関係数について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>12-13回 【回帰分析】 内容：回帰分析の概要，統計ソフトウェアを用いた回帰分析演習 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む，ソフトウェアのインストール 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>14-15回 【検出力とサンプルサイズ】 内容：検出力とは，サンプルサイズの見積もり，ソフトウェアを用いたサンプルサイズの見積もり演習 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む，ソフトウェアのインストール 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p>
授業形態	講義と演習
到達目標	<p>①基本的な統計的思考について理解する。</p> <p>②基本的な統計手法を身につける。</p>
評価方法	<p>1) 授業への主体的学習態度（演習・発表・討論・質問等，50%）</p> <p>2) 提出物（50%） 到達目標①～②に関する課題レポートで評価する。</p> <p>3) 評価基準：1)を50点とし2)を50点とした合計100点中，60点以上を合格とする。 S（特に優秀な水準で到達目標に達している）：90点以上 A（優秀な水準で到達目標に達している）：80点以上90点未満 B（到達目標に達している）：70点以上80点未満</p>

	C (十分ではないが 到達目標に 達している) :60点以上70点未満 D (到達目標には達していない) :60点未満
教科書	講義で配布する資料と必要時に適宜, 紹介する。
参考書・参考文献	中村好一著, 『基礎から学ぶ楽しい保健統計』, 医学書院, 2016年, ISBN978-4-260-02549-2 市原清志ほか著, 『カラーイメージで学ぶ〈新版〉統計学の基礎』第2版, 日本教育研究センター, 2016年, ISBN978-4-89026-180-2
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	利用可能なノートパソコン (Windowsが望ましい) がある場合は持参してください。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	保健師として公衆衛生看護を実践する上で不可欠な知識として、保健医療福祉行政の仕組みや制度の変遷とその内容及び、保健福祉計画の策定から評価までを理解する。		
授業計画	<p>1-3回 保健医療福祉行政の基本 内容：オリエンテーション 保健医療福祉行政の根拠 公衆衛生の理念と戦略 保健医療福祉の行政・制度と保健師の活動 医療制度について 方法：講義，DVD視聴 課題：教科書p1-72, 139-174を読んで理解する</p> <p>4-7回 保健医療制度の変遷 内容：公衆衛生の基盤形成 保健医療福祉行政の動向 方法：講義 課題：教科書p175-208を読んで理解する</p> <p>8-10回 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み（特別講師：椎葉茂樹先生） 内容：国・都道府県・市区町村の行政の仕組みと役割 行政における保健師の役割と活動 保健医療福祉の財政 公衆衛生に関する国際的な活動 方法：8・9回講義、10回プレゼンテーション（中村） 課題：テーマ別にプレゼンテーションを行う</p> <p>11-13回 地域保健の体系と各機関の機能・役割（特別講師：椎葉茂樹先生） 内容：地域保健に関する公的機関 関係機関との連携 方法：11・12回講義、13回プレゼンテーション（中村） 課題：テーマ別にプレゼンテーションを行う</p> <p>14-15回 保健医療福祉計画の策定・実施・評価 内容：地方公共団体の保健医療福祉計画 保健計画の策定プロセス 保健計画の推進と評価 方法：講義 課題：教科書p209-258を読んで理解する</p> <p>※担当教員は市町村での保健師経験、もしくは、厚生労働省および保健所等に勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います。</p>		
授業形態	講義		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉行政の基本および行政・財政の仕組みについて理解する。 2. 保健医療福祉における各分野の制度の仕組みと機能、対策の実際や動向について理解する。 3. 保健医療福祉行政の施策への住民参加と、計画策定・実施・評価のサイクルについて理解する。 		
評価方法	<p>1) 講義への参加状況 (60%) 評価規準：各回で提示する本時の目標に対する到達状況を、授業感想カード、授業時の発言等により、①学修内容に関する基本的な知識や考え方の理解、②保健医療福祉行政への関心の深まりの観点から評価する。</p> <p>2) 試験 (40%) 評価規準：各回提示の「本時の目標」に対する達成状況について、知識や考え方の理解と保健医療福祉行政への理解の深まりの観点から、選択式または記述式の筆記試験で評価する。</p> <p>評価基準：1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。ただし、プレゼンテーションが出来なかった者は「不合格」とする。 ※総点 (100点) に対する成績評価区分S-Dは、履修既定のとおり</p>		
教科書	標準保健学講座5 保健医療福祉行政論 医学書院		
参考書・参考文献	必要に応じて紹介		
履修条件			

科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	一方的な講義ではなく受講者と共に創り上げる授業とする。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎板谷智也（科目調整担当教員：河野朋美）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>（目的）本授業では、社会保障の基本概念や制度の仕組みを体系的に学び、少子高齢化や生活困窮などの社会的課題に対する支援の在り方を考察することを目的とします。特に、保健師として地域で活動する際に求められる福祉制度の理解と実践的な活用力を養い、対象者の生活課題を適切に整理し、支援策を論理的に説明できる能力を培います。</p> <p>（概要）本授業は、反転授業を採用し、事前学習を基に授業中はグループワークやディスカッションを中心に進めます。学生は、社会福祉制度の基礎知識を学びながら、地域の健康課題と福祉政策の関連性を考察し、実践的な支援策を検討します。社会福祉の視点を持ち、現場で活用できる知識とスキルを身につけることを目指します。</p>
授業計画	<p>1回 インTRODクシヨン ① オリエンテーション ② 社会保障とはなにか？</p> <p>2回 社会保障制度 ① 社会保障制度の変遷 ② 社会保障制度と法体系</p> <p>3回 ワーク-社会保障制度の意義- ① グループディスカッション ② 発表</p> <p>4回 高齢者に関する社会保障制度 ① 高齢者福祉の変遷 ② ワーク「高齢者福祉のあり方について考える」</p> <p>5回 介護保険制度 ① 介護保険制度の概要 ② ワーク「これからの在宅ケアについて考える」</p> <p>6回 ワーク-高齢者施策の是非を問う- ① グループディスカッション ② ディベート</p> <p>7回 障害者に関する社会保障制度 ① ワーク「ケアマネジメント」（事前課題） ② 振り返り</p> <p>8回 社会保障・社会福祉の本質 ① ワーク「個人と集団のジレンマ」 ② 振り返り</p> <p>9回 精神保健と自殺対策 ① 精神保健と自殺対策の制度 ② ワーク「相談支援」</p> <p>10回 母子保健と児童福祉① ① 母子保健の概要 ② 事例検討</p> <p>11回 母子保健と児童福祉② ① 児童福祉の概要 ② 事例検討</p> <p>12回 児童虐待について考える ① ワーク「児童虐待の問題について考える」 ② 発表</p> <p>13回 少子高齢化社会の課題と保健師の役割① ① 課題の整理 ② プレゼン準備</p> <p>14回 少子高齢化社会の課題と保健師の役割② ① グループ発表（プレゼンテーション） ② 振り返り</p> <p>15回 総まとめ ① 社会保障と保健活動の基礎知識確認テスト ② 振り返り</p>
授業形態	対面
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の基本概念や制度の仕組みを理解できる。 2. 社会的課題を分析し、福祉制度や支援策を活用した解決策を論理的に説明できる。 3. 生活課題を整理し、多様な事例に応じた支援策を検討し、保健師としての役割を論理的に説明できる。 4. グループワークを通じて、他者と協働しながら社会保障について考察できる。

評価方法	<p>① 第14回で実施するグループ発表（プレゼンテーション）：40点 学生間の相互評価を行います</p> <p>② 社会保障と保健活動の基礎知識確認テスト 30点 授業で登場した基礎的な知識について問います</p> <p>③ レポート「少子高齢化社会の課題と保健師の役割」30点 グループ発表（プレゼンテーション）の内容に、個人で調べた内容や考えを追記して作成 1200文字以内で作成し、ワードファイルで提出してください</p>
教科書	なし
参考書・参考文献	授業内で適宜紹介します
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	特になし
備考・メッセージ	授業の進捗度によって、授業内容の変更を行う場合があります。 オンライン受講の可否：講義内容により可

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	3	必修
担当教員			
◎河野朋美、中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 個人・家族等を対象とした支援を経験し、個別事例への継続支援を通して支援の計画の作成、実施、評価の過程を体験する。また、個別支援から集団対応、地域づくりへと発展させる保健師の活動展開方法や身近な保健福祉サービスを提供する市町村の役割を理解する。 学内での地域診断の演習を基として、新たに実態調査等を行い、地域住民や関係者と多角的にアセスメントすることを具体的に理解する。 地域診断から集団対応が必要な健康・生活課題を明らかにし、集団を対象とした活動の計画・実施・評価を体験する。 <p>〈概要〉</p> <p>保健師の基本的な保健活動展開に沿って、地域診断のプロセス及び保健活動計画の立案・実施・評価の一連について体験を通して理解を深める。また、市町村で実施される身近な保健福祉サービスや関係機関の役割を理解するため、実習フィールドで実施される保健福祉事業に参加・見学し、必要な知識・技術・態度を獲得する。</p>
授業計画	<p>方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 市町村の保健活動や各種保健事業の把握、市町村の保健師活動 <ol style="list-style-type: none"> 市町村で行われる保健事業に参加 家庭訪問（母子）：対象の把握、健康課題の抽出・検討、実践、振り返り、評価 健康相談：健康相談の見学、対象の把握、健康課題の抽出・検討、実践、振り返り、評価 健康教育：企画書・指導案の作成、媒体作成、デモンストレーション、実践、振り返り、評価 健康診査：問診・保健指導の見学、実践、振り返り、評価 地区活動の展開 <ol style="list-style-type: none"> 実習テーマに沿ったコミュニティの抽出 地域の情報収集（地区踏査、地域組織へのインタビュー、アンケートなど） 地域の情報分析 地域組織活動の把握 健康・生活課題の抽出・検討・焦点化 健康・生活課題の解決に向けた対策の提案 健康・生活課題の把握・計画・実施・評価の一連のプロセスについて評価 <p>実習場所 宮崎県内の2～3市町村役場・保健センター</p> <p>実習期間 6-7月（5日間）、10月-11月（10日間）計15日間 ※詳細は実習要項参照 ※担当教員は全員、保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに実習指導を行います</p>
授業形態	実習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 市町村における公衆衛生活動の概要が説明できる。 地域で生活する個人・家族の健康と生活のニーズを明らかにし、健康の保持増進に向けた家庭訪問や健康教育、健康相談が実践できる。 個人・家族・集団の健康課題解決のための基本的な支援技術の特徴が説明できる。 地域の人々の健康と生活の情報をアセスメント・分析し、健康・生活課題を明らかにすることができる。 地域住民・関係者を対象に、地域（特定の集団）の健康・生活課題の共有と課題解決に向けた活動のきっかけとすることを目的とした学習会等の場づくりを企画・実施・評価することができる。 地域住民・関係者の意見を踏まえた地域診断により、健康・生活課題を解決するための対策を提案することができる。 地区組織活動の意義と、組織化や活動継続のための保健師の役割を理解するとともに、集団・地域の健康・生活課題の抽出から計画、実施、評価までの一連のプロセスを評価し、地区組織活動の展開と地域ケアシステムとの関連について考察することができる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 実習目標の達成度（80%）：評価票（添付様式参照）に基づく自己評価・他者評価をもとに教員との面談により評価した実習到達度の得点（100点満点）を80%で換算 実習記録やその他作成資料（10%）：①ルールの遵守 ②他者に伝える内容としての適切性・正確性について10点満点で得点化 学内外報告会発表（10%）：①支援の目的・PDCAがわかるように表現されているか ②第3者にわかりやすく伝わるように構成されているか の観点から10点満点で得点化 評価基準：1) 2) 3) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。但し、必要な実習記録及びレポートが未提出の者は「不合格」とする。 <p>※総点（100点）に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり</p>
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	1年前期の全必修科目について単位取得済みまたは取得見込みであること

科目等履修	否
履修上の留意点	「地域診断論」「地域診断論演習」と連動させて、地域アセスメントを深めていきます。
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：否

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
◎中村千穂子、河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	公衆衛生看護活動が展開される主要な場の特性や特徴的な公衆衛生看護活動について学び、それぞれの場の一員として活動できる基礎的な能力を養う。保健所の組織構造、機能に関わる部署や組織とその機能、保健所で特徴的な保健師の役割を学ぶ
授業計画	<p>方法</p> <p>①保健所の既存資料から保健所の組織や働いている専門職とその役割について理解する。 (環境衛生・食品衛生・検疫・地域医療計画など)</p> <p>②既存資料から地域の特性を把握する。</p> <p>③保健活動または、事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患・精神障害による療養者 ・難病患者 ・感染症患者 ・障がい者(児) ・HIV検査・相談 ・不妊相談 <p>④市町村への連絡・会議等に参加</p> <p>実習場所</p> <p>宮崎県内の2～3の保健所 *原則として基礎実習Ⅰの市町村を管轄する保健所</p> <p>実習期間</p> <p>10月 1週間(5日間) 12月 1週間(5日間) 計10日間</p> <p>※詳細は実習要項参照 ※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに実習指導を行います</p>
授業形態	実習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健所の組織体制と、それぞれの部署の活動目的、所属している職種の役割を説明できる。 2. 広域的、専門的な保健所特有の活動を具体的に説明できる。 3. 精神・感染症・難病に関する保健活動を理解できる。 4. 管轄市町村に対する保健所や保健所保健師の市町村支援の方法や活動内容を説明できる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目標の達成度(80%)：評価表(添付様式参照)に基づく自己評価・他者評価をもとに教員との面談により実習到達度を評価 2) 実習記録やその他作成資料(10%)：①ルールへの遵守 ②他者に伝える内容としての適切性・正確性 3) 学内外報告会発表(10%)：①実習目標に照らして体験と学びがわかるように表現されているか ②第三者にわかりやすく伝わるように構成されているか 4) 評価基準：1) 2) 3)の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。但し、必要な実習記録及びレポートが未提出の者は「不合格」とする。 <p>※総点(100点)に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおりとする。</p>
教科書	
参考書・参考文献	国民衛生の動向
履修条件	1年前期の全必修科目について単位取得済みであること
科目等履修	否
履修上の留意点	健康づくり活動論Ⅱと連動して展開します。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(目的) 社会・地域における健康課題や対応する公衆衛生施策を学び、地域保健活動を展開する上で、基本となる公衆衛生学の理念や理論について理解を深める。衛生行政や環境保健等の活動の実際や事例から公衆衛生学的に健康課題を捉え、解決するための能力を養う。</p> <p>(概要) 公衆衛生学の歴史や概念の学修をふまえた後、オムニバスの特別講師による実践的・専門的講義を受講する。その学びについて整理し、ふりかえりを行う時間も設け、公衆衛生におけるキーワードや基本的知識の定着を図る。最終講義では、それぞれが興味を持った公衆衛生学的な地域の健康課題について考察し、学生間でディスカッションを行う。</p>
授業計画	<p>1回 【オリエンテーション・導入】 <担当教員>河野朋美</p> <p>内容：講義全体についてのオリエンテーション 公衆衛生の歴史・理念など</p> <p>方法：講義</p> <p>2回 【対人保健を中心とした保健所業務】 <特別講師>日向保健所 豊嶋保健所長</p> <p>内容：法に基づく公衆衛生活動の歩み 地域特性に応じた保健事業 など</p> <p>方法：講義</p> <p>事前学習：国民衛生の動向などで関連分野のページを読み、特別講師へ質問したいことを整理しておく</p> <p>※詳細の講義テーマについては、別途連絡</p> <p>【課題レポート】講義の感想と理解したこと A4用紙1枚 冒頭にタイトルと学籍番号、氏名を記入</p> <p>3～4回 【2回のまとめ】 <担当教員>河野朋美</p> <p>内容：2～3回のテーマについて各自の学びを整理し、発表する。</p> <p>※学びを整理する上での視点</p> <p>①キーワード ②講義で捉えた現状やデータ ③抱えている課題や必要と感じたこと</p> <p>方法：ディスカッション</p> <p>5回 【公衆衛生総論】 <特別講師> 都城保健所 坂元保健所長</p> <p>内容：公衆衛生学の視点や考え方 現場で活用しているデータの見方 県内で共有している健康課題例と具体的取組 公衆衛生における実践研究例の紹介 など</p> <p>方法：講義</p> <p>事前学習：国民衛生の動向などで関連分野のページを読み、特別講師へ質問したいことを整理しておく</p> <p>【課題レポート】講義の感想と理解したこと A4用紙1枚 冒頭にタイトルと学籍番号、氏名を記入</p> <p>6～7回 【3回のまとめ】 <担当教員>河野朋美</p> <p>内容：3回のテーマについて各自の学びを整理し、発表する。</p> <p>※学びを整理する上での視点</p> <p>①キーワード</p>

	<p>②講義で捉えた現状やデータ ③抱えている課題や必要と感じたこと</p> <p>方法：ディスカッション</p> <p>8～9回 【成人保健・生活習慣病対策／労働衛生】＜特別講師＞岩本直安氏</p> <p>内容：健康増進実践活動の実際 地域住民との協働の仕組みづくり 労働と健康 労働に関する法令と対策 過重労働 長時間労働 など</p> <p>方法：講義 ディスカッション</p> <p>事前学習：国民衛生の動向などで関連分野のページを読み、特別講師へ質問したいことを整理しておく</p> <p>【課題レポート】講義の感想と理解したこと A4用紙1枚 冒頭にタイトルと学籍番号、氏名を記入</p> <p>10～11回 【8～9回まとめ】＜担当教員＞河野朋美</p> <p>内容：8～9回のテーマについて各自の学びを整理し、発表する。</p> <p>※学びを整理する上での視点</p> <p>①キーワード ②講義で捉えた現状やデータ ③抱えている課題や必要と感じたこと</p> <p>方法：ディスカッション</p> <p>12回 【歯科衛生】＜特別講師＞県健康増進課 森木主幹</p> <p>内容：歯と健康寿命 ライフステージごとの歯科保健活動の実際 県内の歯科保健の現状と課題、対策 など</p> <p>方法：講義 ディスカッション</p> <p>事前学習：国民衛生の動向などで関連分野のページを読み、特別講師へ質問したいことを整理しておく</p> <p>【課題レポート】講義の感想と理解したこと A4用紙1枚 冒頭にタイトルと学籍番号、氏名を記入</p> <p>13～14回 【12回まとめ】＜担当教員＞河野朋美</p> <p>内容：12回のテーマについて各自の学びを整理し、発表する。 次回の発表テーマを選定し、発表する。</p> <p>※学びを整理する上での視点</p> <p>①キーワード ②講義で捉えた現状やデータ ③抱えている課題や必要と感じたこと</p> <p>方法：ディスカッション</p> <p>事前課題：最終発表についての準備を行っておくこと 発表内容については15回を参照</p> <p>15回 【課題発表】＜担当教員＞河野朋美</p> <p>内容：講義の中から公衆衛生的な地域の健康課題を各自選定し、改善のために必要と考えられることについて発表する。</p> <p>発表の内容については以下の5点を網羅すること</p> <p>①健康課題 ②その根拠となるデータや背景 ③現在の行政としての取り組み ④現在の取り組みに対し抱えている課題 ⑤必要と考えられること</p> <p>方法：発表 ディスカッション</p> <p>*担当教員は公衆衛生活動の実践や関連研究の経験をふまえ、講義を行います。</p>
--	---

	<p>* 2・5、8～9、12回は県内保健所や本庁等の専門職かつ管理職である特別講師が公衆衛生活動の実践やこれまでの豊富な経験をもとに講義を行います。 なお、講師の都合等により講義の順番が入れ替わることがあります。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学の歴史や理念・概念を理解できる 2. 衛生行政や衛生保健における公衆衛生活動が理解できる 3. 公衆衛生学的な地域の健康課題について考えることができる
評価方法	<p>特別講師の講義レポートとディスカッション 90% (18点×5回)</p> <p>レポート</p> <p>①提出ルールへの遵守 ②他者に伝える内容としての適切性・表現力 ③起承転結の構成力 ④感想だけでなく理解したことについても明確に記述できているか について各2点の8点満点で点数化する</p> <p>ディスカッション</p> <p>①根拠の提示 ②論点の明確さ ③端的な説明 ④論旨の一貫性 ⑤積極性や臨む姿勢 について各2点の10点満点で点数化する</p> <p>最終発表 10%</p> <p>①指示内容が網羅できているか (6点) ②他者にわかりやすく説明できているか (2点) ③公衆衛生学的な課題が捉えられているか (2点) について10点満点で点数化する</p>
教科書	その他適宜資料を配布
参考書・参考文献	公衆衛生がみえる メディックメディア 国民衛生の動向
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：否

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1	必修
担当教員			
◎河野朋美、中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(目的) 保健・医療・福祉の中での公衆衛生看護の位置づけや保健師の役割・機能について理解を深め、自身の研究を焦点化する。</p> <p>(概要) 多職種とともに支援した事例や複雑困難な事例等自ら行った実践の省察や先行文献からの検討・プレゼンテーション・グループディスカッションを行い、実践的思考力、多面的分析力を修得する。</p>
授業計画	<p>1 - 2回 【オリエンテーション・自身の活動や体験の振り返り】</p> <p>内容 授業計画について説明 課題やスケジュールを確認し、役割分担を行う 今までの自身の看護活動や実習体験などを振り返り、疑問に感じたことなどを発表・ディスカッションする。</p> <p>方法 ディスカッション</p> <p>3 - 4回 【文献検討とは】</p> <p>内容 文献検討の意義、目的、方法、手順などを各自調べた後、ディスカッションする</p> <p>方法 ディスカッション</p> <p>5 - 6回 【文献検討演習】</p> <p>内容 各自関心のある内容について、文献検討を行い、その結果を紙面もしくはパワーポイントにまとめる</p> <p>方法 演習</p> <p>7 - 8回 【文献検討プレゼンテーション】</p> <p>内容 文献検討結果について、それぞれ発表し、ディスカッションを行う</p> <p>方法 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>9 - 10回 【概念枠組みとは】</p> <p>内容 概念枠組みの意味、目的、方法、手順などを各自調べた後、ディスカッションする</p> <p>方法 ディスカッション</p> <p>11 - 12回 【概念枠組み演習】</p> <p>内容 自身の関心あるテーマについて概念枠組みを試み、その結果を紙面もしくはパワーポイントにまとめる</p> <p>方法 演習</p> <p>13 - 14回 【概念枠組みプレゼンテーション】</p> <p>内容 概念枠組み結果について、それぞれ発表し、ディスカッションを行う</p> <p>方法 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>15回 実践者養成コース講義室 【まとめ】</p> <p>内容 自身の研究テーマ・目的・方法など焦点化した内容についてディスカッションする。</p> <p>方法 ディスカッション</p> <p>準備</p>

	<p>自身の取り組みたい研究について発表できるよう考えておく (資料の準備は可能な範囲で構わない)</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務や研究実践の経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	演習
到達目標	<p>1. 自らが関わった事例や活動、関連文献を整理し、地域保健活動・公衆衛生看護の理解を深める</p> <p>2. 関心あるテーマについて文献検討を行い、その結果についてのプレゼンテーションができる</p> <p>3. 活動事例や文献の分析から保健師の専門性や公衆衛生活動を言語化し、ディスカッションできる。</p>
評価方法	<p>プレゼンテーション2回分 (70%)</p> <p>①作成ルールの遵守 ②内容の正確性 ③起承転結の展開構成 ④他者へ伝える表現力 ⑤媒体について1回分を35点満点で点数化する。(35点満点×2)</p> <p>ディスカッション 6回分 (30%)</p> <p>全回を通したディスカッションについて①積極性 ②的確性 ③協調性 ④看護への関心 ⑤研究的視点の観点から 30点で点数化する (1回5点満点×6回)</p>
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：否

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1	必修
担当教員			
◎河野朋美、中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉 公衆衛生看護学実習での体験に基づき自ら学習を深める事項や内容を主体的に設定し、公衆衛生看護の展開方法や公衆衛生看護学の専門性の理解を深める。</p> <p>〈概要〉 公衆衛生看護学実習での体験をもとに、学習を深めたい事項を設定し、文献検討やフィールドワーク等の演習計画を立案・実施し、理解したことを資料化・プレゼンテーションを行い、ディスカッションを行うことで公衆衛生看護学の理解を深めていきます。</p>
授業計画	<p>第1回 【オリエンテーション】 〈内容〉 ・授業計画 ・実習体験の振り返り、学習内容の検討、選定（2つ） ・役割分担 〈方法〉 ・ディスカッション 〈課題〉 ・実習記録をもとに実習体験を振り返り、学習を深めた事項について検討し、発表できるよう準備する</p> <p>第2-5回 【学習内容①についての文献検討】 〈内容〉 ・学習内容①についての国内外の文献検索をし、背景、定義、実践（研究）における課題、具体的な実践（研究）例について理解を深める。 ・より実像に迫るために、フィールドワーク等を行う。 ・収集した情報を資料としてまとめる。 〈方法〉 ・個人ワーク、ディスカッション、フィールドワーク 〈課題〉 ・学習内容①の文献検索に必要な検索ワードの選定、予備的文献検索を実施しておくこと。</p> <p>第6-7回 【学習内容①のプレゼンテーション】 〈内容〉 ・学習内容①についてプレゼンテーションを行う。 ・学習内容①のプレゼンテーションをもとに、公衆衛生看護活動方法や保健師の役割についてディスカッションを行う。 〈方法〉 ・プレゼンテーション、ディスカッション 〈課題〉 ・学習内容①について事前配布された資料を読んで理解を深めておく。</p> <p>第8-11回 【学習内容②についての文献検討】 〈内容〉 ・学習内容②についての国内外の文献検索をし、背景、定義、実践（研究）における課題、具体的な実践（研究）例について理解を深める。 ・より実像に迫るために、フィールドワーク等を行う。 ・収集した情報を資料としてまとめる。 〈方法〉 ・個人ワーク、ディスカッション、フィールドワーク 〈課題〉 ・学習内容②の文献検索に必要な検索ワードの選定、予備的文献検索を実施しておくこと。</p> <p>第12-13回 【学習内容②のプレゼンテーション】 〈内容〉 ・学習内容②についてプレゼンテーションを行う。 ・学習内容②のプレゼンテーションをもとに、公衆衛生看護活動方法や保健師の役割についてディスカッションを行う。 〈方法〉 ・プレゼンテーション、ディスカッション 〈課題〉 ・学習内容②について事前配布された資料を読んで理解を深めておく。</p> <p>第14-15回 【まとめ】 〈内容〉 ・実習体験と学習内容①-③での学びを整理し記録にまとめる ・公衆衛生看護学の目的・対象・方法としての特質について検討し、ディスカッションを行う 〈方法〉 ・ディスカッション 〈課題〉 ・実習体験と学習内容①-③での学びをふりかえり、整理しておく。</p>

	*担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに授業を行います。
授業形態	演習
到達目標	1) 公衆衛生看護学実習での体験に基づいて自ら学習を深める事項や内容や演習計画を主体的に設定できる 2) 他者に自身の考えを理解してもらえるように、論理的・効果的に言語化することができる。 3) 公衆衛生看護の展開方法や公衆衛生看護学の専門性について理解できる
評価方法	1) プレゼンテーション (40%) ・評価規準：①ルールに則って整理できているか、②内容の正確性、③起承転結の展開構成、④他者へ伝える表現力、⑤他者に伝わる媒体が作成できているか、という点から評価する 2) ディスカッション (30%) ・評価規準：①積極的に参加しているか、②ディスカッションの要点を抑えた発言ができているか、③ディスカッションが円滑かつ発展的に進むような言動であるかという点から評価する 3) レポート (30%) ・評価規準：①学習内容の設定が公衆衛生看護学実習体験に基づき、公衆衛生看護学として適切であるか、②演習を主体的・計画的にすすめられているか、③公衆衛生看護の展開方法や公衆衛生看護学の専門性について理解が深まっているかという点から評価する 4) 評価基準：1) 2) 3) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。但し、レポート未提出の者は「不合格」とする。 ※総点 (100点) に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおりする。
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：否

講義科目名称： 基礎実習Ⅲ(継続支援実習)

授業コード： 30023

英文科目名称： Basic Public Health Nursing Practicum Ⅲ
(Continued Support Practicum)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1	必修
担当教員			
◎河野朋美、中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(目的) 地域において継続支援が必要な事例を通して、チームケアや地域との関係機関とのネットワーク形成、地域ケアシステム等の一連の活動の展開方法を学ぶ。また、保健活動における継続支援の実際や保健師の役割を理解し、地域の健康課題に向けた支援に必要な能力を養う。</p> <p>(概要) 基礎実習Ⅰの実習地域における市町村(あるいは保健所)における対象を原則として選定し、効果的な支援について、PDCAサイクルを展開しながら継続的に実施する。</p>
授業計画	<p>実習場所：原則、基礎実習Ⅰ・Ⅱを実施した市町村または保健所</p> <p>実習期間：令和8年7月～令和9年1月</p> <p>実習方法：複雑・困難な健康・生活問題を持つ1ケースまたは1グループを受け持ち、継続的に支援し、PDCAサイクルを展開する。</p> <p>学生配置：実習場所1か所あたりの学生は2～3名程度</p> <p>実習指導：市町村または保健所保健師1名～複数名の実習指導者と担当教員</p> <p>※詳細は実習要項参照</p> <p>※担当教員は全員保健所または市町村での実務や関連教育・研究等の実務・経験をもとに実習指導を行います。</p>
授業形態	実習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続支援が必要な事例をアセスメントし、個人・家族/集団への支援方法を理解、実践、評価することができる 2. 事例が抱える問題解決のために他職種との連携・協働で行われる支援を通じて地域のネットワーク形成や地域ケアシステムの一連の展開方法を理解することができる 3. 個別的な支援から集団(教室、小集団活動等)や地域全体への活動へと視点を広げることができる 4. 対象や地域のニーズに応じて保健・医療・福祉及び地域のソーシャルキャピタルを活用する必要性について説明できる
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目標の達成度80%…評価票(添付様式参照)に基づく自己評価・他者評価を踏まえ、教員との面談にて実習到達度の得点(100点満点)を80%で換算 2. 学内外報告会発表20%…①支援の目的・PDCAがわかるように表現されているか ②第三者にわかりやすく伝わるように構成されているかについて20点満点で得点化
教科書	適宜資料を配布
参考書・参考文献	
履修条件	1年前期の全必修科目について単位取得済みまたは取得見込みであること
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：否

講義科目名称： 発展実習 I (職域保健実習)

授業コード： 30024

英文科目名称： Advanced Public Health Nursing Practicum I
(Occupational Health Practicum)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎中村千穂子、河野朋美			
添付ファイル			
発展実習 I 評価票.docx			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉労働者の健康課題の総合的な解決に向けて活動する産業保健師の役割、機能を学ぶ。また、これらの活動と地域における保健活動との関連を理解する。</p> <p>〈概要〉県内事業所において事業所の特徴を踏まえた労働衛生の3管理について見学・参加し、地域との連携した活動や連携ネットワークづくりの実例について保健師等から説明を受けながら、産業保健活動や産業保健師の役割について理解を深める。</p>
授業計画	<p>方法 事業所の特徴と産業保健活動、産業保健師活動の理解</p> <p>①事業場の概要 ②労働の特性と健康課題 ③事業場の労働環境衛生管理 ④産業看護活動の見学 ⑤保健指導の実際 ⑥産業保健のまとめ</p> <p>実習場所 県内事業所（2か所程度）</p> <p>実習期間 11月（5日間） ※詳細は実習要項参照 ※担当教員は全員、保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに実習指導を行います</p>
授業形態	実習
到達目標	<p>1. 労働者の健康状態を把握し、それを踏まえた支援方法を説明することができる</p> <p>2. 事業場における健康管理の実際を知り、産業保健師の役割を考察することができる</p> <p>3. 事業場で行われる職域保健と地域保健の連携を把握することができる</p>
評価方法	<p>1) 実習目標の達成度（80%）：評価表（添付様式参照）に基づく自己評価・他者評価をもとに教員との面談により実習到達度を評価</p> <p>2) 実習記録やその他作成資料（10%）：①ルールへの遵守 ②他者に伝える内容としての適切性・正確性</p> <p>3) 学内外報告会発表（10%）：①実習目標に照らして体験と学びがわかるように表現されているか ②第3者にわかりやすく伝わるように構成されているか</p> <p>4) 評価基準：1) 2) 3) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。但し、必要な実習記録及びレポートが未提出の者は「不合格」とする。</p> <p>※総点（100点）に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおりとする。</p>
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	<p>①1年前期（1 Semester）の全必修科目について単位取得済みであること</p> <p>②基礎実習Ⅰ～Ⅲの単位修得済みもしくは修得見込みであること</p>
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	「健康づくり活動論Ⅲ」で学習した産業保健活動の理解を前提としています。実習前に授業資料や教科書で復習をした上で実習に臨んでください。

講義科目名称： 発展実習Ⅱ（公衆衛生看護管理・健康危機管理実 授業コード： 30025
習）

英文科目名称： Advanced Public Health Nursing Practicum Ⅱ（

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
◎河野朋美、中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域で生活するすべての人々が安全で安心して健康的に暮らしていくことを支援する公衆衛生看護における看護管理や地域の健康危機管理の理解を深める。
授業計画	<p>方法 実習課題を設定し、深めたい分野の公衆衛生看護管理について実習する。 県全体の会議に参加 保健所における公衆衛生看護管理活動の実態把握 関係機関訪問 保健所及び市町村における危機管理の説明を受ける 県保健師の役割について説明を受ける 諸会議に参加し、会議の準備、実施、事後対応における保健師の管理機能を理解する 公衆衛生看護管理と健康危機管理の体制と保健師の役割についてのカンファレンス 統括保健師の活動を知る</p> <p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習施設 宮崎県内の2～3の保健所 ※基礎実習Ⅱと同じ実習施設であることが望ましい</p> <p>実習期間 4月～9月の10日間</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに実習指導を行います</p>
授業形態	実習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域住民の健康増進および生活を守るための保健活動の質を保証する機能と役割の実際について学ぶ。 2. 実習施設の各種保健医療福祉計画に基づく施策化、保健サービス等を提供するための保健師の役割、関係機関との連携・協働の実際を学びマネジメントを実践できる能力を習得する。 3. 個人・家族、地区、保健師の所属する組織の健康状態に危機的状況がおこる場面に応じた公衆衛生看護活動が実践できるための専門知識を学ぶ。 4. 公衆衛生看護管理や健康危機管理の実際を理解し必要な知識・態度を習得し、公衆衛生看護管理・健康危機管理体制の課題を探究する。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目標の達成度（80%）：評価表（添付様式参照）に基づく自己評価・他者評価をもとに教員との面談により実習到達度を評価 2) 実習記録やその他作成資料（10%）：①ルールへの遵守 ②他者に伝える内容としての適切性・正確性 3) 学内外報告会発表（10%）：①実習目標に照らして体験と学びがわかるように表現されているか ②第3者にわかりやすく伝わるように構成されているか 4) 評価基準：1) 2) 3) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。但し、必要な実習記録及びレポートが未提出の者は「不合格」とする。 <p>※総点（100点）に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおりとする。</p>
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次の全必修科目について単位取得済であること 2. 基礎実習Ⅰ～Ⅲ及び発展実習Ⅰの単位取得済であること
科目等履修	否
履修上の留意点	公衆衛生看護管理・健康危機管理論及び公衆衛生看護管理・健康危機管理論演習と並行して学びを深めながら実習を行います。
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：否

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	8	必修
担当教員			
◎中村千穂子 ◎河野朋美			
添付ファイル			
授業の目的・概要	公衆衛生看護の活動や研究論文等の文献クリティークを行い、看護学研究方法論や社会調査法演習、基礎実習等の学習を基として実践の中から研究テーマを設定し、実践者と協働し実践課題の解決に還元可能な実践研究論文を作成する。		
授業計画	1-30回 研究計画の立案 研究計画の立案 文献検討，データ収集方法の検討，関係機関との調整，倫理審査 31-60回 データ収集 文献検索・整理，インタビュー実施・入力，調査票配布・回収・入力 61-90回 データ分析・結果の考察 解析，テーブルの作成，結果の解釈，文献再検討，考察 91-120回 論文作成 考察，方法，結果，イントロ，参考文献，要旨の作成		
授業形態	講義・演習・フィールドワーク		
到達目標	1. 自身の関心や疑問を基に、現場でのインタビューや参与観察、活動報告や研究論文を通して情報を集め、研究で取り上げるテーマ（地域の健康課題や事例が提起する課題）を明確にできる。 2. テーマに関連する法制度の変遷や現在の社会状況を把握し、テーマに内包される健康課題との関連性を分析し構造化できる。 3. 明らかにした研究テーマについて研究計画書を作成し、実施のための環境調整ができる。 （倫理審査を受ける必要がある場合は、倫理審査書類を作成し、倫理審査を受ける） 4. 計画書にそって研究を実施し、修士論文を作成する。 5. 地域住民、関係機関、学会などに研究の成果を報告できる。		
評価方法	博士前期課程 実践研究 論文審査規準による ※詳細は、学生便覧参照		
教科書			
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：状況によっては調整可		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎毛利聖子 他			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護実践を導く看護理論について、ナイチンゲール看護論を中心に、主要な看護理論について理解を深め、看護実践における看護理論の意義について、討議を通して明確にする。
授業計画	<p>1-2回 【オリエンテーション】 内容：学習目標・目的・講義の展開方法について確認する 看護理論とは何か、なぜ看護理論が実践の現場に必要なのか討議を行う。 看護理論の歴史の変遷について知る。 ナイチンゲール看護論について理解を深める 方法：講義・討議</p> <p>3-4回 【ナイチンゲール看護論について】 内容：ナイチンゲール看護論の基幹概念について具体的事実をもとに像を拓ける 『看護覚え書』を読みこむための基本線を共有する ・精読するとはどういうことか、理解を深める ・<はじめに>より、ナイチンゲールが問いかけていることは何かを検討する 方法：講義・討議</p> <p>5-6回 【プレゼンテーションおよび討議】 内容：各自、ナイチンゲール看護論を活用して、自己の看護実践の分析を試みる 『看護覚え書』を精読し、『原文看護覚え書』と照合しながら、意味内容を取り出し、 討議・発表を行う 『看護覚え書』を読み込み、具体的な看護現象との繋がりを検討し、現代看護に繋がる 内容の抽出を試みる 方法：プレゼンテーション・討議</p> <p>7-9回 【理論の実践への適用】 ①ナイチンゲール看護論の実践への適用について 内容：討議を通して、看護理論と実践との繋がりについて具体的な実践例より理解を深める 方法：講義・討議</p> <p>10-11回 ②トラベルビー看護論の実践への適用について 内容：看護理論が生まれるまでのプロセスを知り、掘って立つパラダイムと理論を構成する 主要概念の意味を結び付けて理解する 討議を通して、看護理論と実践との繋がりについて具体的な実践例より理解を深める 方法：講義・討議</p> <p>12-14回 ③マーサE. ロジャーズ、マーガレットA. ニューマン理論の実践への適用について<特別講師> 内容：看護理論が生まれるまでのプロセスを知り、掘って立つパラダイムと理論を構成する 主要概念の意味を結び付けて理解する 討議を通して、看護理論と実践との繋がりについて具体的な実践例より理解を深める 方法：講義・討議</p> <p>15回 【看護理論の発展の方向性について】 内容：看護実践と理論の関連性について理解を深め、看護理論を実践へ適用された事例 の理解から、意義と有効性、およびその限界について討議する 看護理論の開発のプロセス・特徴・実践への有効性について、これまでの内容をもとに 看護理論の発展の方向性について討議する 方法：講義・討議</p> <p>*授業日程は、履修生と調整して決定します。 *授業の順番は、変更する可能性があります。 *予習・復習・事前課題などは、講義の中で連絡します。 *担当教員は、総合病院での臨床経験を積み、看護教育に携わっています。</p>
授業形態	講義・プレゼンテーション・討議
到達目標	<p>1 看護理論の持つ意義について理解を深める</p> <p>2 看護学の理論体系の変遷について学び、主要な看護理論の理論構築の主要概念とその概念基盤について理解する</p> <p>3 主要な看護理論の開発のプロセス・特徴・実践への有効性および限界について学び、看護実践とのつながりで理解を深める</p>
評価方法	<p>毎回の討議内容およびレポート 60%</p> <p>プレゼンテーションの内容 30%</p> <p>最終レポート 10%</p>
教科書	
参考書・参考文献	<p>原文看護覚え書 F. ナイチンゲール 現代社</p> <p>看護覚え書 改訳第8版 訳 湯楯ます 他 現代社</p> <p>看護理論家の業績と理論評価 第2版 編集 筒井真優美 医学書院</p>

	科学的看護論 第3版 薄井坦子 日本看護協会出版会
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	オンライン受講は、授業内容により可とする。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
◎久野暢子、中尾裕之、葛島慎吾、田中美智子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p><目的>看護学研究者として必要な基礎的知識と技法を修得します。 <概要>看護学における研究の意義を理解し、研究デザインの種類や特徴、研究のプロセス、研究倫理などを学ぶことで、看護学の発展に寄与する研究において必要な知識を修得します。また、先行研究のレビューやグループワークを通して研究の実際を学び、研究遂行における基礎的能力を養います。</p>
授業計画	<p>1回 【ガイダンス／研究の基本的知識】<久野> 内容：本科目のガイダンス、研究疑問と研究デザインの関係 方法：講義 ◇課題はオムニバス教員が事前・事後に示します。（以下同）</p> <p>2-4回 【文献レビュー】<葛島> 内容：文献の種類、文献レビューの目的、文献レビューの方法 など 方法：講義、履修生によるプレゼンテーション（グループワーク）</p> <p>5-6回 【研究デザイン①：調査研究】<中尾> 内容：調査研究の概要、調査票の作り方 など 方法：講義</p> <p>7回 【研究デザイン②：実験研究】<田中> 内容：実験研究デザイン（介入研究）について 方法：講義</p> <p>8回 【研究デザイン③：質的記述的研究】<久野> 内容：質的研究デザイン（質的記述的研究/m-GTA/他）、面接の技法 方法：履修生によるプレゼンテーション（グループワーク）</p> <p>9-13回 【調査の実際：グループワーク】<中尾/久野> 内容：調査研究/質的記述的研究の実際 方法：受講生の希望に沿って、調査研究/質的記述的研究のどちらかに分かれ、グループワークを行う。</p> <p>14回 【グループワーク成果発表会】<中尾/久野> 内容：調査研究/質的記述的研究のグループワークの成果発表 方法：履修生によるプレゼンテーション、討議により学びを深める。</p> <p>15回 【最終課題のまとめ：文献クリティーク】<久野> 内容：自己の研究疑問に関連する文献クリティーク 方法：自己の研究疑問に関連する看護研究の原著もしくは研究報告を選択し、本科目の学修内容を活かして研究方法を中心としたクリティークを行い、その内容をレポートにまとめる。（個人ワーク）</p> <p>※授業日時は前期・後期セメスター開始時に履修生と相談して決定します。 ※授業の順番は変更する可能性があります。</p>
授業形態	講義、演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学研究の意義を説明できる。 2. 代表的な研究デザインの特徴を説明できる。 3. 代表的な研究手法の実施上のポイントを体験に基づき説明できる。 4. 自己の研究疑問に関する文献クリティークができる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業への参加状況（プレゼンテーションやグループ討議、レポート提出状況を含む）（90%） 到達目標1～3に関して評価します。詳細は各オムニバス授業の中で説明します。 2) 最終課題：文献クリティークレポート（10%）

	<p>到達目標4の評価とし、課題レポート提出時のマナーもその対象とします。課題の提出要領は第14回授業の実施時期に改めて説明します。</p> <p>※成績判定基準は宮崎県立看護大学履修規程第7条2項により次の区分とします。 評点（100点）中 S：90点以上（特に優秀な水準で到達目標に達している） A：80点以上90点未満（優秀な水準で到達目標に達している） B：70点以上80点未満（到達目標に達している） C：60点以上70点未満（十分ではないが到達目標に達している） D：60点未満（到達目標に達していない）</p>
教科書	<p>大木秀一．看護研究・看護実践の質を高める 文献レビューのきほん、医歯薬出版、2013．ISBN：978-4-263-23581-2</p> <p>その他、資料については随時配布する。</p>
参考書・参考文献	<p>D. F. ポーリット&C. T. バック．看護研究 第2版 -原理と方法-、医学書院、2010．ISBN：978-4260005265</p> <p>前田樹海、江藤裕之．APAに学ぶ看護系論文執筆のルール第2版、医学書院、2023．ISBN：978-4-263-23581-2</p>
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	・オンライン受講の可否：授業内容によりますので、オムニバス教員の指示に従ってください。
備考・メッセージ	本科目は修士論文作成の土台となる内容を学びます。学んだことを自分のものにできるよう、主体的・積極的に取り組んでください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
◎邊木園幸、毛利聖子、重久加代子、中村千穂子、岩江荘介、他			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護倫理の歴史の変遷を理解し、実践現場で活用できる倫理的判断能力および研究倫理について学ぶ。
授業計画	<p>1-4回 「看護倫理」の基礎と実践（高岩）</p> <p>5-6回 看護倫理の歴史（毛利）</p> <p>7-8回 遺伝医療における倫理的課題（野間口）</p> <p>9回 老年期・終末期における倫理的課題（重久）</p> <p>10回 保健活動における倫理的課題（中村）</p> <p>11-12回 感染症をめぐる倫理的課題（邊木園）</p> <p>13-15回 研究倫理（岩江） 研究倫理申請に関することを含みます</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理の歴史の変遷を理解することができる。 2. 看護倫理の主要な概念を理解できる。 3. 倫理的課題とその解決技法について、理解することができる。 4. 研究倫理について、理解することができる。
評価方法	授業への参加状況（討論・発表）（20%） 事前・事後レポート(80%)
教科書	随時、紹介する。
参考書・参考文献	随時、紹介する。
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	授業の順番・実施日は変更することがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
◎中村千穂子、串間敦郎			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉ライフサイクルにおける生活習慣病の特徴を理解すると共に、基本的な生活習慣病の病態・治療方法と、生活習慣病予防を目指した主な生活習慣改善方法である食・運動に関する保健指導のポイントを理解する。</p> <p>〈概要〉生活習慣病やその予防方法の特徴を学習した上で、生活習慣病予防としての食・運動習慣改善支援の内容や、健診方法や治療内容について学びます。</p>
授業計画	<p>第1回 【生活習慣病の特徴】（担当：中村） 〈内容〉 ・オリエンテーション ・生活習慣病の特徴（高血圧症、糖尿病、脂質異常症） ・生活習慣病予防保健指導 〈方法〉 講義 〈課題〉 ・教科書の該当ページを読んで理解する</p> <p>第2-3回 【生活習慣病の病態と治療方法】（担当：特別講師_未定） 〈内容〉 ・健診結果の見方、詳細な検査、二次検査と治療 ・高血圧症、糖尿病、脂質異常症の病態と薬物治療 ・CKDの病態と治療、心房細動と心原性脳梗塞、心電図所見 〈方法〉 講義 〈課題〉 ・教科書の該当ページを読んで理解する</p> <p>第4-5回 【生活習慣病予防のための栄養・食生活指導】（担当：特別講師_未定） 〈内容〉 ・栄養アセスメントの活用（検査値からわかる身体の状態） ・行動変容を目指した栄養指導の実際（糖尿病、脂質異常症、高血圧） 〈方法〉 講義・個人ワーク・グループワーク 〈課題〉 ・教科書の該当ページを読んで理解する</p> <p>第6-7回 【生活習慣病予防のための運動】（担当：串間） 〈内容〉 ・健康づくりのための身体活動基準・指針 ・治療者への運動指導 ・運動処方（運動種目・運動強度の設定） ・ウォーキング、レジスタンストレーニングの指導ポイント 〈方法〉 講義・個人ワーク・グループワーク 〈持参〉 運動できる服装 〈課題〉 ・教科書の該当ページを読んで理解する</p> <p>第8回 (0.5) 【生活習慣病保健指導のまとめ】（担当：中村） 〈内容〉 ・第7回までの授業内容を踏まえた生活習慣病保健指導に必要な内容や保健指導の視点について 〈方法〉 グループワーク 〈課題〉 ・各回の授業での保健指導に関する学びをまとめて発表できるように準備をしておくこと</p> <p>※保健師として市町村に勤務。市町村での実務経験をもとに生活習慣病予防の特徴について話をします。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人・家族・集団の生活習慣改善に向けた行動変容に必要な諸理論について理解できる 2. 生活習慣病及び予防方法の特徴が理解できる 3. 生活習慣病の発症・重症化の保健指導が理解できる
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業への参加状況（50%） ・評価規準：各回授業中の発言内容や授業時の作業内容、授業感想から、①生活習慣病予防に関する知識や技

	<p>術の習得、②生活習慣病予防保健指導の際に必要な判断や表現の深まり、③保健指導者としての態度の獲得の観点から評価する。</p> <p>2) 「生活習慣病予防における保健師の役割」についてレポート (50%) ・評価規準：講義内容、自己の体験、時間外の学習などをふまえて、自己の考え記述することができる。基本的なレポートの体裁や提出ルールに則り、作成、提出できる。</p> <p>3) 評価基準：1) 2) の合計を100点満点で点数化し、60点以上を「合格」とする。但し、レポートが未提出の者は「不合格」とする。 ※総点 (100点) に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり</p>
教科書	田中逸：新セミナー生活習慣病〈第3版〉、日本医事新報社、2025
参考書・参考文献	高血圧診療ガイド2020：日本高血圧学会、文光堂 糖尿病治療ガイド2024、日本糖尿病学会、文光堂 動脈硬化性疾患予防のための脂質異常症診療ガイド 2023年版：日本動脈硬化学会、 エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023：日本腎臓学会 どこでもケア (保健指導用タブレット教材)、ウェルクル
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	・健康づくり活動論Ⅰの成人保健活動の学習内容を理解しておくようにしてください。 ・看護師基礎教育で学習した、人体構造と機能、慢性疾患がある患者と家族の看護など生活習慣病保健指導に関連の大きい事項について復習をして臨むようにしてください。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
◎桑野紀子（科目調整担当教員：中村千穂子）			
添付ファイル			
授業の目的・概要	<p><目的> 本講義は、国際保健および国際看護学の主要概念を基盤として、グローバルな健康課題と人の移動を背景にした健康問題を修士レベルで理解し、日本社会における在留外国人・移民の健康課題に対して、看護専門職として分析・対応できる能力を養うことを目的とする。あわせて、国際保健政策、国際協力の枠組み、多文化・異文化理解に基づくケアの視座を修得する。</p> <p><概要> 前半では、世界の疾病構造、健康指標、健康の社会的決定要因、国際機関や国際保健協力の枠組みを通して、グローバルヘルスの課題を概観する。後半では、国際的な人口移動の文脈の中で日本の在留外国人の健康問題を位置づけ、特にメンタルヘルスや地域保健の現場における支援の実際を学ぶ。講義、事例検討、ロールプレイ、発表・ディスカッションを通じて、国際的視点と地域実践を相互に関連づけながら、看護職の専門性を踏まえた課題分析と提案力を高める。</p>		
授業計画	<p>1回 【オリエンテーション／国際保健・国際看護の基礎知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 授業の目的・進め方、課題の説明 ・国際保健・国際看護の基本概念 ・グローバルヘルスの健康課題を見るフレームと現状：10大主要死因、世界の健康問題の3分類（CDs, NCDs, 外傷）と各々の現状（グローバル、所得別） ・疾病負荷（GBD）／DALY、YLDから見た健康課題 ・健康の社会的決定要因 <p>2回 【グローバルヘルスの課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保健、貧困 ・リプロダクティブヘルス&ライツ、妊産婦死亡に関する課題と背景 ・グローバル・メンタルヘルスの現状と課題 ・難民の現状と課題 <p>3回 【グローバルヘルス・国際協力と国際機関、政府機関（ODA）、非政府機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際協力の必要性について考える ・グローバルヘルスの課題と国際機関 ・政府機関（政府開発援助、ODA）、非政府機関 <p>4回 【日本の在留外国人をグローバルな人口移動の中で捉える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な人口移動の現状 ・移民大国における保健・社会政策の考え方 ・日本における在留外国人の動向 <p>5回 【在留外国人を対象とした保健師活動の実際】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における在留外国人の健康課題の実際 ・文化の違いによる支援の難しさと調整の実際 ・事例を通して考える保健師の役割 <p>6回 【外国住民のメンタルヘルスとその支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国住民の遭遇するさまざまな壁と社会的孤立を防ぐための社会資源 ・心に寄り添う姿勢と態度 ・ロールプレイによる実践 <p>7回 【課題設定と発表準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定：学生間および教員とディスカッションを行い決定する ・調べ学習：公的統計、国際機関HP、政府資料、学術論文等を用い、現状のみでなく構造的背景にも目を向ける ・発表・ディスカッションに向けた準備。テーマと看護職の専門性のつながりを意識すること。 <p>8回 【発表、ディスカッション、まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人あるいはグループで、パワーポイントを用いて10分発表、5分質疑応答を行う。 ・全発表終了後にディスカッションを行う。 		
授業形態	講義、グループワーク、発表とディスカッション		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際保健および国際看護学の主要概念、世界の疾病構造、健康指標を用いて、グローバルな健康課題を説明できる。 2. 国際的な人口移動の視点から、日本における在留外国人の健康課題を社会的・構造的背景と関連づけて分析できる。 3. 異文化・多文化理解に基づき、在留外国人のメンタルヘルスや地域保健に関する支援の在り方を、看護専門職の立場から検討できる。 4. 国際的視点と地域実践を統合し、在留外国人の健康課題に対する看護職としての課題分析および提案を、プレゼンテーションを通して表現できる。 		
評価方法	平常点（講義で複数回提出を求めるミニレポート等）（30%） プレゼンテーション（40%）：発表内容について、質疑等を通して評価する。 ディスカッションへの参加度（30%）		
教科書			
参考書・参考文献	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1]（医学書院） 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3]（医学書院）		

	看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために (南江堂) Global Applications of Culturally Competent Health Care: Guidelines for Practice (Springer) WHO, UNICEF 等 国際保健機関公式資料
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	【外国住民のメンタルヘルスとその支援】の回では、事前に基本的な面接技法について学習しておくこと
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
◎梅津頭一郎（科目調整担当教員：中尾裕之）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>社会調査は、単に社会科学の学問的なデータを集める手法にとどまるものではなく、様々な社会的実践活動の基礎をなす、問題発見と論理的な思考に深く貢献するものである。授業では、社会調査プロジェクト(フィールドワーク)の実践を通じ、社会現象を科学的に理解し、議論するためのスキルを身につける。具体的には、全体課題として指定した大きなテーマに基づき、受講生自らが問いを立て、仮説をつくり、仮説を検証するための対象と方法を選択し、実践するプロセスを経験することで、問題の設定やそれに相応しい論理的思考力を身につける。</p> <p>特にフィールドワークでは、実際に地域社会に出て調査を行うことで、地域というフィールドと論理的な思考とを往復しながら考察を深めることを目指していく。</p>
授業計画	<p>第1回 【ガイダンス】 社会調査法演習について</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の項目についてガイダンスを行い、授業への理解を深める。①授業の狙いと方法、②授業の全体計画 課題: 次回レクチャー用配布資料に目を通し、疑問点等を明らかにしてくる <p>第2回 【レクチャー】 社会調査とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会調査の基本的な考え方と、各研究手法の特徴と意義について理解する。 課題: この回後半に提示する調査の全体テーマに基づき、各自調査テーマ案を考え、企画書を作成(様式・分量は授業内で指定) <p>第3回 【グループワーク】 課題の決定とチーム分け</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自の企画案を出し合い、チーム分けを行う 課題: グループごとの企画書の指定部分を完成させる <p>第4回 【レクチャーとグループワーク】 仮説設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査テーマに基づいた関連情報のリサーチと仮説の設定の方法について理解し、各グループの作業を進める。 調査を計画的に進めるために必要な、対象者への依頼と実施についての作法と手法について理解する。 課題: 作業の残り部分 <p>第5回 【レクチャーとグループワーク】 インタビュー調査の意義と手法</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビュー調査の意義と手法について理解し、グループワークとして簡単なインタビューを行う。 課題: 授業内容を踏まえ、各グループにおける関連情報のリサーチ追加等を行う <p>第6回 【レクチャーとグループワーク】 アンケート調査の意義と手法</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの意義と限界、仮説検証に対する役割等について理解を深め、各グループの仮説検証に必要なアンケートの設計を行う。 課題: 作業の残り部分。グループによっては仮説自体のブラッシュアップのためのプレアンケートを行ってもよい。 <p>第7回 【レクチャー】 記録法</p> <ul style="list-style-type: none"> 記録法、コーディング、エディティングなどについての理解を深める。 課題: 第2～7回の授業内容を踏まえ、本調査の設計を行う。 <p>第8回 【レクチャーとグループワーク】 本調査の設計と段取り</p> <ul style="list-style-type: none"> 質問方法と項目についての確認と確定を行う。 課題: 作業の残り部分 <p>第9回 【グループワーク】 調査の実習①</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループごとの調査の実習 <p>第10回 【グループワーク】 調査の実習②</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果の整理と記録、コーディング、エディティングなど 課題: 中間報告会に向けた準備 <p>第11回 【中間報告会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各報告と、課題・問題点の指摘(ディスカッション) <p>第12回 【グループワーク】 分析と仮説検証・考察①</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間報告時に指摘された問題、課題を受け、内容をブラッシュアップする クロス集計等から、考察を深める。 <p>第13回 【グループワーク】 分析と仮説検証・考察②</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間報告時に指摘された問題、課題を受け、内容をブラッシュアップする クロス集計等から、考察を深める。 <p>第14回 【グループワーク】 調査報告書の作成と報告会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 所定様式による報告書の執筆とともに、最終報告会におけるプレゼンテーションの準備を行う。 <p>第15回 15回【報告会】 最終報告会、および報告書の提出</p>
授業形態	講義および演習

到達目標	<p>① 諸現象における問題状況、課題について、自らの力で発見し、社会・文化関係を総合的な視野から思考し、その解決に向けて、俯瞰的かつ総合的な視野から思考することができる。</p> <p>② 社会調査の基本的事項を踏まえながら、社会調査としての確かなプロジェクトを設計することができる。</p> <p>③ 調査設計と実施方法に関して理解した上で、社会調査によって資料やデータを収集・分析することができる。</p> <p>④ 調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程について自ら実践することができる。</p>
評価方法	試験（60%:中間報告10%、最終報告20%、報告書30%）、授業への参加状況（40%）
教科書	特定のものは使用せず、毎回事前に資料を配布する。
参考書・参考文献	第1回講義及び第8回までの授業内でテーマごとに紹介します。
履修条件	—
科目等履修	可（または不可）
履修上の留意点	授業の性格上、熱心な参加と真面目な態度が求められます。特に欠席遅刻は他のグループメンバーの迷惑となりますので厳禁をお願いします。
備考・メッセージ	<p>これからの社会が人々の健康と幸福に満ちたものとなるために、社会学的な思考は非常に重要であると考えています。授業では単に調査技法について学ぶだけでなく、社会学的な物事のとりえ方の面白さと意義も味わっていただきたいと考えています。</p> <p>厳しいだけでなく、なるべく楽しみながら深く学べる場としたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
◎有馬晋作（科目調整担当教員：中尾裕之）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	将来、保健行政に携わることを想定し、国と自治体の関係も含め自治体行政の知識や理論を学ぶ。我が国の国政と地方自治の制度のほか、その歴史も学び、自治体の行政活動を規制行政など種類に応じた特色を理解するとともに、その政策について、福祉行政など県予算も通じて理解する。また、保健行政は今後、地域との連携協力が重要となることから、我が国のコミュニティ政策の歴史と現状を理解する。
授業計画	<p>1回目 我が国の統治制度の基本的考え方を理解する。 我が国の国政の制度を理解する。</p> <p>2回目 我が国の地方自治制度を理解する。 我が国の国と自治体の行政組織と、その関係を理解する。</p> <p>3回目 行政活動について、その種類ごとに、目的、特色を理解する。 福祉行政の歴史を含め生活保護や高齢者福祉などを理解する。</p> <p>4回目 公衆衛生の歴史も含め保健所の行政を理解する。</p> <p>5回目 県の予算を通じて行政活動を具体的に理解する。 県の予算を通じて自治体行政を総合的に理解する。</p> <p>6回目 自治体組織の意思決定プロセスを理解する。 人的資源管理論と自治体人事を理解する。</p> <p>7回目 日本の国政の歴史について、政策の変遷も含め理解する。 日本の地方自治の歴史について、政策の変遷も含め理解する。</p> <p>8回目 日本のコミュニティ政策の歴史を理解する。 日本のコミュニティの現状を理解する。</p>
授業形態	講義形式ですが、間に質疑（質問・討論など）を入れて進める。
到達目標	将来、保健行政やコミュニティ政策に携わるときに必要な知識と応用能力を習得する。
評価方法	毎回の授業での態度やテストの総合評価
教科書	毎回、レジュメを配布
参考書・参考文献	授業で別途提示
履修条件	特になし
科目等履修	特になし
履修上の留意点	
備考・メッセージ	行政を学ぶという固い感じがしますが、履修者が少人数なので、和気あいあいと進めたいです。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
中尾裕之			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉看護研究と看護実践に必要と考えられる疫学的な考え方と基本的な統計的方法について理解する。</p> <p>〈概要〉看護研究、および根拠に基づく看護（EBN）に必要な疫学的な考え方（疫学指標や疫学研究方法）と基本的な統計的方法（基本的な統計量や分布、検定の考え方）などについて学ぶ。</p>
授業計画	<p>01-05回 【疾病頻度の測定】 内容：曝露と疾病，疫学指標について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>06-08回 【データと分布】 内容：変数の種類，統計量，データの可視化について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む，ソフトウェアのインストール 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>09-13回 【偏りと交絡】 内容：偶然誤差と系統誤差，バイアス，交絡因子とその制御について 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p> <p>14-15回 【スクリーニング】 内容：感度と特異度，スクリーニングについて 方法：講義，演習 予習：資料の該当ページを読む 復習：授業内容の要約と授業で出た演習や課題に取り組む</p>
授業形態	講義と演習
到達目標	<p>①疫学的な考え方を理解する。</p> <p>②基本的な統計手法を身につける。</p>
評価方法	<p>1) 授業への主体的学習態度（演習・発表・討論・質問等，50%）</p> <p>2) 提出物（50%） 到達目標①～②に関する課題レポートで評価する。</p> <p>3) 評価基準：1)を50点とし2)を50点とした合計100点中，60点以上を合格とする。 S（特に優秀な水準で到達目標に達している）：90点以上 A（優秀な水準で到達目標に達している）：80点以上90点未満 B（到達目標に達している）：70点以上80点未満 C（十分ではないが到達目標に達している）：60点以上70点未満 D（到達目標には達していない）：60点未満</p>
教科書	講義で配布する資料と必要時に適宜，紹介する。
参考書・参考文献	<p>中村好一著，『基礎から学ぶ楽しい疫学』第4版，医学書院，2020年，ISBN978-4-260-04227-7</p> <p>中村好一著，『基礎から学ぶ楽しい保健統計』，医学書院，2016年，ISBN978-4-260-02549-2</p> <p>樋口耕一著，『社会調査のための計量テキスト分析』第2版，ナカニシヤ出版，2020年，ISBN978-4-779-51474-6</p>
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	利用可能なノートパソコン（Windowsが望ましい）がある場合は持参してください。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
田端佑規			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p><授業の目的> 本授業では、栄養素の摂食→消化→吸収→代謝→排泄を軸に、分子・細胞・臓器・個体レベルでの代謝のしくみと、それらが破綻した際の疾患との関係を再整理することを目的とする。さらに、生化学実験および自らの食事を対象とした食事調査演習を通して、「科学的根拠に基づく代謝の理解」と「栄養アセスメント・栄養教育への展開」を通じ、研究・臨床の双方で活かせる視点を養う。</p> <p><授業の概要> 前半では、栄養素の代謝(糖質・脂質・タンパク質)、疾患との関連、生化学検査値について講義と実験を通して学ぶ。後半では、酵素・ビタミン、人間栄養学の概念を整理したうえで、自身の食事を対象とした秤量法・24時間思い出し法・食事バランスガイドによる評価を行い、各手法の結果比較と限界・活用場面について検討する。最終回では、各自の演習結果を発表し栄養疫学・臨床栄養における食事調査法と代謝学の位置づけを議論する。</p>
授業計画	<p>1-2回 代謝学概論 栄養素の摂取と体内利用(代謝)は生命現象の根幹であることを確認する。 栄養素の【摂食→消化→吸収→代謝→排泄】の過程を物質の変化として捉える。 生体を物質(分子)→細胞→臓器→個体という階層性で捉え、生体構成成分を糖質・脂質・タンパク質・核酸に分類できるようにする。</p> <p>3-4回 体内における栄養素(糖質・脂質・タンパク質)の代謝 糖質・脂質・タンパク質の構造を基盤に、細胞レベルでの代謝過程と相互変換を整理する。 臓器レベル・人体レベルでの代謝を、食事・運動・ストレス・疾患などの生活状況と関連づけて理解する。</p> <p>5-6回 栄養素代謝と疾患 糖質の代謝と糖尿病。 脂質の代謝と脂肪肝・脂質異常症。 タンパク質代謝と肝硬変・痛風・黄疸。</p> <p>7-8回 生化学実験(実験・グループワーク) 講義内容に関する生化学実験を行い、代謝学の知識を実験データとして再確認する。 ※受講生と相談してテーマを設定、受講生の希望する実験によっては実験を数回増やす可能性があります。 実験結果を考察し、科学的根拠に基づいた解釈を行う。</p> <p>9-10回 酵素・ビタミンと代謝制御 代謝を司る酵素の働きと、拮抗阻害剤として作用する薬の機序を理解する。 ビタミンの種類と機能(補酵素としての役割)について整理する。</p> <p>11-12回 人間栄養学概論 人間にとっての「栄養」とは何か、代謝学との接点を含めて考察する。 「おいしいものを食べる」vs「おいしく食べる」という視点から、食行動・文化・健康の関係を検討する。</p> <p>13-14回 食事調査法と栄養アセスメント(演習) 自身の食事を対象とし、1日分の秤量法による食事記録を実施する。 同一日について24時間思い出し法で再度記録し、両者の違いを整理する。 両方のデータをもとに、食事バランスガイド(SV)への当てはめ・「コマ」の色塗りなどによる評価を行う。 エネルギー・PFCバランス、食品群バランスの観点から結果を比較し、各調査法の利点・限界・誤差要因(記憶バイアス、計量誤差、食品成分表の扱い等)について検討する。 栄養疫学研究・臨床・保健指導の場面で、どの調査法をどのように組み合わせるかを議論する。</p> <p>15回 発表・総括(発表・討論) 秤量法・24時間思い出し法・食事バランスガイドによる評価結果をまとめ、自分の食事パターンの特徴と改善点、各手法の活用場面・限界について発表する。 他者の発表を共有・討議し、代謝学の知識を前提とした栄養アセスメント・栄養教育・栄養疫学研究の位置づけを整理する。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の摂食→消化→吸収→代謝→排泄の過程を、分子・細胞・臓器・個体レベルの代謝として説明し、代表的疾患(糖尿病、脂質異常症、脂肪肝・肝硬変、痛風、黄疸など)の理解に結びつけることができる。 2. 生化学実験(消化・吸収)の結果を、酵素反応・ビタミンの機能・生化学検査値と関連づけて解釈できる。 3. 秤量法・24時間思い出し法・食事バランスガイドなど複数の食事調査・評価法を、自らの食事を題材として実施し、その結果の違いと利点・限界を説明できる。 4. 栄養疫学研究や臨床・保健指導の場において、目的に応じた食事調査法の選択と組み合わせ方について、自分なりの判断根拠を述べるができる。

評価方法	<p><成績評価> 授業参加・リアクションペーパー 20% 各回の内容に対する振り返り、重要だと感じた点や自分の研究・実践との関連を簡潔に記述する。 実験レポート・食事調査レポート 40% 生化学実験の結果と考察をまとめたレポート、および秤量法・24時間思い出し法・食事バランスガイドによる評価結果の比較・考察レポートを提出する。 最終発表 40% これまでの学修と演習結果をふまえ、栄養素代謝・疾患・栄養アセスメントを統合した内容を発表し、質疑応答を通じて理解の深さ・応用力を評価する。 合計100点満点とし、基準に従って成績評価を行う。</p>
教科書	必要に応じ配布する
参考書・参考文献	必要に応じ配布する
履修条件	—
科目等履修	不可
履修上の留意点	<p><履修上の留意点> 学部時代に履修した、代謝学や栄養学等の講義ノートや実習書は、適宜参照できるよう準備しておくこと。 指定された回(とくに実験回および食事調査演習回)では、事前にTeamsに掲載する資料を読み、必要な準備(食事記録など)を行ったうえで参加すること。 食事記録はあくまで学術的目的で扱い、個人情報の取り扱いには十分配慮する。他者の記録内容について、批判ではなく学び合いの姿勢で議論すること。</p>
備考・メッセージ	<p>オンライン受講の可否：可 代謝や栄養の勉強は、知識を「増やす」よりも、いったん細かく「分けて」から、もう一度つなぎ直す作業に近いと思っています。分子レベルの話と、病棟で見る検査値や食事内容が、同じ一本のストーリーとして見えてくると、臨床や研究でのモヤモヤがかなり減ります。 この講義では、生化学実験や自分の食事を題材にした食事調査を通して、「頭で知っていること」と「自分のからだ・生活」の間を行ったり来たりしながら、代謝学をもう一段深く自分のものにしてもらえたらと思います。秤量法は少し面倒ですが、その「めんどくささ」も含めて、栄養疫学や臨床現場での調査法選択をリアルに考える材料にしていきましょう。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
串間敦郎			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p><目的>健康の保持増進には、適度な運動が必要である。また疾病や障害によっては、回復から復帰にかけても必要となってくる。そこで本授業では医療と運動の関わりをふまえて、健康と運動の関係、身体機能と運動のかかわり等について理解し、多様な対象者に対する効果的な運動の方法と指導について理解し、実践できることを目的とする。</p> <p><概要>健康と運動の関わりについて（理論編）関連する論文または書籍を輪読し、検討を加え理解を深める。そしてこれまでの学修を踏まえ実際の体力医学の評価方法や運動の指導法等について学修し、多様な対象者に対する運動処方について理解を深めていく。</p>
授業計画	<p>1回 【オリエンテーション及び講義「健康体力医学と運動科学について」】 今後の授業の展開についての説明 授業を進めていく上で必要な体力医学的な知識について教授する。</p> <p>2-8回 【健康と運動の関わりについて（理論編）】 書籍と関連する論文を輪読し、それらについて検討を加え理解を深める。</p> <p>9-14回 【健康と運動の関わりについて（実践編）】 これまで学修してきたことをふまえ、体力医学の評価方法や運動の指導法について学習する。内容は以下に示す項目である。</p> <p>1 リハビリテーションに関係する運動 ・ストレッチング ・転倒予防体操 ・エアロバイク ・ジムニックボール ・ウォーキング 等 またこれらの運動を実行する際に、姿勢評価、筋電図、最大酸素摂取量等の測定を行う</p> <p>2 患者やアスリートのケア ・テーピング ・マッサージ ・リハビリの実際</p> <p>3 運動指導法 ・トレーニングの方法（行動変容・コーチング理論の適用） ・運動技術の修正法</p> <p>4 宮崎市介護予防運動教室見学</p> <p>15回 【まとめ】 これまでの演習内容のまとめと作成した運動処方の発表</p> <p>16回 【評価（レポート提出）】</p>
授業形態	講義及び演習
到達目標	<p>1. 運動することが健康に必要でなぜ有効なのか理解する。</p> <p>2. 運動の効果について、その根拠について理解する。</p> <p>3. 自己や若年・成年・老年、アスリート、患者、障がい者等の多様な対象者の体力や身体の状態を客観的に評価でき、運動処方を作成する。</p>
評価方法	<p>測定した各自のデータをもとに、健康増進・体力向上に関するレポートを提出する。 レポート（70%）、作成した運動プログラム（30%） ※総点100点に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり。</p>
教科書	ナースのためのメディカルフィットネス、鶴田久美他編、NAP、2024年
参考書・参考文献	授業時に指示
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	実技、実践に当たり、心身の不調がないよう十分に体調を整えて授業に臨むこと。日常生活のなかで積極的にスポーツや運動を活用し、身体を動かすよう努める。なお、本科目の準備・復習時間は、各1時間を目安とし、授業の展開に合わせて事前に調べておくこと。
備考・メッセージ	授業時間については履修者との相談の上、柔軟に対応する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎坂本貴子（科目調整担当教員：濱寄真由美）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	現在および今後の医療環境を理解し、効率かつ効果的に質の高い看護を提供するにあたり、看護管理者に求められる能力について考察する。また、これらの能力を基盤として、健全な組織運営に向けた具体的な方策を検討する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の変化と看護職の役割：日本の医療ビジョン 看護と看護職の活動変遷、看護の役割と責任 2. 看護マネジメント：基礎理論、定義、管理システム、ヘルスケアとの関連 3. 看護マネジメント：組織構造と機能、分業、マネジメントの要素とプロセス 4. 看護マネジメント：看護サービス、人的資源管理・物金管理 5. 看護マネジメント：看護管理者に求められる能力、コンピテンシー 6. 看護の質向上のための取り組み：看護の質、質改善、組織改革法 7. 看護サービスの質管理と医療安全：看護管理者に求められる医療安全管理の実際 医療事故を考える視点、法的責任 8. 看護サービスの質管理と医療安全：ヒューマンエラーと安全文化の醸成 9. セルフマネジメント 10. 看護専門職とキャリア 11. 組織活動と倫理 12. 看護と経営 13. 組織分析：SWOT分析、BSC 14. 組織分析：SWOT分析、BSCグループ討議 15. まとめ：SWOT分析、BSCに関するグループ発表
授業形態	講義および演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の現状と課題を説明できる 2. 健全な組織運営と効率かつ効果的な看護の提供に向けて、看護管理者に必要な能力と具体的な方策を考察することができる
評価方法	授業（討議を含む）への参加40% グループワーク40% レポート20%
教科書	ナースンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理, 第5版, 吉田千文ら, メディカ出版
参考書・参考文献	スティーブンP. ロビンス：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社/ ISBN-13: 978-4478004593
履修条件	
科目等履修	不可
履修上の留意点	オンライン受講の可否：可
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
長坂猛			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>【目的】 自分の研究で用いるデータ処理の技法を身につけること。もしくは、文献で用いられている分析手法を理解すること。</p> <p>【概要】 先行研究の論文を読むときや、自分の研究をまとめる過程で必要となるような情報処理の基礎的な手法について学ぶ。文献検索、文書表現、基本的な統計量の計算、プレゼンなどについて、パソコンを用いた授業を行う。</p>
授業計画	<p>01回 概論および復習（パソコン操作を含む講義） Excel の基礎的な機能 WordとExcel の連携 ソフトによるデータ処理と、数値の印象 ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>02回 基本データ集計と文書化（パソコン操作を含む講義） 報告レポートの構成 表計算ソフトを使用した演算とグラフ描画の復習 ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>03回 文字列判定とデータ処理（パソコン操作を含む講義） オートフィルの利用 セルの相対参照と絶対参照 文字列判定とデータ集計（IF、AND、OR） ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>04回 データの分布（パソコン操作を含む講義） 度数分布図とパレート図の作成（累積度数、相対度数、累積相対度数） 分布でみられるデータ特性（単峰性、多峰性、外れ値） ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>05回 全体からみた個別データ（パソコン操作を含む講義） 平均値と中央値 正規分布と基本統計量（歪度、尖度） 平均と偏差（平均、分散、標準偏差、zスコア、偏差値） ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>06回 分配のバランス（パソコン操作を含む講義） 分布の非対称性 変動幅の重み 四分位数と箱ひげ図 均等分配線とジニ係数 ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>07回 時系列データの解析01（パソコン操作を含む講義） クロスセクションデータと時系列データ 時系列データの成分分解（加法モデル） 平滑化の方法（移動平均、フィルタリング） 欠損値の補完 ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>08回 時系列データの解析02（パソコン操作を含む講義） 基準時点からの変化（指数化、変化率、成長率） 前年同月比 分野別でみた全体の寄与 ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>09回 t検定（パソコン操作を含む講義） データ特性による検定方法の選択（t検定、Wilcoxon検定） パラメトリックデータとノンパラメトリックデータ t検定（対応のある検定、対応のない検定、なぜ検定を繰り返さないか） ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>10回 分散分析（ANOVA）（パソコン操作を含む講義） 3群以上の平均値の差を検定する（分散分析） 分散分析の考えかたとExcelが出力する結果 Excelで可能な分散分析（対応のない一元配置分散分析、対応のある一元配置分散分析、繰り返しのある二元配置分散分析） ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>11回 χ^2検定（パソコン操作を含む講義） クロステーブルから評価する関連性 χ^2検定（独立性の検定、適合度検定） アンケートシート作成に必要なこと アンケート集計と質問項目 ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p>

	<p>12回 相関と単回帰（パソコン操作を含む講義） 相関係数の計算（散布図、共分散、相関係数、相関係数の信頼性） 回帰（単回帰）と回帰直線 回帰式によるデータ予測と決定係数 フィッティングの問題 因果関係と相関 ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>13回 重回帰（パソコン操作を含む講義） 単回帰と重回帰の関係（重回帰モデル） 3つの説明変数と回帰平面 単相関係数と重相関係数 モデル式に二値の説明変数を取り入れる ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>14回 統計計算ソフトの利用01（パソコン操作を含む講義） EZRの基本演算（四則演算、変数の代入、配列、関数） Rを用いた基本的なグラフの描画（散布図、折れ線グラフ、棒グラフ、箱ひげ図） Excelからのデータ読み込み（インポート、コピー・ペースト） データ連結 ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p> <p>15回 統計計算ソフトの利用02/スライド作成（パソコン操作を含む講義） Rを用いた基本的な統計分析（相関、t検定、χ^2検定、分散分析） 多重比較と検定エラー（第一種の誤り、第二種の誤り、多重比較、ボンフェローニ法） スライド作成の注意点 ▶予習は求めないが配布ファイルを用いて復習をしておくこと</p>
授業形態	パソコンを使用した演習が中心
到達目標	(1) よく利用する機材やシステムなどの基本的な機能について知る。 (2) ソフトウェア間の連携を意識して、資料化やプレゼンの能力を向上させる。 (3) データ集計の技法を通して、分析能力を養う。
評価方法	授業および課題への取り組みによって評価する。 成績評価＝参加姿勢（出席による）30%＋課題の提出70% 課題で重視する点：(1)課題の作成に演習内容が反映されているか、(2)分析や表現に工夫がなされているか
教科書	とくに指定しない
参考書・参考文献	とくに指定しない
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
小河一敏			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>〈目的〉 ナイチンゲール著『看護覚え書』序章に説かれている「生命の法則」を「生体と環境との統一」という視座から理解する。</p> <p>〈概要〉 ナイチンゲール著『思索への示唆』を参考にしてナイチンゲールが『看護覚え書』執筆当時描いていた自然観・人間観を素描する。その上で、ナイチンゲール著『看護覚え書』をセルフケアの視点から読み込むことにより、家庭衛生・家庭看護のレベルでナイチンゲールの生活観・健康観・看護観を理解していく。</p>
授業計画	<p>1回 【何故、「自然観」か —生命を守るために宇宙・地球を学ぶ意義—】 「個別科学としての看護学の構造」（『科学的看護論』）の土台には「自然観」が据えられている。これを具体的に表象化した図が『ナースが視る人体・病気』冒頭に掲載されている。ナイチンゲール看護論において、生命を守るために宇宙・地球というスケールの自然観から学ぶのは何故か、大きくイメージする。</p> <p>2－7回 【「健康の法則、すなわち看護の法則」を生活からつかむ —『看護覚え書』各論—】 本学学部学生が『看護覚え書』各論を日常生活を通して学んできた過程を題材に、「健康の法則、すなわち看護の法則」を「生体と環境との統一」という視座から学ぶ、または教える過程の構造をつかむ。</p> <p>8－9回 【「生命の法則」を生活からつかむ —『看護覚え書』総論—】 本学学部学生が『看護覚え書』序章・おわりにを、「健康の法則、すなわち看護の法則」の学びを土台に学んだ過程を題材に、「生命の法則」の実態を学ぶ、または教える過程の構造をつかむ。</p> <p>10－11回 【「生命の法則」から「健康の法則、すなわち看護の法則」を体系化する —人間観・生活観・健康観—】 本学学部学生が『看護覚え書』の学びを体系化した過程を題材に、「看護観」の土台となる「人間観・生活観・健康観」が築かれていく過程の構造をつかむ。</p> <p>12－14回 【『看護覚え書』から『看護学原論講義』へ —「人間の生活一般」の12項目—】 『看護覚え書』に基づいて築かれた「人間観・生活観・健康観」を、『看護学原論講義』（特に対象論）に基づいて深めていく。</p> <p>15－16回 【総括 —環境科学生命科学の学びとは—】 宇宙・地球スケールの「自然観」から「人間観・生活観・健康観」を築いてきた過程が、どのように看護ないし看護学教育に役立っていくか考察する。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「自然観」を土台に『看護覚え書』にある「健康の法則、すなわち看護の法則」を生活からつかむ。 『看護覚え書』序章・おわりにから「健康の法則、すなわち看護の法則」をとらえ返し、「生命の法則」をつかむ。 『看護覚え書』の学び（1.2.）を体系化し、看護観の土台となる「人間観・生活感・健康観」をつかむ。
評価方法	<p>【評価規準】 授業への参加・質疑応答・発表（60%）、レポート（40%）</p> <p>【評価基準】 S：「生活の体系像」を主体的に他者に指導・教育可能なレベルに達している。 A：「生活の体系像」構築過程を理解し、同僚・後輩スタッフ・患者・学生等へ指導でき始める。 B：「生活の体系像」が理解でき、自らの生活を健康にコントロールできる。その内容を根拠立てて他者に伝えられる。 C：「生活の体系像」が描かれ、安定的に自らの生活を健康に整えていくこと（セルフケア）ができる。 D：Cに達しないレベル。</p>
教科書	<p>『看護学生、宇宙を学ぶ』小河一敏 著、(株)アノック 『看護覚え書』ナイチンゲール著（訳本）、現代社 『看護覚え書』に学ぶ生活科学ガイドブック教員用 小河一敏 著、(株)アノック 『看護学原論講義』、現代社</p>
参考書・参考文献	<p>『看護のための「いのちの歴史」の物語』本田克也他、現代社 『弁証法とはどういう科学か』三浦つとむ著、講談社 『三浦つとむ選集5 ものの見方考え方』三浦つとむ著、勁草書房 『なんごうつぐまさ説く看護学科・心理学科学生への「夢」講義(1)・(2)』南郷継正著、現代社 その他は授業で提示する。</p>
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	履修者の都合により、開講時期・時間は、集中講義等も含めフレキシブルに対応する。 本学導入システムTeamsを用いた遠隔授業も可。

備考・メッセージ	『看護覚え書』は看護者であれば知らない人はない書のようにですが、しっかりと読みこんだ方は実は少ないということ、これまで多くの看護者から聞きました。19世紀の古典で訳文も難しく無理の無いことかもしれませんが、しかし、本学の学部生は理解してきています。この授業では彼らの学びの過程を見ながら、つまり初心に戻っていただいて学生の学びを観念的に追体験していただくことによって、『看護覚え書』を学び直していただきます。そうすると、難解…と思われていたはずの文章が、意外にあっけなく…「なんだこういうことだったのか」と納得されることになります。是非、楽しんで学んで下さったら…と願っています。
----------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
Joel Hensley			
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. To practice reading scientific journal articles in English		
授業計画	1	Course Orientation 1. Review how to search for research articles in the library and online 2. Searching for research articles in English and on English databases 3. Introduction of pre-reading strategies 4. Introduction of glossary and vocabulary study Homework: 1. Vocabulary study 2. Read a selected English abstract	
	2	Purpose Reading 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. Practicing pre-reading strategies Homework: 1. Vocabulary study 2. Critical evaluation and comparative analysis of machine translation	
	3	Critical Evaluation & Comparative Analysis 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. Introduction of in-reading strategies 4. Reading the article's Background section Homework: 1. Vocabulary study 2. Reading the Discussion and Conclusion	
	4	Checking Comprehension 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. Introduction of post-reading strategies 4. Paraphrasing an English abstract Homework: 1. Vocabulary study 2. Post-reading summary	
	5	Assessment & New Article Search 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. In-class translation 4. New article search Homework: 1. Vocabulary study 2. Translating the abstract	
	6	Purposive Reading 2 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. Using pre-reading strategies Homework: 1. Vocabulary study 2. Critical evaluation and comparative analysis of machine translation	
	7	Critical Evaluation & Comparative Analysis 2 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. Using in-reading strategies 4. Reading the article's Background section Homework: 1. Vocabulary study 2. Reading the Discussion and Conclusion	
	8	Checking Comprehension 2 1. Vocabulary quiz	

	<p>2. Homework review 3. Using post-reading strategies 4. Paraphrasing an English abstract</p> <p>Homework: 1. Vocabulary study 2. Post-reading summary</p> <p>9 Assessment & New Article Search 2 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. In-class translation 4. New article search</p> <p>Homework: 1. Vocabulary study 2. Translating the abstract</p> <p>10 Purpose Reading 3 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. Using pre-reading strategies</p> <p>Homework: 1. Vocabulary study 2. Critical evaluation and comparative analysis of machine translation</p> <p>11 Critical Evaluation & Comparative Analysis 3 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. Using in-reading strategies 4. Reading the article's Background section</p> <p>Homework: 1. Vocabulary study 2. Reading the Discussion and Conclusion</p> <p>12 Checking Comprehension 3 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. Using post-reading strategies 4. Paraphrasing an English abstract</p> <p>Homework: 1. Vocabulary study 2. Post-reading summary</p> <p>13 Assessment & New Article Search 3 1. Vocabulary quiz 2. Homework review 3. In-class translation 4. New article search</p> <p>Homework: 1. Reading the Abstract, Background, & Methods</p> <p>14 Checking Comprehension 4 1. Homework review</p> <p>Homework 1. Reading the Results, Discussion, & Conclusion</p> <p>15 Assessment & Review 1. Homework review 2. In-class translation 3. Course Review and wrap-up</p>
授業形態	講義
到達目標	<p>1. To be able to independently find journal articles written in English 2. To be able to read specialized research journal papers in English 3. To learn English vocabulary and expressions for academic purposes</p>
評価方法	<p>1. Active participation in finding and reading journal articles 2. Contribution to the class based on reading assignments 3. Regular vocabulary quizzes</p>
教科書	Articles from professional nursing journals (purchase not necessary)
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	We will arrange the class time schedule individually. At that time, the option of online class meetings can be discussed. Participants are required to do reading and vocabulary assignments every week.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
大館真晴			
添付ファイル			

授業の目的・概要	日本語表現能力の向上を目的とする。母語によるコミュニケーション能力は、理解力・論理的思考力・伝達力などを総合的に必要とし、物事と直面する際の基礎となる能力である。この授業では、実践的にこれらの能力を向上させていきたい。
授業計画	<p>第1回 【会話と文章】</p> <p>1. オリエンテーション 2. 会話と文章の区別の理解 3. 考えを文字化する訓練 課題：講義内容に関するレポート作成、講義時もしくはメール等で指示をいたします。</p> <p>第2回 【文章の分類】</p> <p>1. 目的によって異なる文章区別の理解 2. 読み手が期待する文章を書く訓練 課題：講義内容に関するレポート作成、講義時もしくはメール等で指示をいたします。</p> <p>第3回 【事実と意見の区別】</p> <p>1. 「事実」と「意見」の書き分け 2. 「判断」と「客観性」についての理解 課題：講義内容に関するレポート作成、講義時もしくはメール等で指示をいたします。</p> <p>第4回 【適切な語の選び方】</p> <p>1. 曖昧さを避けた表現の習得 2. 感情表現を避ける技術の習得 課題：講義内容に関するレポート作成、講義時もしくはメール等で指示をいたします。</p> <p>第5回 【読み手が理解しやすい文】</p> <p>1. 正しくしく伝わる文の基本法則 2. 読み手に負担をかけない視点のとり方 課題：講義内容に関するレポート作成、講義時もしくはメール等で指示をいたします。</p> <p>第6回 【読み手の期待に添って展開する文章】</p> <p>1. 文と文を上手につなげる技術の習得 2. 読み手を引きつけながら展開する文章作法の習得 課題：講義内容に関するレポート作成、講義時もしくはメール等で指示をいたします。</p> <p>第7回 【文体の統一】</p> <p>1. 理論的な文書に求められる文体の習得 2. 文末表現以外でなければならない文体の統一 課題：講義内容に関するレポート作成、講義時もしくはメール等で指示をいたします。</p> <p>第8回 【読点の打ち方】</p> <p>1. 読点の役割の理解 2. 読み誤りがないように読点を利用する技術の習得 課題：講義内容に関するレポート作成、講義時もしくはメール等で指示をいたします。</p> <p>第9～15回 【レポート・論文の書き方】</p> <p>1. 基本的な「型」の習得 2. 基本的な「型」を使った実践訓練 課題：講義内容に関するレポート作成、講義時もしくはメール等で指示をいたします。</p>
授業形態	講義
到達目標	<p>1. 文章構成能力の養成 2. 適切な用語の選択と、正確な語法を用いる能力の養成 3. 合理的で適切な手段を選択する能力の開発などを行う 上記のこゝを行いつつ、日本語表現力とともに、論理的思考能力・問題解決能力を磨くことを最終目標とする。</p>
評価方法	授業内外での学習成果物 (50%) 課題レポート (50%)
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
履修条件	特になし

科目等履修	特になし
履修上の留意点	特になし
備考・メッセージ	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎板谷智也（科目調整担当教員：久野暢子）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(目的) 本授業は、社会保障制度を理論的・構造的に分析し、現代の社会課題に対する制度の妥当性や課題を批判的に検討できる力を養うことを目的とします。エビデンスに基づく政策形成の視点を踏まえ、制度改善や政策提言を論理的に構築できる能力を培います。</p> <p>(概要) 社会保障制度の理論、政策形成過程、財政構造、制度評価の枠組みを学びながら、グループワークやフィールドワークを通じて実践的な制度分析を行います。行政データや文献を活用し、地域特性を踏まえた制度の在り方を検討します。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションと研究視点の共有 ① 本科目の目的と到達目標 ② 社会保障制度を研究対象として捉える視点</p> <p>第2回 社会保障の理論枠組みと思想的基盤 ① 社会保障の理念・歴史的展開 ② 再分配・正義・福祉国家論の理論的整理</p> <p>第3回 制度設計の構造分析 ① 制度設計の基本構造 ② 制度設計における価値選択と政策判断</p> <p>第4回 社会保障財政と持続可能性 ① 財政構造の分析枠組み ② 少子高齢化社会における制度再編の論点</p> <p>第5回 高齢者政策の高度分析 ① 地域包括ケアの制度的意義 ② 医療・介護・福祉の統合モデルの検討</p> <p>第6回 障害・生活困窮支援の制度統合 ① 包摂的社会保障の理論 ② 制度横断的支援の構造分析</p> <p>第7回 子ども・家族政策の再構築 ① 家族政策の制度比較 ② 世代間公平と政策設計</p> <p>第8回 精神保健・社会的孤立への制度的対応 ① 孤独・孤立問題の構造 ② 制度的アプローチと地域実装</p> <p>第9回 社会保障と地域格差 ① 地域間格差の構造分析 ② 地域特性を踏まえた制度運用の最適化</p> <p>第10回 社会保障とデータ分析（EBPM） ① 行政データ・統計資料の活用 ② エビデンスに基づく政策形成の理論と課題</p> <p>第11回 政策評価とアウトカム測定 ① 政策評価の理論 ② 定量的・質的評価の統合</p> <p>第12回 危機対応と社会保障制度 ① 災害・感染症と制度の脆弱性 ② レジリエンス強化の制度設計</p> <p>第13回 社会保障制度改革の構造的課題 ① 制度改革のパラダイム転換 ② 国際比較の視点</p> <p>第14回 政策提言演習 ① 研究テーマに基づく制度課題の提示 ② 政策提言案の構築</p> <p>第15回 最終発表と総括 ① 政策提言発表 ② 批判的検討と将来展望</p>
授業形態	対面
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度の理論的枠組みおよび政策形成過程を体系的に理解し、制度の構造を分析できる。 2. 社会的課題に対して、既存の社会保障制度の妥当性・課題・限界を批判的に検討できる。 3. 統計資料や行政データ、先行研究等を活用し、エビデンスに基づいて制度の評価・改善案を構築できる。 4. 専門職としての視点から、地域特性を踏まえた社会保障制度の在り方について論理的に提言できる。 5. グループワークや討議を通じて、多様な立場を踏まえた政策課題を整理し、学術的に議論できる

評価方法	<p>① 政策分析レポート 30点 社会保障制度に関する特定の政策課題を設定し、理論的枠組みおよびデータ・文献に基づいて分析を行う。制度の課題整理と改善の方向性を論理的に示すことを評価する。</p> <p>② 最終発表（政策提言プレゼンテーション） 30点 授業での議論およびフィールドワーク等を踏まえ、制度改善または政策提言を発表する。論理構成、エビデンスの活用、専門職としての視点を総合的に評価する。</p> <p>③ 授業への参加・討議への貢献 20点 グループワーク、ディスカッション、フィールドワークへの主体的な参加態度および議論への貢献度を評価する。</p> <p>④ リアクションペーパーまたはミニ課題 20点 各回の講義内容に対する批判的考察や文献要約等々を評価する。</p>
教科書	なし
参考書・参考文献	授業内で適宜紹介します。
履修条件	
科目等履修	不可
履修上の留意点	本授業では、理論的検討に加え、グループワークやフィールドワークを通じて制度分析および政策提言能力の涵養を図ります。受講者には、主体的な文献読解と議論への積極的参加を求めます。
備考・メッセージ	授業の進捗度によって、授業内容の変更を行う場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
川越靖之			
添付ファイル			

授業の目的・概要	様々な臨床データから複数の診断過程を立て、検査や治療の利益とリスクを考慮し患者のマネジメント法を決定するのが臨床推論である。推論の過程、その中で発生する診断エラー、認知バイアス等について学ぶ。また仮定した症例を用いた症状、臨床所見から実際に推論を行いその方法、エラーの生じる原因について学修、体験する。また後半（10回以降）は、診断エラーを中心に掘り下げて学修し、特に組織としてそれをどう認識し、対処すべきかについて学修する。
授業計画	<p>1回 【臨床推論：その全体像】（川越） 内容：臨床推論について理解しその重要性を把握する。（ABC of 臨床推論 P12-21） 方法：講義</p> <p>2回 【エビデンスに基づいた病歴と身体診察】（川越） 内容：エビデンスに基づいた病歴と身体診察、及びその限界について学修する。（ABC of 臨床推論 P22-31） 方法：講義</p> <p>3回 【診断検査の利用とその解釈】（川越） 内容：診断検査のどのように利用するか、またその解釈について学ぶ。（ABC of 臨床推論 P33-43） 方法：講義</p> <p>4回 【臨床推論のモデル】（川越） 内容：臨床推論のモデルの種類とその内容を学ぶ。（ABC of 臨床推論 P44-54） 方法：講義</p> <p>5回 【認知バイアス】（川越） 内容：メタ認知と認知バイアスを理解し、バイアスを最小限に留める方法を知る。（ABC of 臨床推論 P56-66） 方法：講義</p> <p>6回 【ヒューマンファクター】（川越） 内容：医療におけるヒューマンファクターについて理解する。（ABC of 臨床推論 P67-79） 方法：講義</p> <p>7回 【メタ認知と認知バイアス除去】（川越） 内容：メタ認知がバイアスの影響を減らし意思決定に役立つことを学ぶ。（ABC of 臨床推論 P80-90） 方法：講義</p> <p>8回 【診療と臨床ガイドライン】（川越） 内容：臨床ガイドライン等を利用することによるメリット、デメリットを知る。（ABC of 臨床推論 P91-100） 方法：講義</p> <p>9回 【臨床推論の教育】（川越） 内容：臨床推論における教育理論・方法について理解する。（ABC of 臨床推論 P102-114） 方法：講義</p> <p>10回 【診断プロセスの神髄を知る】（川越） 内容：臨床推論とその中に存在する診断エラーの進歩について学ぶ。（教育資料提供予定） 方法：講義・グループワーク</p> <p>11回 【そもそも診断エラーとは何なのか】（川越） 内容：どのような診断エラーがどのようにして発生するのか学ぶ。（教育資料提供予定） 方法：講義・グループワーク</p> <p>12回 【チーム医療と診断エラー】（川越） 内容：患者協働、チームワーク、個人のパフォーマンスによってどう診断エラーを防ぐかを学ぶ。（教育資料提供予定） 方法：講義・グループワーク</p> <p>13回 【情報技術と診断エラー】（川越） 内容：情報技術（電子カルテ、AI等）を使用することによる診断エラー削減の可能性について学ぶ。（教育資料提供予定） 方法：講義・グループワーク</p> <p>14回 【組織における診断エラー】（川越） 内容：医療関係者の組織の中で生じる診断エラーについて学ぶ。（教育資料提供予定） 方法：講義・グループワーク</p> <p>15回 【診断エラーと教育】（川越） 内容：実際に生じた診断エラーについてのフィードバックと教育はどうやって行うかを学ぶ。（教育資料提供予定） 方法：講義・グループワーク</p> <p>*担当教員は臨床現場で現在働いている医師（川越）が教育・指導を行う。</p>

授業形態	講義、グループワーク
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床推論を理解し診断エラーの起こる過程を理解する 2. エビデンスに基づいた病歴と身体診察を理解する 3. 診断検査の利用とその解釈について理解する 4. 臨床推論のモデルとその種類について知る 5. 認知バイアスを理解する 6. 診断の流れにおけるヒューマンファクターを理解する 7. メタ認知と認知バイアス除去を理解する 8. 臨床ガイドライン等の利用によるメリット、デメリットを知る 9. 臨床推論における教育理論・方法について理解する 10. 症状別に患者を想定し、実際に臨床推論をどう展開していくか 11. 臨床推論と診断エラーの関連性について理解する 12. 組織における診断エラーを学び、その予防について理解する
評価方法	<p>授業及びグループワークへの取り組みの姿勢（学習の振り返り）および毎回の講義に関するレポート作成と行う（60%）。全体を通して臨床推論に関する論文を作成し（20%）、総合評価で判定を行う。</p> <p>1) 論文（80%） 評価の基準：臨床推論に関する理解 実際に臨床推論を用いる場合の注意点、看護職者における臨床推論とは何か、看護に应用する場合の注意点等について論文作成を行う。</p> <p>2) 授業内容に関するレポート・グループワークへの取り組みの姿勢（20%）</p> <p>3) 評価基準：1), 2)の合計を100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 *総点(100点)に対する成績評価区分S~Dは、履修規定通りとする。</p>
教科書	「ABC of 臨床推論 診断エラーを回避する」 Nocola Cooper著（羊土社）
参考書・参考文献	「診断エラー学のすすめ」 志水太郎ら 日経メディカル社（資料として提供予定）
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	授業時には「ABC of 臨床推論 診断エラーを回避する」の教科書を持参すること。
備考・メッセージ	オンライン受講の可否：可